オーナーズマニュアル

MULTISTRADA

MULTISTRADA 1200 PIKES PEAK

オーナーズマニュアル

日本人

MULTISTRADA

MULTISTRADA 1200 PIKES PEAK

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。
本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに　7
安全性ガイドライン　7
本マニュアルで使用されている警告シンボル　8
用途　9
ライダーの義務　10
ライダーの教育　11
服装　12
安全のための"ベストプラクティス"　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　16
車両への積載に関する注意　16
危険物 - 警告　17
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20
オプション / カスタマイズパック　21
インストルメントパネル（ダッシュボード）　28
インストルメントパネル　28
取扱説明書内で使用される頭字語および略語　33
技術用語集　33
機能ボタン　36
パラメーターの設定 / 表示　38
主な機能　56
エンジン回転数表示 RPM　58
車両スピード　62
ライディングモード (Riding Mode)　64
DTC　72
ABS　79
DWC　86
ギア　93
燃料レベル　94
オドメーター (TOT)　96
エンジンクーラント温度　98
時計　100
メニュー機能　101
航続可能距離 (RANGE)　103
トリップメーター1 (TRIP 1)　105
トリップメーター2 (TRIP 2)　107
トリップタイム (TRIP TIME)　108

ラップタイム (LAP time)　110
平均燃費　112
瞬間燃費　114
平均スピード　116
外気温　118
トリップメーター (TRIP MASTER)　120
サブ機能　122
インフォテインメント　125
クルーズコントロール　136
メンテナンス表示 (SERVICE)　139
OIL SERVICE ゼロの表示　140
OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE カウントダウン表示　141
OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE 表示　142
注意 / 警告 (Warning)　143
エラー表示　153
サイドスタンド表示　154
フォグランプ　155
設定メニュー　156
ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)　159
ライディングモードのパーソナライズエンジン調整　162
ライディングモードのパーソナライズDTC レベルの設定　165
ライディングモードのパーソナライズDWC レベルの設定　168
ライディングモードのパーソナライズABS 調整　171
ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (DEFAULT)　174
ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)　176
表示モードの設定　177
PIN CODE　181
PIN CODE の変更　185
LAP　190
ディスプレイ背景の設定　196
日付の設定　199
時計の調整　205
単位の設定　210
Bluetooth デバイス設定　219
インフォメーション (INFO)　230
ライトコントロール　231
イモビライザーシステム　238
キー　239
アクティブキーのバッテリー交換　242
キーの複製　246
PIN CODE による車両の解除　247

運転時に必要なコマンド　251
コマンド類の配置　251
Hands Free システム　252
ハンドルバー左側スイッチ　266
クラッチレバー　270
ハンドルバー右側スイッチ　271
スロットルグリップ　273
フロントブレーキレバー　274
リアブレーキペダル　275
ギアチェンジペダル　276
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整　277

主要構成部品 / 装備　279
車両上の配置　279
燃料フィラープラグ　280
シートロック　282
シート高の調整　285
ヘルメットキャリーケーブル　288
サイドスタンド　289
Bluetooth コントロールユニット　291
電源ソケット　292
センタースタンド　294
ドゥカティサイドバッグ取り付け　296
サイドバッグの使用　301
USB コネクター　305
ウィンドスクリーン調節　306
フロントフォーク調整　307
リアショックアブソーバーの調整　310

運転のしかた　313
慣らし運転の方法　313
走行前の点検事項　315
ABS 装置　317
エンジンの 始動 / 停止　318
車両の発進　321
ブレーキ操作　322
車両の停止　324
パーキング　325
燃料の補給　326
付属アクセサリー　327
フロントセミマッドガードキット　328

主な整備作業とメンテナンス　332
クーラントレベルの点検および補充　332
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検　334
ブレーキパッドの摩耗点検　336
バッテリーの充電　337

トランスミッションチェーン張力の点検　341
チェーンの潤滑　343
チェーン張力ゲージ（付属）の使用　344
リアターンインジケーター　346
ヘッドライトの光軸調整　347
リアビューミラーの調整　349
チューブレスタイヤ　350
エンジンオイルレベルの点検　353
スパークプラグの清掃と交換　355
車両の清掃　356
長期間の保管　358
重要注意事項　358

メンテナンスプログラム　359
メンテナンスプログラム： ディーラーで行うメンテナンス　359
メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス　363

テクニカル仕様　364
重量　364
サイズ　365
補給　366
エンジン　368
デスモドロミック可変タイミングシステム（DTV）　369
性能データ　370
スパークプラグ　370
燃料供給　370
ブレーキ　370
トランスミッション　371
フレーム　372
ホイール　372
タイヤ　372
サスペンション　372
エキゾーストシステム　373
カラーバリエーション　373
エレクトリカルシステム　374

定期点検メモ　381
定期点検メモ　381

はじめに

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。
お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします ページ 359 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。
モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。

正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ。

警告
これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

警告
本モーターサイクルはオンロードと軽度のオフロードでの使用が可能です。程度の激しいオフロードでの走行は推奨されません。車両のコントロールを失い事故を招く危険が高くなります。

警告
本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

警告
ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 450kg を超えないようにしてください。

警告
サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が 30 kg (66 lb) を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。
各サイドバッグにつき最大 10 kg (22 lb)
トップケースは最大 5 kg (11 lb)
タンクバックは最大 5 kg (11 lb)

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは ページ 10 に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください (ページ 321 を参照)。

警告

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要

パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告
燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

警告
燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
サイドバッグ、トップケース、およびタンクバッグ装着時の最高速度は 180 Km/h (112mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 350 の"タイヤ"の段落を参照してください。

重要
サイドバッグ（ドゥカティスペアパーツサービスにてご注文いただけます）を取り付ける場合は、荷物や付属品等を重量に基づいて配分し、サイドバッグ内に均等に収納してください。各サイドバッグを専用のキーロックで閉じてください。

危険物 – 警告

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告
エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント（エチレングリコール）は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。
クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

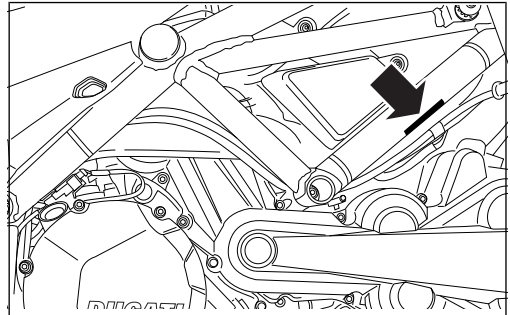


図 1

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

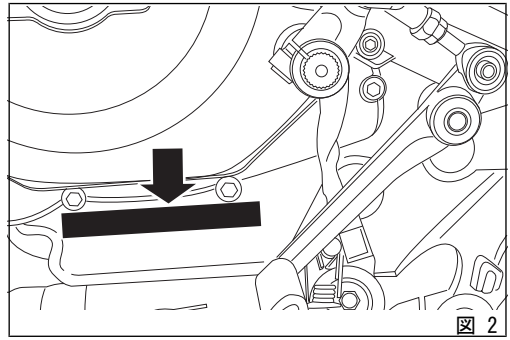


図 2

オプション / カスタマイズパック

カスタマイズパックはそれぞれが異なるバイクスピリットを表現するために考えられました。組み合わせを自由に選べる装備であなたのパーソナリティを表現する Multistrada に仕上げます。

パーソナライズが可能な選択は以下のとおりです。

- TOURING
- URBAN
- ENDURO

本マニュアルに含まれている情報は Multistrada 1200 Pikes Peak に関するものです。それ以外のカスタマイズバージョン（TOURING、URBAN、ENDURO）に関する情報については、Multistrada 1200 Pikes Peak と異なる場合に限り表記されます。

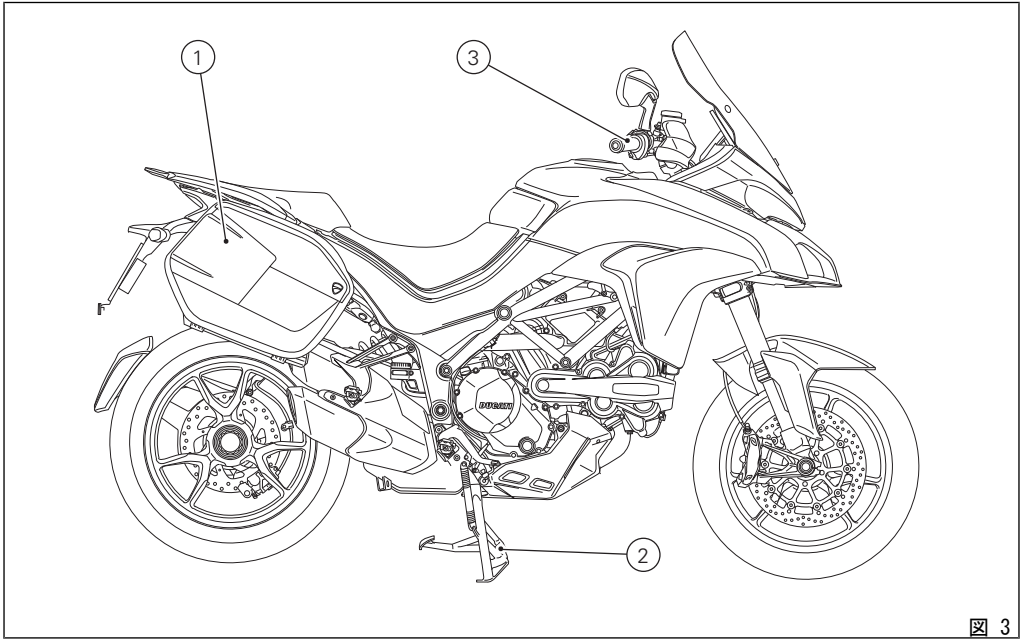


図 3

TOURING

1) サイドケースセット　総容量 58 リットル
2) センタースタンド
3) ヒーテッドグリップ　3 段階調節可能

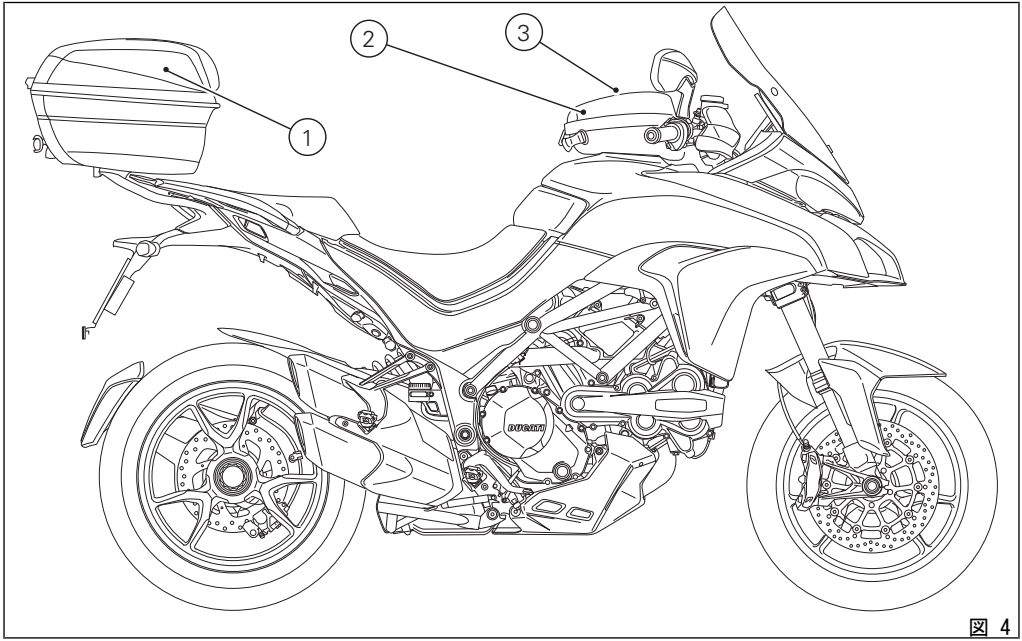


図 4

URBAN

1) トップケース　容量 48 リットル
2) セミハードタンクバッグ（クイック取付）
3) USB ハブ（電子機器充電用）

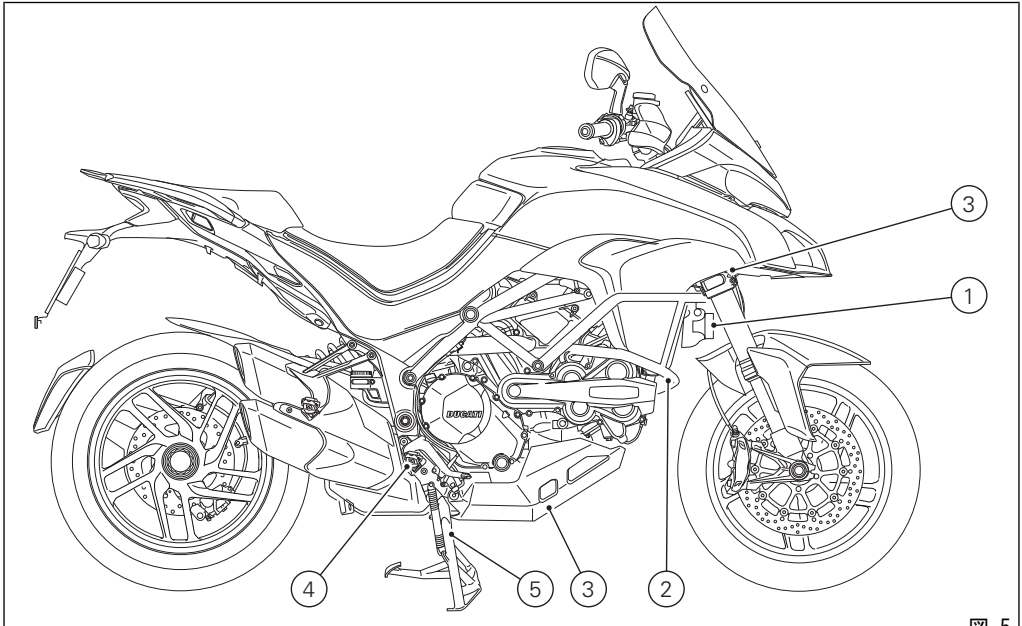


図 5

ENDURO

1) アディショナルランプ
2) スチールパイプ製エンジンガード
3) ラジエータープロテクショングリル
4) オフロード仕様フットペグセット
5) サイドスタンドエンド

インストルメントパネル（ダッシュボード）

インストルメントパネル

1) ディスプレイ
2) ニュートラルランプ N（緑）
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
3) クルーズコントロールランプ（緑）
クルーズコントロールシステムの作動時に点灯します。
4) ハイビーム表示灯 （青）
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
5) リザーブ燃料警告灯 （琥珀色）
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。点灯時点の燃料残量は約 4 リットルです。
6) ターンインジケーター表示灯 （緑）
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
7) エンジンオイル圧警告灯 （赤）
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DTC / DWC ランプ（琥珀色）
DTC/DWC システムの起動または解除を表示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
DTC/DWC 機能作動中	初期化中または性能制限中により、DTC/DWC は起動しているがまだ作動していない	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
DTC/DWC 機能作動中	DTC/DWC は起動しているが、システムの異常により性能が制限されている	BBS コントロールユニット不具合のため、DTC/DWC は解除されているか作動していない

9) "エンジン診断 - MIL" ランプ （琥珀色）
エンジンに関連するエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

10) ABS ランプ (ABS)（琥珀色）
ABS 機能の状態を示します。

走行速度 5 km/h (3 mph) 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
–	初期化中であるか IMU コントロールユニットに異常が発生したため、ABS は起動しているがまだ作動していない	ABS コントロールユニット不具合のため、ABS は解除され作動していない
走行速度 5 km/h (3 mph) 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能作動中	ABS は起動しているが、IMU コントロールユニットが異常を検知	ABS コントロールユニット不具合のため、ABS は解除され作動していない

11) 一般的エラー警告灯（琥珀色）
車両に関連するエラーがあると点灯、エンジンコントロールユニットとは異なるコントロールユニットに起因するエラーに対して点灯します。

12) DTC 介入（琥珀色）

	DTC
介入なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

13) OVER REV / イモビライザー停止（赤）

	Over rev
介入なし	ランプ OFF
第一起点値（リミッターに到達前 N RPM)	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅

参考
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 KEY-ON	ランプ OFF
車両 KEY-OFF	ランプ ON 点滅
1 時間以上車両 KEY-OFF	ランプ OFF

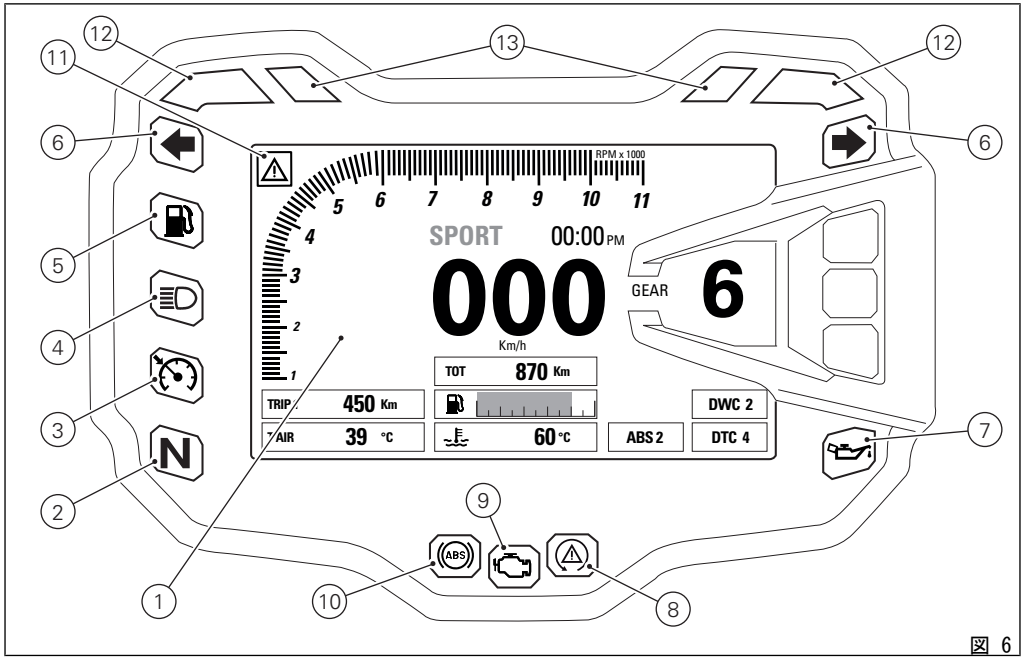

RPM x 1000
5
6
7
8
9
10
11
4
3
2
1
SPORT
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
6
TOT
870 Km
TRIP
450 Km
AIR
39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
ABS
12
13
11
6
5
4
3
2
1
9
10
8
7

図 6

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
LIN
ローカルインターコネクトネットワーク
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
DWC
ドゥカティウィリーコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット

技術用語集

ライディングモード

ライダーは 4 つの初期設定（ライディングモード）からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードでエンジン出力（パワーモード）、ABS、DTC、DWC の各介入レベル、インストルメントパネルの表示を瞬時に変更することができます。
選択可能な設定は、SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。
3 つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- LOW、穏やかなパワーデリバリー
- MED、穏やかなパワーデリバリー
- HIGH、瞬間的なパワーデリバリー

ライドバイワイヤ（RbW）

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。
ライドバイワイヤにより選択したライディングモード（パワーモード）に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エン

ジンブレーキ（EBC）のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御（DTC）に貢献します。

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）9.1ME

Multistrada 1200 が搭載する ABS 9.1ME は、バイクの直立走行中に車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。さらに、Multistrada 1200 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。ブレーキング時の短い制動距離に加えて、可能な限り高い安定性を確保するために、Multistrada 1200 の ABS では後輪のリフトアップ制御、前後輪連動ブレーキが作動します。システムには 3 つの介入レベルがあり、それぞれライディングモードと連動しています。ABS システムは解除が可能です。

ドゥカティウィリーコントロール（DWC）

ドゥカティウィリーコントロール（DWC）はウィリー制御を行い、8 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

慣性計測ユニット（IMU）

Multistrada 1200 は慣性計測ユニット（IMU）を装備する Bosch 慣性センサーを搭載しています。IMU は車両の横傾斜角および縦傾斜角を継続して監視します。 ABS、DWC とのインターフェースとして機能し、バイクのポジションに関係なくこれらのシステムが最大効率で動作できるようにします。

ドゥカティクルーズコントロール

Multistrada 1200 は走行速度を一定に維持するドゥカティクルーズコントロールを提供します。ギアを 2 速以上に入れて速度 50 Km/h (30 mph) ～ 200 Km/h (125 mph) で走行している状態で、システムを作動させることができます。

デスモドロミック可変タイミング (DVT)

DVT システムは、エンジンと負荷と速度に応じて、カムシャフトの回転を調整してエキゾーストバルブとインテークバルブのタイミングを継続的に進角または遅角することで最善のタイミングに調節することができます。これにより低回転域においても最善のトルク曲線を実現し、あらゆる回転域での最大効率を確保しながら、高速走行時に極限の性能を発揮します。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP ″ ▲ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▲ ″。
2) コントロールボタン DOWN ″ ▼ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▼ ″。
3) ランプ起動および切り替え（ハイビーム / ロービーム）ボタン(図 8)
フラッシャーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。
4) メニュー決定 / 設定メニューに入るボタン
メニューの操作で決定するときに使用するボタン。
5) クルーズコントロールボタン - ON/OFF
クルーズコントロール機能の起動 / 解除に使用するボタン。

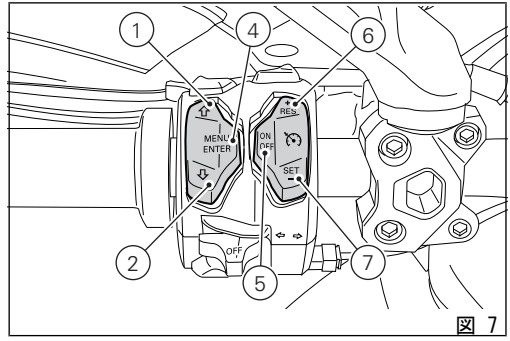


図 7

6) クルーズコントロールボタン - RES（レジューム）/ +（増速）（図 7）
クルーズコントロール機能の設定速度を増速する場合に使用するボタン。
7) クルーズコントロールボタン - SET（設定）/ +（減速）（図 7）
クルーズコントロール機能の速度を設定、および設定速度を減速する場合に使用するボタン。
8) ハザードボタン
4 つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン（ハザード機能）。
9) フォグランプボタン（オプション）
フォグランプ（オプション）の起動 / 解除に使用するボタン。

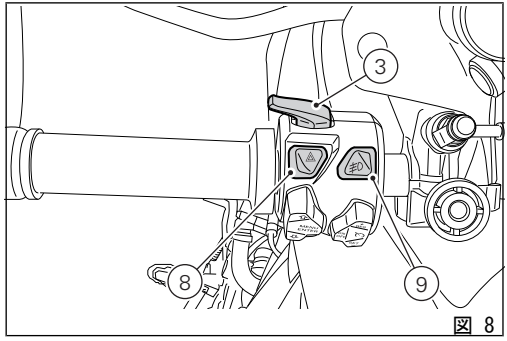


図 8

パラメーターの設定 / 表示

起動時、インストルメントパネルに DUCATI のロゴが表示され、LED ランプが 2 ステップで点灯します（"初期点検"）。
点検終了時、インストルメントパネルには KEY-OFF 前に使用していた設定モード（TRACK、FULL、CORE、OFF ROAD）のメインスクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が 10 km/h（6 mph）（実速度）を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

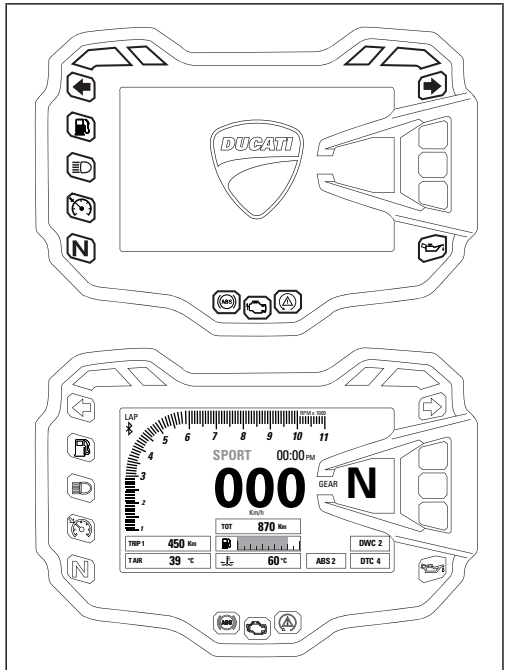


図 9

メインスクリーンのレイアウトには次の 4 種類があります。TRACK、FULL、CORE、OFF ROAD。
TRACK 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) オドメーター
3) 燃料レベル
4) エンジンクーラント温度
5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
6) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
7) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
8) 起動している DWC レベル、または DWC 解除の表示
9) ギア表示
10) 時計
11) タコメーター
12) メニュー 1 (航続可能距離、トリップメーター 1、トリップメーター 2、トリップタイム)
13) メニュー 2 (瞬間燃費、平均燃費、平均スピード、外気温、ラップタイム - 起動時のみ)
14) クルーズコントロール表示
15) Bluetooth 表示
16) LAP 表示 (起動している場合のみ)

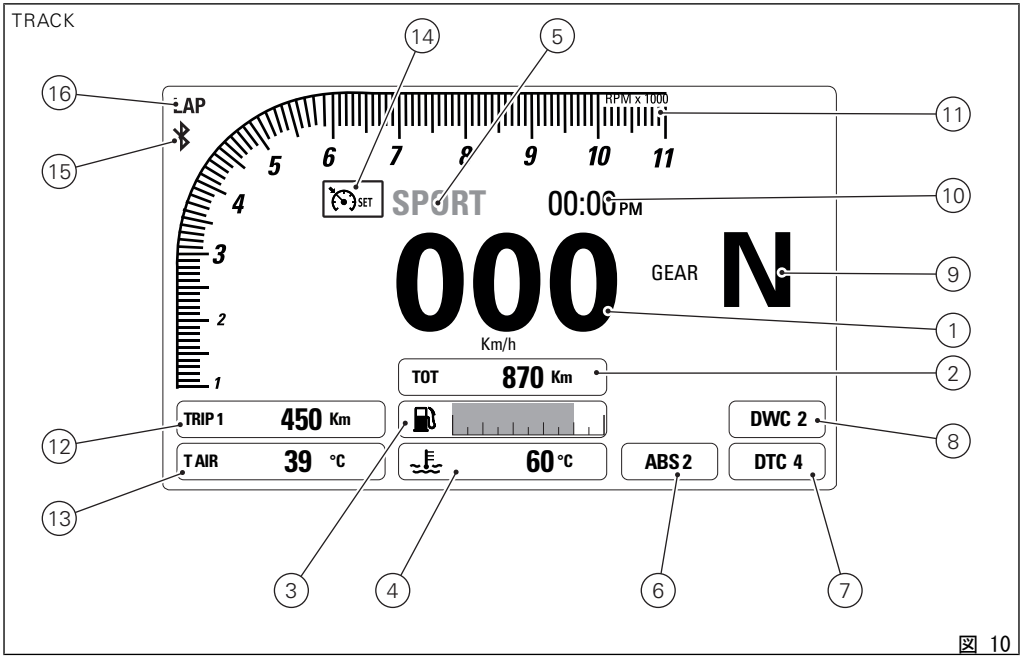

TRACK
14
5
16
15
11
10
9
1
2
12
8
13
3
4
6
7
LAP
RPM x 1000
5
6
7
8
9
10
11
4
3
2
1
SET
SPORT
00:00 PM
000
GEAR
N
Km/h
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
DWC 2
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DTC 4

図 10

FULL 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) オドメーター
3) 燃料レベル
4) エンジンクーラント温度
5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
6) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
7) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
8) 起動している DWC レベル、または DWC 解除の表示
9) ギア表示
10) 時計
11) タコメーター
12) メニュー 1 (航続可能距離、トリップメーター 1、トリップメーター 2、トリップタイム)
13) メニュー 2 (瞬間燃費、平均燃費、平均スピード、外気温)
14) クルーズコントロール表示
15) Bluetooth 表示
16) インフォテインメントメニュー - 接続デバイス / コール受信 / SMS
17) インフォテインメントメニュー - プレーヤー (コール受信) / 電話 (リコール)
18) インフォテインメントメニュー - プレーヤー (音量 / 選曲)
19) LAP 表示 (起動している場合のみ)

FULL

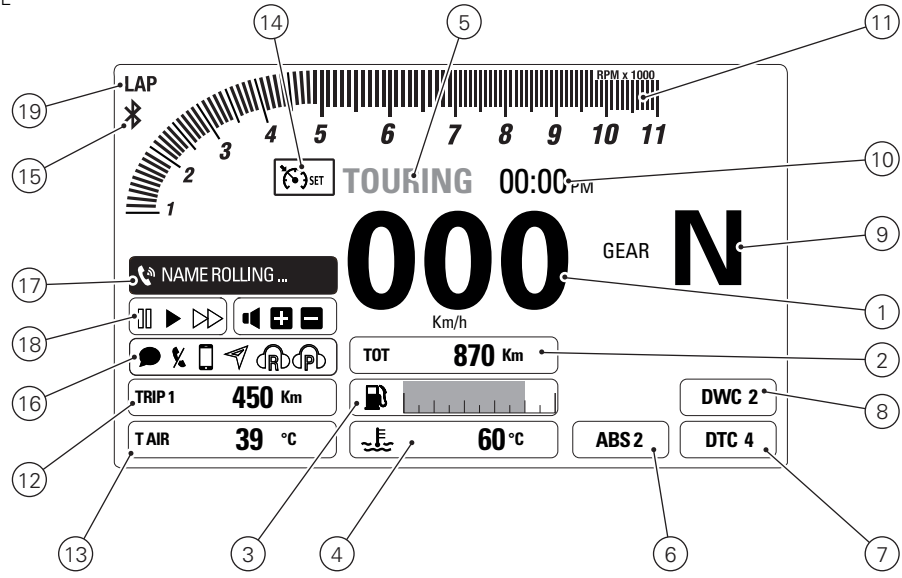

LAP
RPM x 1000
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
SET
TOURING
00:00
PM
000
GEAR
N
Km/h
NAME ROLLING ...
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

図 11

CORE 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) オドメーター
3) 燃料レベル
4) エンジンクーラント温度
5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
6) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
7) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
8) 起動している DWC レベル、または DWC 解除の表示
9) ギア表示
10) 時計
11) メニュー 1 (航続可能距離、トリップメーター 1、トリップメーター 2、トリップタイム)
12) メニュー 2 (瞬間燃費、平均燃費、平均スピード、外気温)
13) クルーズコントロール表示
14) Bluetooth 表示
15) インフォテインメントメニュー - 接続デバイス / コール受信 / SMS
16) インフォテインメントメニュー - プレーヤー (コール受信) / 電話 (リコール)
17) インフォテインメントメニュー - プレーヤー (音量 / 選曲)
18) LAP 表示 (起動している場合のみ)

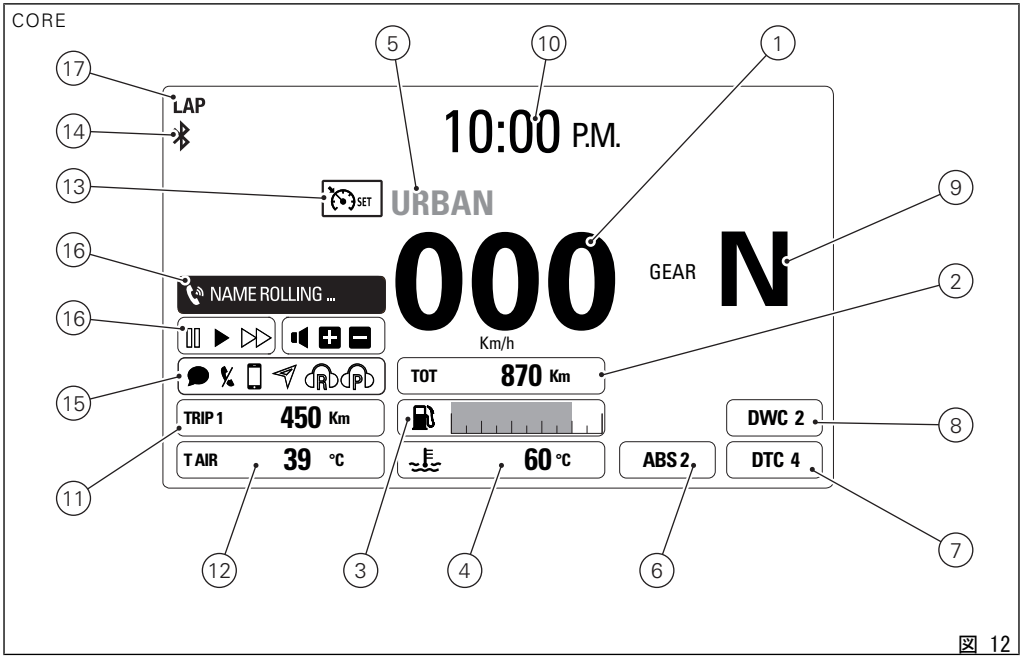

CORE
LAP
10:00 P.M.
URBAN
000
Km/h
GEAR
N
NAME ROLLING ...
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

図 12

OFF ROAD 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) オドメーター
3) 燃料レベル
4) エンジンクーラント温度
5) 設定ライディングモード (Riding Mode)
6) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
7) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
8) 起動している DWC レベル、または DWC 解除の表示
9) ギア表示
10) 時計
11) タコメーター
12) トリップメーター TRIP MASTER
13) 外気温 (T AIR)
14) クルーズコントロール表示
15) Bluetooth 表示
16) 航続可能距離 (RANGE)
17) LAP 表示 (起動している場合のみ)

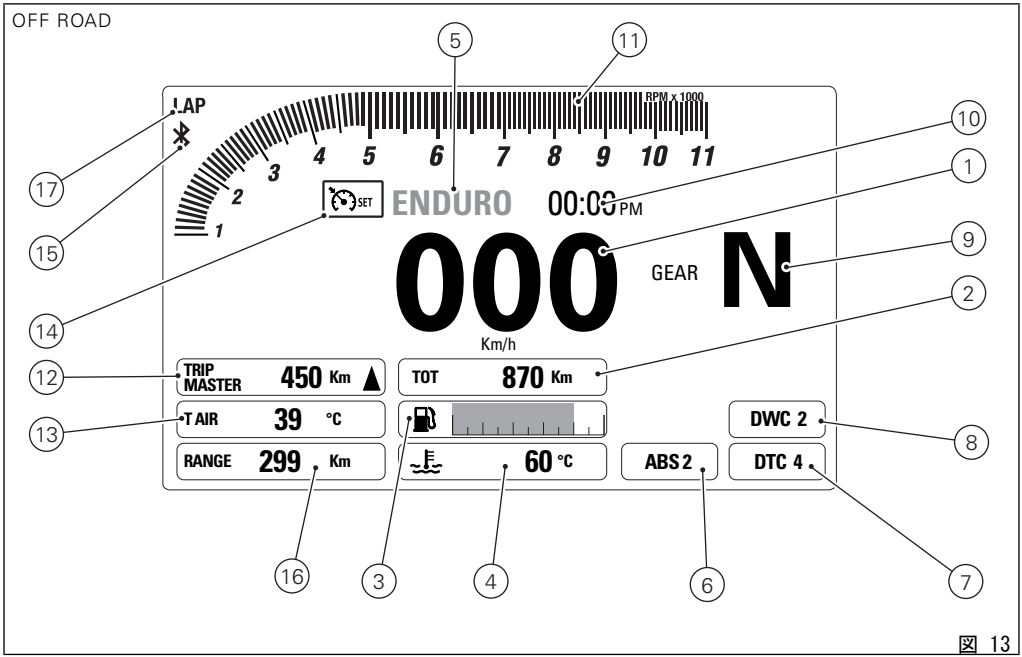

OFF ROAD
LAP
RPM x 1000
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
SET
ENDURO
00:00
PM
000
Km/h
GEAR
N
TRIP MASTER
450 Km
TOT
870 Km
T AIR
39 °C
RANGE
299 Km
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

図 13

左側スイッチのボタン (1) を押すと、TRACK モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- RANGE
- TRIP 1
- TRIP 2
- TRIP TIME

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メニュー 2 の情報を表示することができます。

- ラップタイム (LAP) - 起動時のみ
- 平均燃費 (CONS.AVG)
- 瞬間燃費 (CONS.I)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温

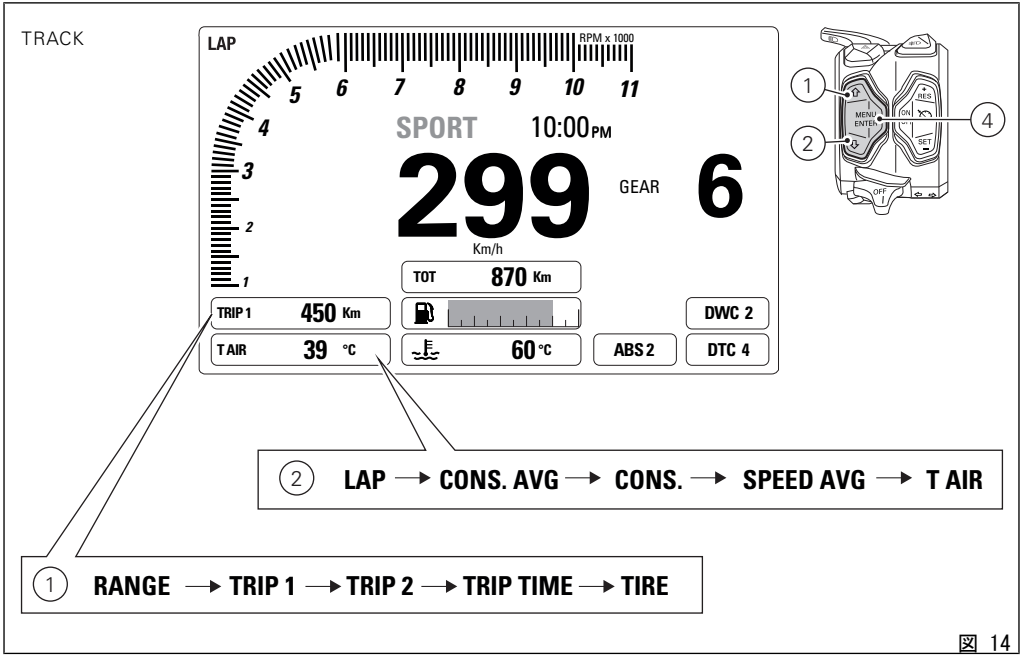

TRACK
LAP
RPM x 1000
5
6
7
8
9
10
11
4
3
2
1
SPORT
10:00 PM
299
Km/h
GEAR
6
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
1
2
4
MENU
ENTER
RES
SET
OFF
2 LAP → CONS. AVG → CONS. → SPEED AVG → T AIR
1 RANGE → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP TIME → TIRE

図 14

左側スイッチのボタン（1）を押すと、FULL モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- RANGE
- TRIP 1
- TRIP 2
- TRIP TIME
- PLAYER ON/OFF（スマートフォン接続時のみ）

左側スイッチのボタン（2）を押すと、メニュー 2 の情報を表示することができます。

- 平均燃費（CONS.AVG）
- 瞬間燃費（CONS.I）
- 平均スピード（SPEED AVG）
- 外気温

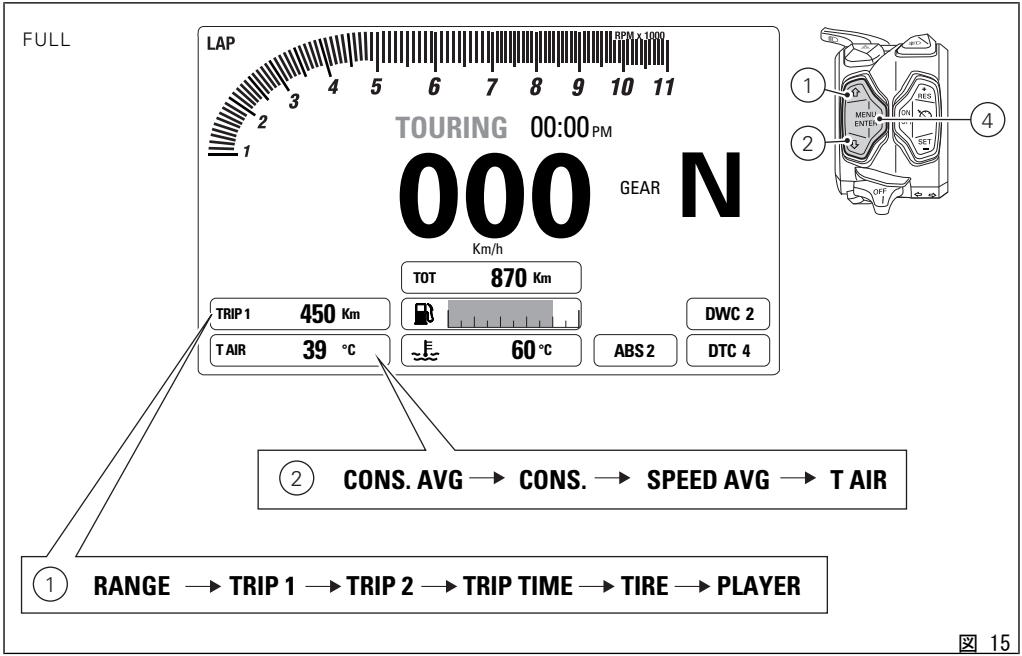

FULL
LAP
RPM x 1000
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
TOURING
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
MENU
ENTER
RES
SET
OFF
1
2
4
2 CONS. AVG → CONS. → SPEED AVG → T AIR
1 RANGE → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP TIME → TIRE → PLAYER

図 15

左側スイッチのボタン (1) を押すと、CORE モードのメインスクリーンにメニュー 1 の情報を表示することができます。

- RANGE
- TRIP 1
- TRIP 2
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL - 起動時のみ)
- PLAYER ON/OFF (スマートフォン接続時のみ)

左側スイッチのボタン (2) を押すと、メニュー 2 の情報を表示することができます。

- 平均燃費 (CONS.AVG)
- 瞬間燃費 (CONS.I)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 外気温

CORE

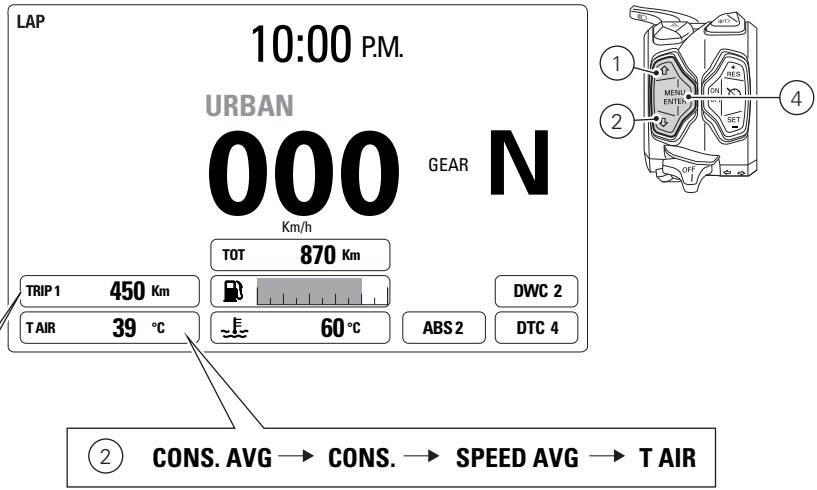

LAP
10:00 P.M.
URBAN
000
Km/h
GEAR
N
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
1
2
4
MENU ENTER
RES
ON
SET
OFF
2 CONS. AVG → CONS. → SPEED AVG → T AIR
1 RANGE → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP TIME → TIRE → PLAYER

図 16

OFF ROAD 表示モードにはメニュー 1 およびメニュー 2 はありません。
メニュー 1 およびメニュー 2 の代わりに "TRIP MASTER"、"T-AIR"、"航続可能距離" 機能が表示されます。左側スイッチのボタン (1) および (2) は "TRIP MASTER" 機能でのみ使用します。

3 通りの表示モード (TRACK、FULL、CORE) では、インストルメントパネルに KEY-OFF 時に使用していたメニュー 1 とメニュー 2 の設定が記憶されます。次の KEY-ON 時、前回記憶したメニュー 1 およびメニュー 2 のページが表示されます。
急な KEY-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合は、次の KEY-ON 時にインストルメントパネルには次のメニュー 1 とメニュー 2 のデフォルト設定が表示されます。

- メニュー 1 デフォルトページ = RANGE (航続可能距離)
- メニュー 2 デフォルトページ = CONS AVG (平均燃費)

設定モードのスタンダードスクリーンが表示されている時に、車両の実速度が 20 km/h (12 mph) 以下の状態でボタン (4) を 2 秒間押し続けると、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。

重要

車両の実速度が 20 km/h (12 mph) 以下の場合に限り、設定メニューに入ることができます。設定メニューが表示されているときに車両の実速度が 20 km/h (12 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了し、スタンダードスクリーンを表示します。

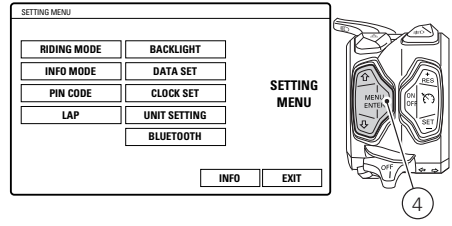


図 17

KEY-ON 時および点検終了時にキーが認識されない場合：

- PIN CODE 機能が有効でない場合、ランプの初期点検が省略され、スタンダードスクリーンにエラーが表示されます。設定メニュー内の PIN CODE 機能にはアクセスできません。
- PIN CODE 機能が有効な場合、インストルメントパネルには解除コードを入力する PIN CODE 機能画面が表示されます。

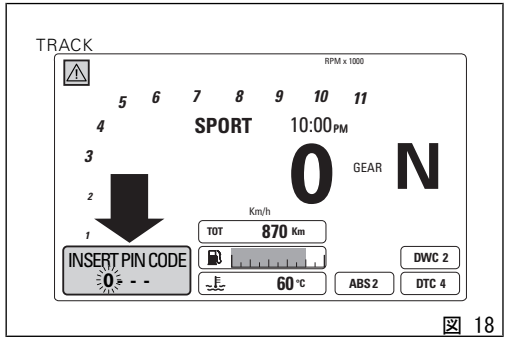


図 18

主な機能

選択した表示モード（TRACK、FULL、CORE、OFF ROAD）のスタンダードスクリーンに表示される機能は以下の通りです。

メイン機能

- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- オドメーター（TOT）
- 燃料レベル
- エンジンクーラント温度
- ライディングモード（Riding Mode）
- ABS
- DTC
- DWC
- ギア
- 時計
- メニューには以下の機能が表示されます。
  - 航続可能距離（RANGE）
  - トリップメーター 1（TRIP1）
  - トリップメーター 2（TRIP2）
  - トリップタイム（TRIP TIME）
  - 瞬間燃費（CONS.）
  - 平均燃費（CONS.AVG）
  - 平均スピード（SPEED AVG）
  - 外気温
  - ラップタイム（LAP time）
  - トリップメーター TRIP MASTER

サブ機能

- LAP
- インフォテインメント - Bluetooth
- クルーズコントロール
- メンテナンス表示（SERVICE）
- 注意 / 警告表示（Warning）
- グリップヒーター（オプション）

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード（RIDING MODE）のパーソナライズ：パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
  - エンジン調整（ENGINE）
  - DTC レベルの設定（DTC）
  - DWC レベルの設定（DWC）
  - ABS 調整（ABS）
  - デフォルト設定の回復（DEFAULT）
- 表示モード設定（INFO MODE）
- PIN CODE（入力/変更）
- LAP（表示/削除/自動設定の回復）
- ディスプレイの背景の設定（BACK LIGHT）
- 日付の調整（DATE SET）
- 時計の調整（CLOCK SET）
- 単位の設定（スピード - 温度 - 燃費）（UNIT SETTING）
- Bluetooth 設定（ペアリング / ペアリングデバイスの削除）
- 一般情報の表示（INFO）バッテリー電圧 - エンジン回転数デジタル表示 - Bluetooth バージョン

エンジン回転数表示 RPM

インストルメントパネルがエンジン回転数情報を受信すると、そのデータをディスプレイに棒グラフで表示します（表示モードが TRACK、FULL、OFF ROAD の場合のみ）。データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフの目盛りと、千単位の数字（例えば RPM の値が "8000" 以上の場合、数字 "8" が大きい文字で表示）で表示されます。
回転数が 8500 から 10500 の場合（予告ゾーン）、棒グラフの目盛りと数字 "10" がディスプレイにオレンジ色で表示されます（オレンジゾーン）。
回転数が 10500 から 11000 の場合（警告ゾーン）、棒グラフの目盛りと数字 "11" がディスプレイに赤色で表示されます（レッドゾーン）。

TRACK 表示モードのエンジン回転数表示は FULL および OFF ROAD 表示モードのエンジン回転数表示とは異なります。
CORE 表示モードにはエンジン回転数表示はありません。

TRACK

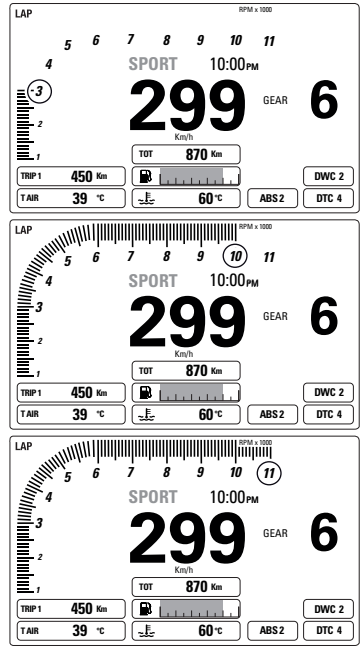
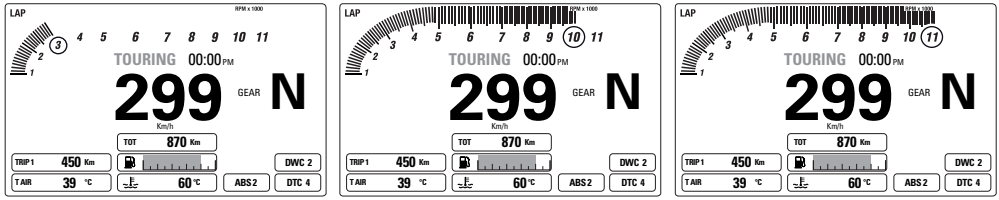


図 19

FULL



OFF ROAD

20

リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯が点灯します。

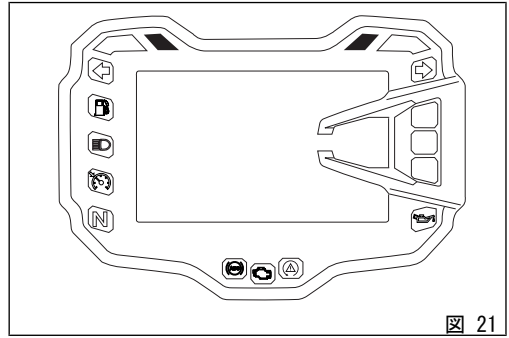


図 21

車両スピード

インストルメントパネルは車両の実速度（km/h で算出）情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h または mph）で表示します。

以下の場合には "- - -" と単位が表示されます。

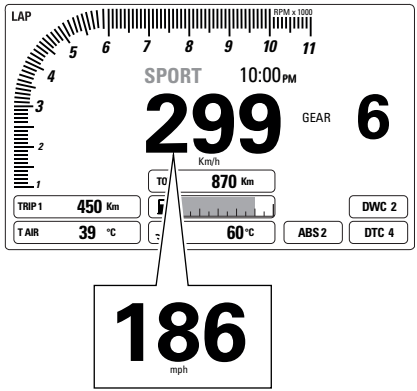
- スピード = 299 km/h か 186 mph の場合、またはインストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合（“- - -” 点灯）
- リアスピードセンサーに異常がある場合（"- - -" 点滅）

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

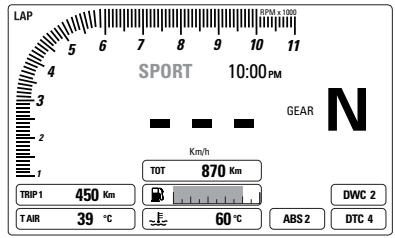
参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

TRACK



TRACK



TRACK

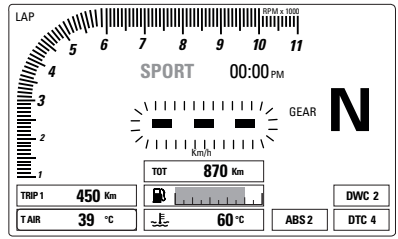


図 22

ライディングモード (Riding Mode)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定されている 4 通りのライディングモード SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO から選択します。
現在設定されているライディングモードは、ディスプレイ上部の走行速度表示の上に表示されます。この表示は 4 通りの表示モードすべてに共通します。
それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- DWC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8、OFF)
- ABS システムの許容値 (1、2、3、OFF)
- スロットル作動を変更するエンジン出力 (HIGH、MEDIUM、LOW)

各ライディングモードには情報を表示する標準画面がそれぞれ設定されています (TRACK、FULL、CORE、OFF ROAD)。標準画面はドゥカティ社の初期設定、もしくはユーザーが設定機能ページから変更することができます。ドゥカティ社が設定する表示モードは以下の各ライディングモードと連動しています。

- TRACK 表示モードとライディングモード SPORT
- FULL 表示モードとライディングモード TOURING
- CORE 表示モードとライディングモード URBAN
- OFF ROAD 表示モードとライディングモード ENDURO

警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください (低速での変更をお勧めします)。

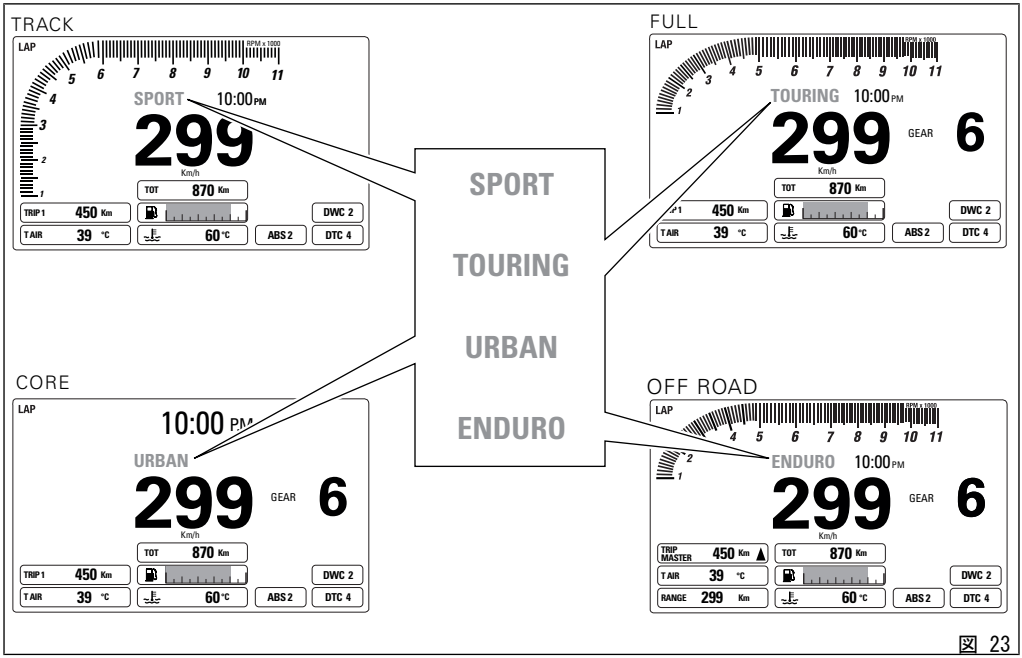

TRACK
LAP
RPM x 1000
SPORT
10:00 PM
299
Km/h
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
FULL
LAP
TOURING
10:00 PM
299
GEAR
6
Km/h
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
CORE
LAP
10:00 PM
URBAN
299
GEAR
6
Km/h
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
OFF ROAD
LAP
ENDURO
10:00 PM
299
GEAR
6
Km/h
TRIP MASTER 450 Km
TOT 870 Km
T AIR 39 °C
RANGE 299 Km
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4

図 23

ライディングモードの選択

メニュー決定ボタン（4）を押し、ライディングモード選択メニュー（A）に入ります。インストルメントパネルには速度が表示（ディスプレイの右側）されたまま、ライディングモード名（ディスプレイの左側）が表示されます。

- SPORT
- TOURING
- URBAN
- ENDURO

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が強調表示されます。

強調表示されたライディングモードには、それに連動したいくつかの以下のパラメーターに関連する情報が表示されます。

- エンジン出力 (ENGINE) : "ENGINE" の文字に続いて設定エンジン出力 (HIGH、MEDIUM、LOW)。
- ABS システム : ABS システムが ON の場合は "ABS" の文字に続いて設定レベル (1、2、3)、ABS システムが OFF の場合は "ABS" の文字に続いて "OFF" の文字。
- DTC システム : DTC システムが ON の場合は "DTC" の文字に続いて設定介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8)、DTC システムが OFF の場合は "DTC" の文字に続いて "OFF" の文字。
- DWC システム : DWC システムが ON の場合は "DWC" の文字に続いて設定介入レベル (1、2、3、4、5、6、7、8)、DWC システムが OFF の場合は "DWC" の文字に続いて "OFF" の文字。

表示される情報は、各ライディングモード毎に記憶されている値です。保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがパーソナライズした値です。メニュー決定ボタン (4) を押す度に、表示可能な関連するパラメーター (A、 図 24) と一緒にライディングモードが強調表示されます。

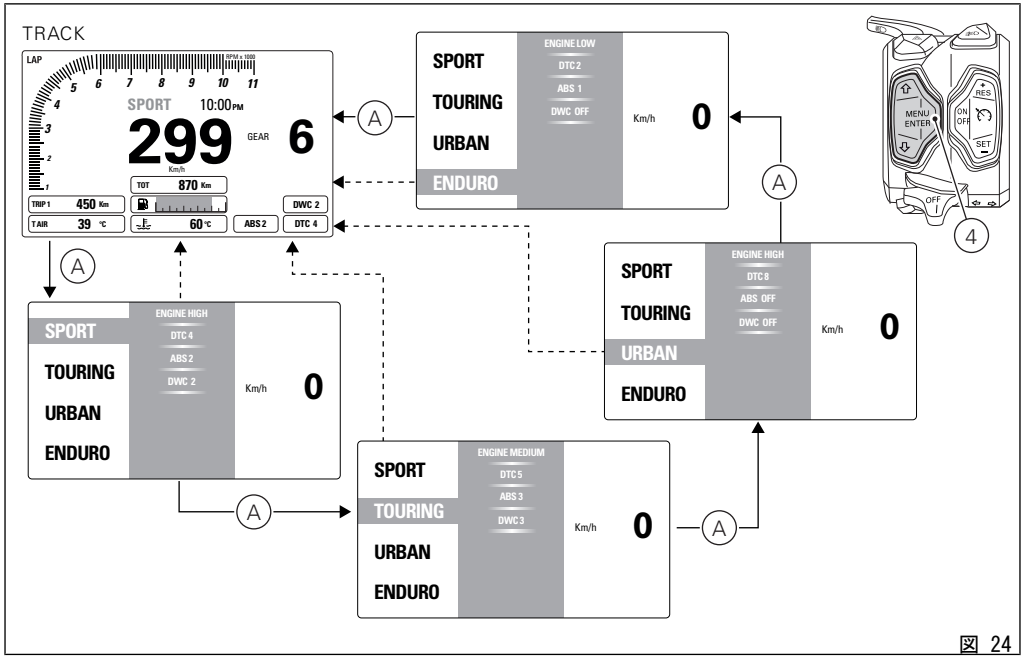

TRACK
LAP
SPORT
10:00PM
299
Km/h
GEAR
6
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DTC 4
DWC 2
A
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
ENGINE LOW
DTC 2
ABS 1
DWC OFF
Km/h
0
ENGINE HIGH
DTC 4
ABS 2
DWC 2
ENGINE HIGH
DTC 8
ABS OFF
DWC OFF
ENGINE MEDIUM
DTC 5
ABS 3
DWC 3
MENU ENTER
RES
ON OFF
SET
OFF
4

図 24

選択したいライディングモードが強調されたら (A、図 25)、メニュー決定ボタン (4) を 2 秒間押し続け、希望のライディングモードを決定します。ライディングモードの変更が保存され、選択したライディングモードの標準画面 (C、 図 25) に戻ります。
選択したいライディングモードが強調されても 5 秒以内にメニュー決定ボタン (4) を押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

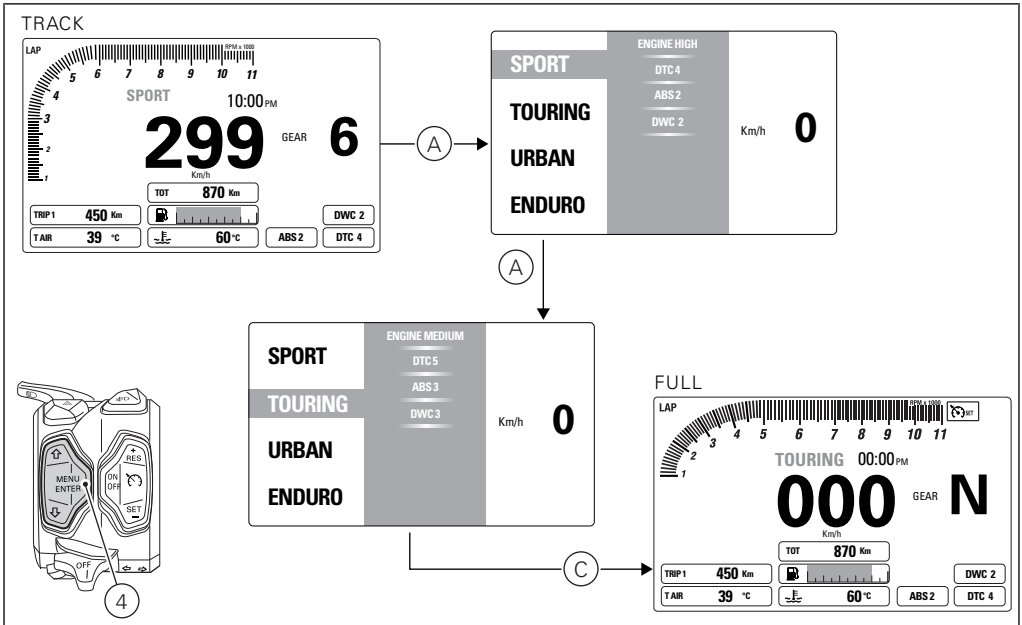

TRACK
LAP
SPORT
10:00 PM
299
Km/h
GEAR
6
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
A
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
ENGINE HIGH
DTC 4
ABS 2
DWC 2
Km/h
0
A
SPORT
TOURING
URBAN
ENDURO
ENGINE MEDIUM
DTC 5
ABS 3
DWC 3
Km/h
0
MENU ENTER
RES
ON OFF
SET
OFF
4
FULL
LAP
TOURING
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
C

図 25

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

- 停車している場合、インストルメントパネルはスロットルコントロールが閉じているか開いているかどうかのみを確認し、必要に応じて "CLOSE THROTTLE"（スロットルを閉じてください）と表示します。
- 車両が動いている場合、インストルメントパネルはスロットルコントロールが開いているか閉じているかどうか、またはブレーキが踏み込まれているかどうかを確認します。この場合は、"CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES"（スロットルを閉じてブレーキを放してください）、"CLOSE THROTTLE"（スロットルを閉じてください）、あるいは "RELEASE BRAKES"（ブレーキを放してください）のいずれかのメッセージが表示されます。

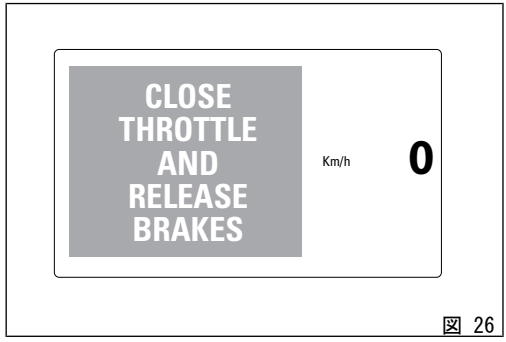


図 26

DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が ON の場合、DTC の文字とトラクションコントロール介入レベル 1 から 8 までの数値
- DTC が ON の時に異常が発生したためシステムが機能制限モードである場合は、"DTC" の文字とトラクションコントロール介入レベル 1 から 8 までの数値（点滅）、さらに DTC / DWC ランプ点滅
- DTC が OFF の場合、DTC OFF の文字
- システムに異常が発生した場合は、"DTC" の文字と介入レベル 1 から 8 までの数値（オレンジ色）

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

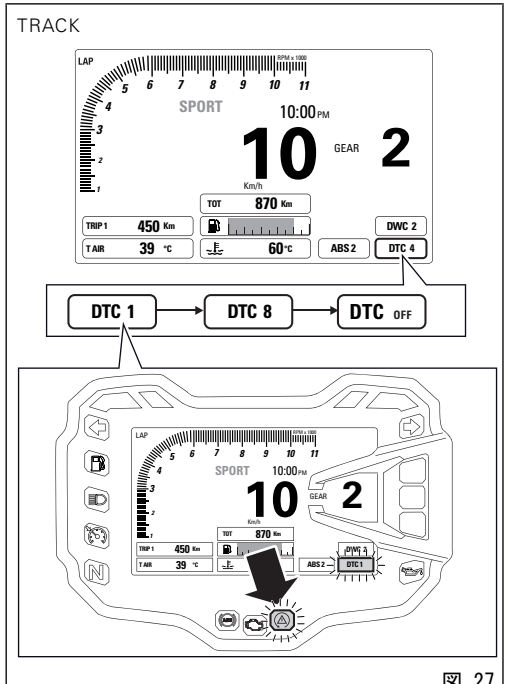


図 27

DTC のエラーもしくは Black Box エラーの場合は、インストルメントパネルは "DTC Err" の文字を表示し、DTC/DWC ランプを点灯します。

警告
システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

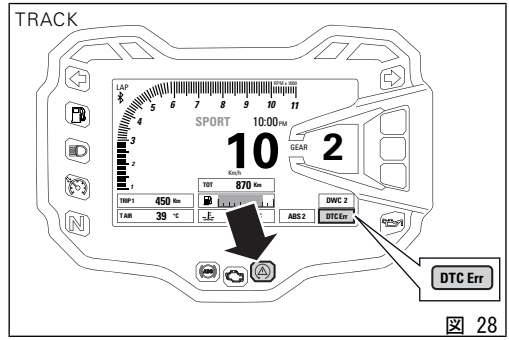


図 28

警告
DTC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時、オフロード走行時のすべてにおいて使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適した DTC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な ″ライディングモード″ のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	OFF-ROAD Professional	このレベルは特に熟練したライダー向けオフロード走行専用に設計されています（ストリートでの使用は推奨されません)。このモードでは、DTC はリアホイールの激しいスピンを許容します。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	NO
2	OFF-ROAD	このレベルは初級ライダー向けオフロード走行専用に設計されています（ストリートでの使用は推奨されません)。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	ライディングモード ″ENDURO″ のデフォルトレベル

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
3	SPORT / TRACK	このレベルは特に熟練したライダー向けにグリップの良い路面でのサーキット走行用に設計されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
4	SPORT	このレベルはグリップの良い路面でのサーキット走行用およびストリート走行用に設計されています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
5	TOURING	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。	ライディングモード "TOURING" のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。	ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れたアスファルト路面でのストリート走行用に設計されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告
選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DTC システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 190/55ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル 8 を選択すると、DTC はリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル 8 とレベル 1 の間には、その他に 6 つのレベルが存在します。DTC の介入度はレベル 8 から 1 に向かい減少します。

レベル 1 および 2 はオフロードでの使用を念頭においたもので、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。
レベル 3、4 では DTC コントロールユニットはリアタイヤにカーブ出口でのスピンおよびスリップを許容します。これらのレベルはサーキット内での使用および熟練者の使用時に設定することが推奨されます。
正しいレベルの選択は、3 つの観点から行います。

1) グリップ（タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）
2) レイアウト/行程（同じような、または全く異なったスピードでのカーブ）
3) ライディングスタイル（より ″スムーズ″ に、またはより ″シャープ″ に）

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。グリップが弱い場合には、DTC が確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 6、 5、4 と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します。過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル 6 (ライディングモード "URBAN" のデフォルトレベル) に設定して走行することをお勧めします。DTC が介入しすぎると感じる場合には、レベルを 5、4 と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更した時に、設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例 : レベル 7 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します)。

オフロードでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル 2 (ライディングモード "ENDURO" のデフォルトレベル) に設定して走行することをお勧めします。DTC が介入しすぎると感じる場合にはレベル 1 を試してください。

ABS

車両には ABS システムが搭載されています。インストルメントパネルは ABS ランプを消灯、点滅、点灯させて ABS 機能のステータス（ON または OFF）を表示します。

インストルメントパネルの表示：

- ABS が ON の場合、"ABS" の文字と設定介入レベル 1 から 3 までの数値（固定表示）
- ABS が ON の時に異常が発生したため（「コーナリング」機能がない）？？システムが機能制限モードである場合は、"ABS" の文字と ABS 介入レベル 1 から 8 までの数値（点滅）、さらに ABS ランプ点滅
- システムに異常が発生した場合は、"ABS" の文字と介入レベルの数値（オレンジ色）

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

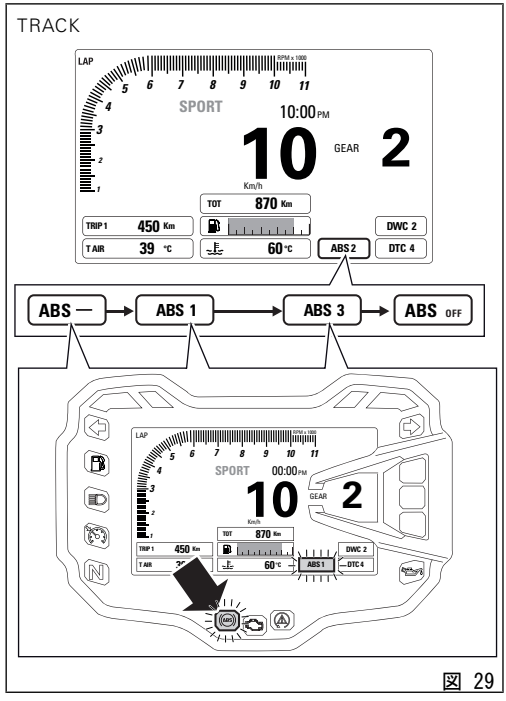


図 29

ABS エラーの場合は、インストルメントパネルは ″ABS Err″ の文字を表示し、ABS ランプを点灯します。

警告
システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS が OFF の場合、インストルメントパネルは ″ABS OFF″ の文字を表示し、ABS ランプを点灯します。

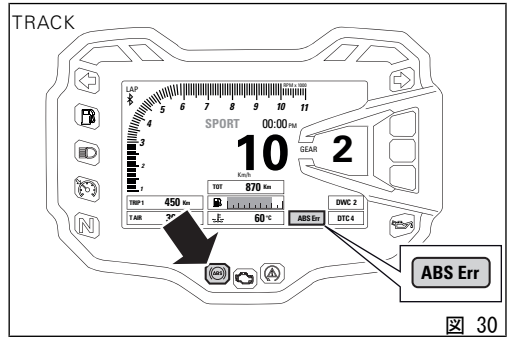


図 30

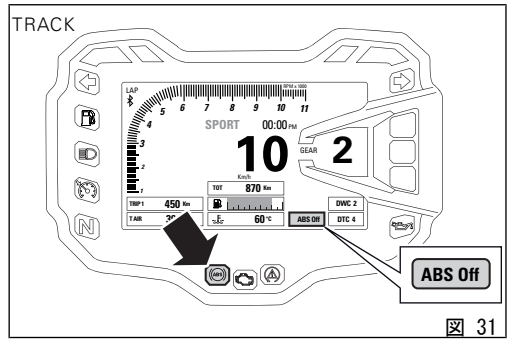


図 31

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントブレーキシステムおよびリアブレーキシステムは個別に制御されません。本車両が搭載する ABS システムは、フロントブレーキが操作されるとリアブレーキシステムも作動する電子制御による連動ブレーキングを行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。

Multistrada 1200 が搭載する ABS システムは、車両を倒した状態においても ABS 機能が作動する「コーナリング」機能も備えます。この機能は、車両の傾斜角度に応じてフロントブレーキとリアブレーキに作用します。車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で、車輪のロックおよびスリップを防止することを目的としています。

インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベル OFF を選択すれば、システムの解除が可能です。

警告

たとえ連動ブレーキ機能（フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動）が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり（リフトアップ）、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレー

キを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。
長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。
規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な ″ライディングモード″ のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF		ABSシステム解除	NO
1	OFF-ROAD	このレベルは熟練ライダー向けオフロード走行専用に設計されています（ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、リアホイールをロックし、ABS はフロントホイールにのみ作用します（オフロードでのブレーキングをアシスト)。 このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、前後輪連動ブレーキ機能は作動しません。また、コーナリング機能も作動しません。	ライディングモード ″ENDURO″ のデフォルトレベル

ABS	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
2	SPORT	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります（連動ブレーキ）。また、コーナリング機能も作動します。 このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようなっています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
3	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります（連動ブレーキ）。また、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能も作動します。	ライディングモード "TOURING" および "URBAN" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABS システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 190/55ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル 3 を選択すると、ABS システムはリフトアップ制御と前後輪連動ブレーキを行うことで非常に安定したブレーキングが可能になり、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。レベル 3 において、ABS システムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。レベル 2 を選択すると、ABS システムは安定性やリフトアップ制御よりみブレーキカを優先します。リフトアップ制御はレベル 2 では作動しません。レベル 2 では前後輪連動ブレーキとコーナリング機能が作動します。

ABS システムのレベル 1 の使用はオフロード走行専用になります。オフロードでのブレーキングを重視して ABS はフロントホイールにのみ作用します。このレベルいおいてはリフトアップ制御、前後輪連動ブレーキ、コーナリング機能のいずれも作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/路面のグリップ（タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）。
2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 3 の使用が推奨されます。

DWC

インストルメントパネルはディスプレイに DWC 機能の状態を以下のように表示します。

- DWC が ON の場合、"DWC" の文字と設定されているウィリー制御介入レベル 1 から 8 までの数値
- DWC が ON の時に異常が発生したためシステムが機能制限モードである場合は、"DWC" の文字と DWC 介入レベル 1 から 8 までの数値（点滅）、さらに DTC / DWC ランプ点滅
- DWC が OFF の場合、"DWC OFF" の文字
- システムに異常が発生した場合は、"DWC" の文字と介入レベル 1 から 8 までの数値（オレンジ色）

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

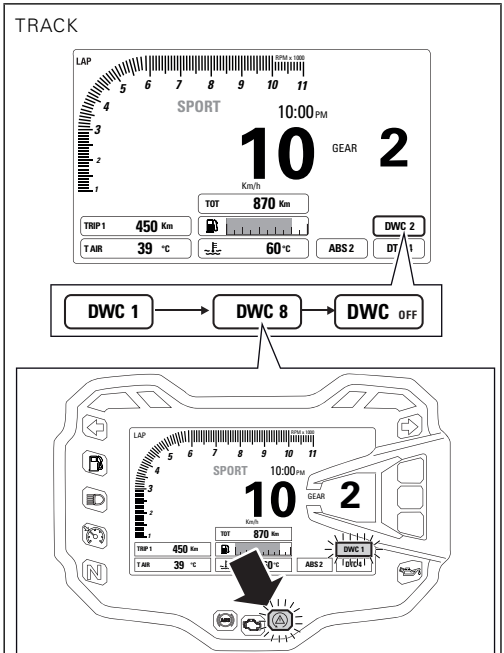


図 32

DWC のエラーもしくは Black Box エラーの場合は、インストルメントパネルは "DWC Err" の文字を表示し、DTC/DWC ランプを点灯します。

警告
システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

参考
DTC が OFF に設定されている場合は、DWC も強制的に OFF に設定されます。

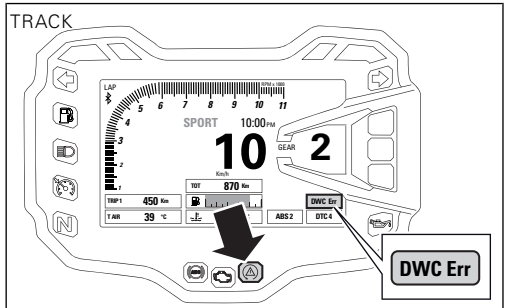


図 33

ドゥカティウィリーコントロール（DWC）はウィリー制御を行い、8 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

警告

DWC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適した DWC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な ″ライディングモード″ のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC	用途		DEFAULT
OFF		DWC システム解除	NO
1	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード ″SPORT″ のデフォルトレベル
3	SPORTIVE	熟練ライダー向けサーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	ライディングモード ″TOURING″ のデフォルトレベル
4	SPORTIVE	すべてのライダー向け、サーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	NO

DWC	用途		DEFAULT
5	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード"URBAN"のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
7	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWC システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 190/55ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

DWC のレベル 8 を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル 8 からレベル 1 の順に DWC システムの介入レベルが小さくなります。レベル 1、2、3 ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。
主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験
- レイアウト/行程（低速ギアでの立ち上がり、もしうは高速ギアでの立ち上がり）

ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル 1、2、3 を適切に利用するためには高い能力が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することが可能です。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル 8 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 7、6 と変えながら最適な DWC レベルに達するまで調整します（タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します）。

一般道での使用時のアドバイス

DWC を起動した後、レベル 8 を選択し、好みのスタイルで運転します。DWC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 7、6 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します（例：レベル 7 では DWC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DWC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します）。

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。
ギアが挿入されている時は 1 から 6 の値が表示され、ニュートラルの時は N の文字が表示されます。
ギアの学習が実施されていない場合やインストルメントパネルがギアデータを受信できない場合は、"--" が点滅表示されます。
ギアセンサーエラーの場合は、"--" が固定表示されます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

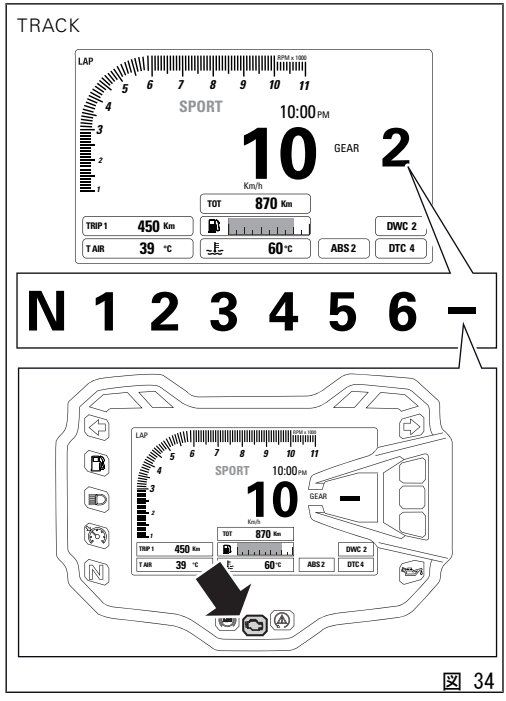


図 34

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。
燃料レベルが 2 目盛りまで下がるとリザーブランプが点灯します。また目盛りがオレンジ色に変わり、燃料ポンプマークがオレンジ色に点灯します。これはフューエルタンク内の燃料残量が約 4 リットルであることを意味します。
レベルがさらに下がると、最後の目盛りが赤色に点滅し、燃料ポンプマークが赤色に点灯します。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

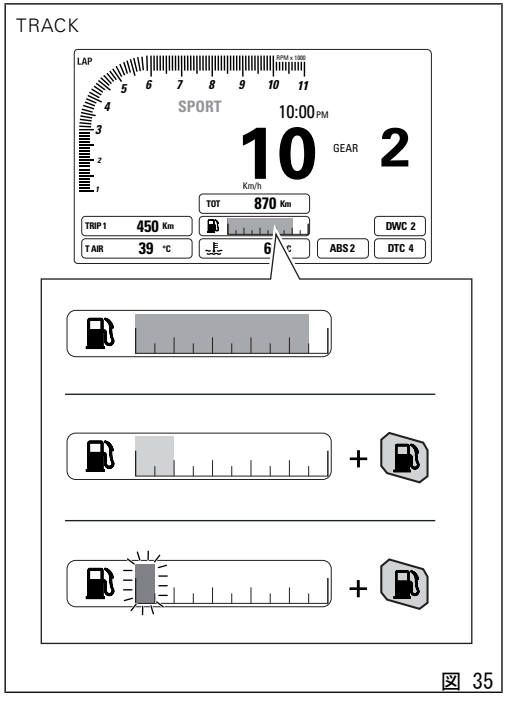


図 35

参考

レベルセンサーにエラーや異常が発生した場合は、目盛りは表示されません。燃料ポンプマークが赤色に点滅し、一般的エラー警告灯が点灯します。

オドメーター（TOT）

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値（キロ またはマイル）は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値（199999 km または199999 mi）に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

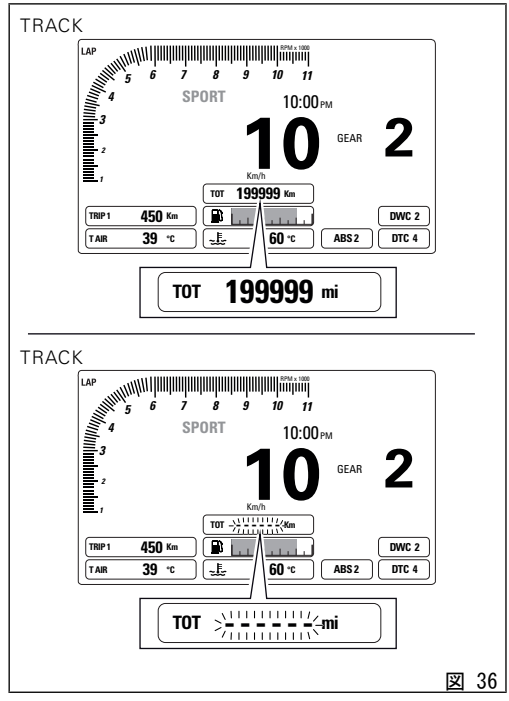


図 36

電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

参考
オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報（° C）を受信し、設定単位（° C または ° F）に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。

エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ～ +120 ° C（+104 ° F ～ +248 ° F）です。

データが以下の場合：

- -40 ° C（-40 ° F）以下の場合、″ - - - ″が点滅表示されます。
- -39 ° C（-38 ° F）～ +39 ° C（+102 ° F）の場合、″ LOW″が点灯します。
- +40 ° C（+104 ° F）～ +120 ° C（+248 ° F）の場合、データが固定表示されます。
- +121 ° C（+250 ° F）以上の場合、″HIGH″が赤色で点滅します。また、クーラント温度マークが赤色に点灯します。

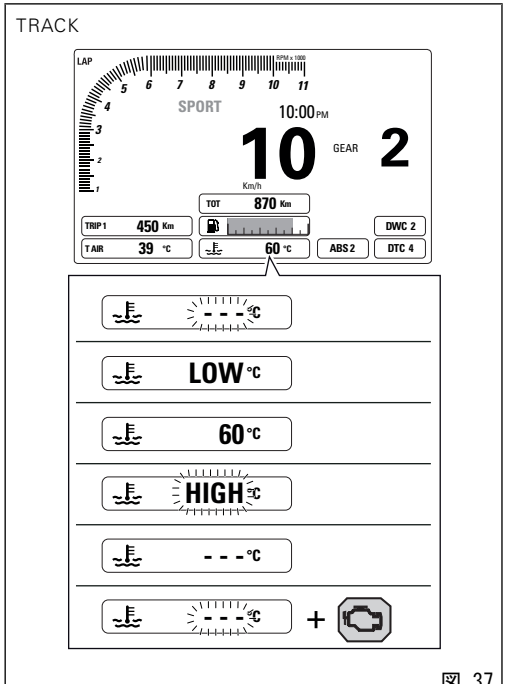


図 37

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に ″– – –″ が点滅表示されます。さらに MIL ランプが点灯します。
インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に ″– – –″ が固定表示されます。

参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。
インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- hh（時間）：mm（分）
- "a.m."(12:00 から 11:59)、または
  "p.m."(12:00 から 11:59)。

電源供給が中断された場合（Battery OFF）は、次回の Key-ON 時に 4 本の点線 " - - :- - " が表示され、設定メニューから時計が設定されるまで中央のコロンが点滅します。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

TRACK

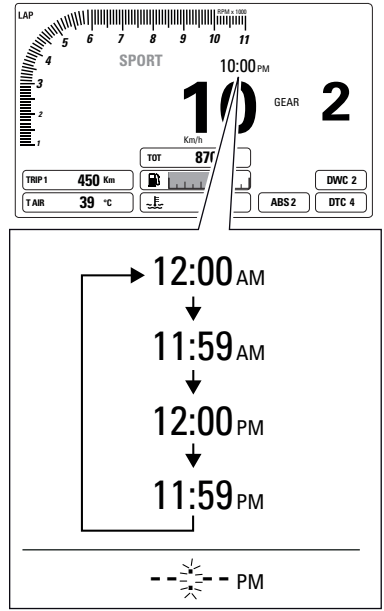


図 38

メニュー機能

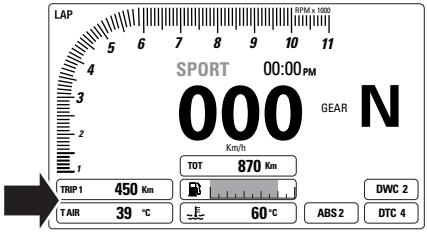
4 種類のライディングモード設定（SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO）のそれぞれについて、メニュー機能が以下の 4 種類の表示モードのいずれかで表示されます。

- TRACK
- FULL
- CORE
- OFF ROAD

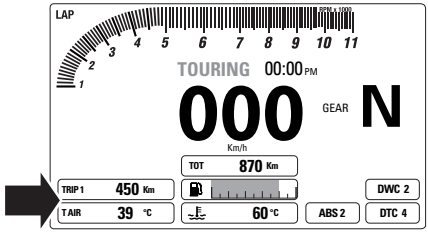
機能は以下の通りです。

- 航続可能距離（RANGE）
- トリップメーター 1（TRIP1）
- トリップメーター 2（TRIP2）
- トリップタイム（TRIP TIME）
- 瞬間燃費（CONS.）
- 平均燃費（CONS AVG）
- 平均スピード（SPEED AVG）
- 外気温
- ラップタイム（LAP time）（起動時のみ）
- トリップメーター TRIP MASTER（表示モード OFF ROAD のみ）

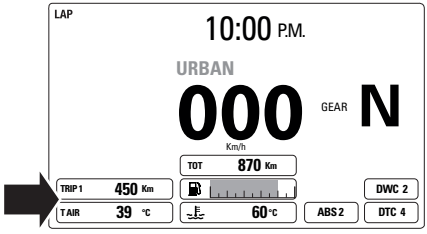
TRACK



FULL



CORE



OFF ROAD

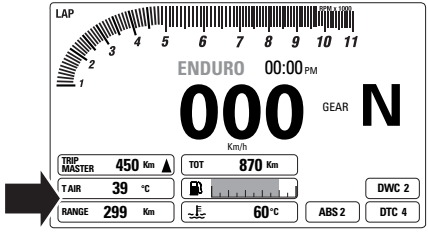


図 39

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料で走行できる航続可能距離を表示します。
データは "RANGE" の文字と設定単位で表示されます。

この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは "- - -" を点滅させます。
インストルメントパネルが RANGE データを受信できない場合は、単位と共に "- - -" が固定表示されます。

参考

インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、最後に設定した単位を点滅表示します。

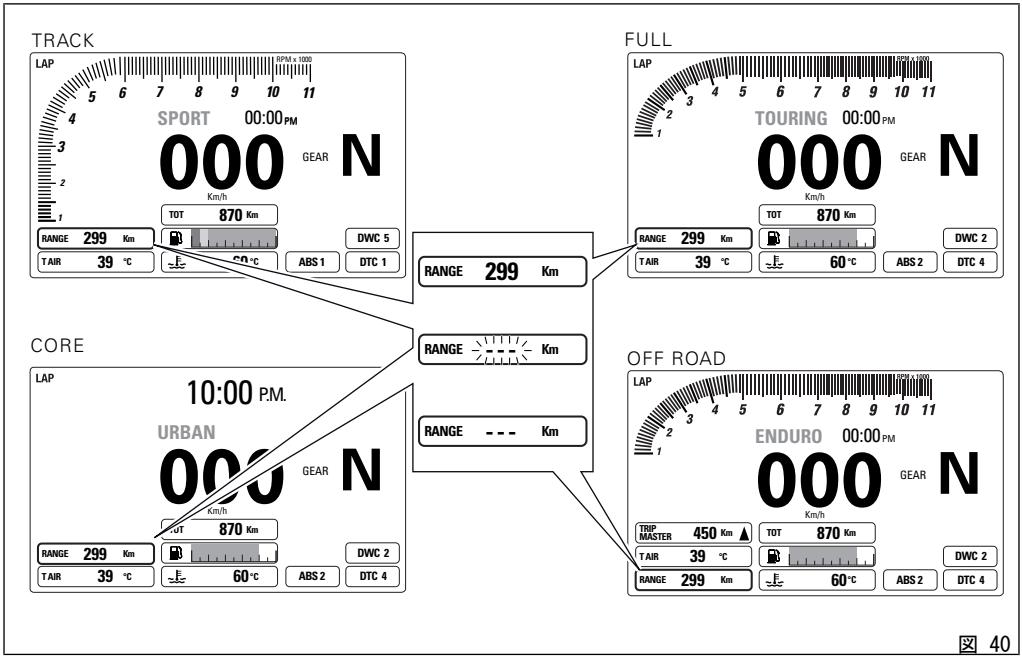

TRACK
LAP
RPM x 1000
SPORT
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TOT
870 Km
RANGE
299 Km
T AIR
39 °C
ABS 1
DWC 5
DTC 1
FULL
LAP
TOURING
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TOT
870 Km
RANGE
299 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
RANGE 299 Km
RANGE --- Km
RANGE --- Km
CORE
LAP
10:00 P.M.
URBAN
000
Km/h
GEAR
N
870 Km
RANGE
299 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
OFF ROAD
LAP
ENDURO
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TRIP MASTER
450 Km
TOT
870 Km
T AIR
39 °C
RANGE
299 Km
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4

図 40

トリップメーター1（TRIP 1）

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP1 に対応する数値（キロ またはマイル）は、TRIP1 の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

トリップメーターの表示中にボタン（1）を 2 秒間押すと、TRIP 1 のデータがリセットされます。TRIP1 がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

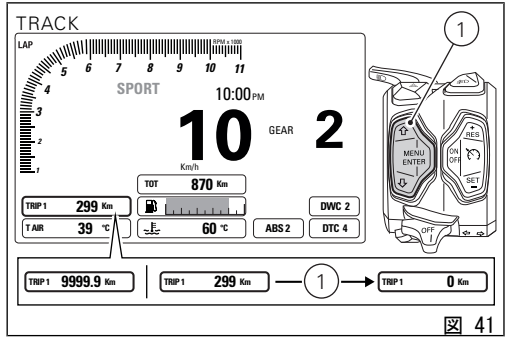


図 41

TRIP1 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

トリップメーター2（TRIP 2）

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
TRIP2 に対応する数値（キロ またはマイル）は、TRIP2 の文字と単位で表示されます。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。
トリップメーターの表示中にボタン（1）を 2 秒間押すと、TRIP 2 のデータがリセットされます。
TRIP2 のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合とバッテリー OFF の後にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

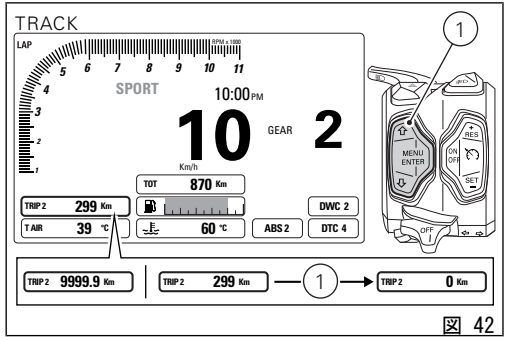


図 42

トリップタイム（TRIP TIME）

インストルメントパネルは走行時間を "hhh:mm" 形式で算出し、"TRIP TIME" の文字と共に表示します。TRIP1 が最後にリセットされて以降の走行時間から計算されます。TRIP1 がリセットされると、データもリセットされます。車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します）。表示時間が "511:00"（511 時間 00 分）を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

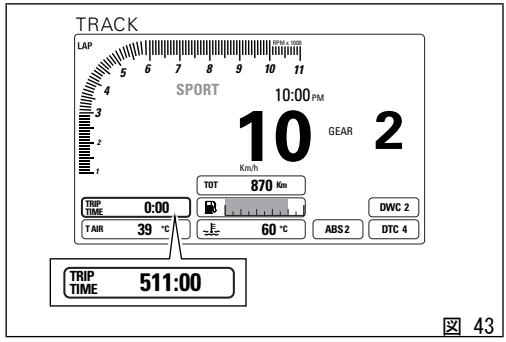


図 43

スピード（および距離）、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

参考

スピード（および距離）、または燃費に関する値の単位が変更された場合とバッテリー OFF の後に、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

ラップタイム (LAP time)

LAP 機能は TRACK 表示モードのメニュー 1 に表示されます。
LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。
LAP 機能が起動しているときに FLASH ボタン (3) を最初に押すと、メイン画面の左上に "LAP" の文字が点滅します。また、メニュー 1 に "LAP 01" の文字が表示され、"START" の文字がメニュー 1 に 4 秒間点滅します。その後 FLASH ボタン (3) を押す度に、直前周回のラップタイムが 100 分の 1 秒単位 ("0' 00" ' 00") で 6 秒間一時的に表示されます。続いてストップウォッチ、進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます (LAP 機能がメニュー 1 で選択された場合)。

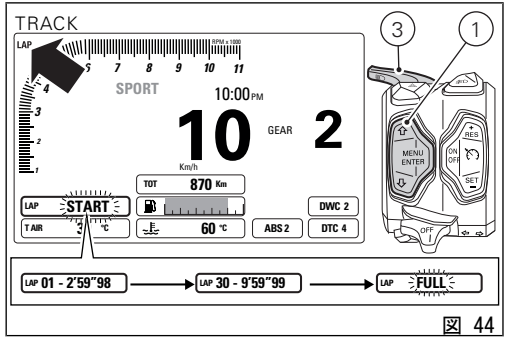


図 44

LAP 機能がメニューで選択したものと異なる場合、表示完了時インストルメントパネルは FLASH ボタン (3) を押す前の機能を表示します。
メニューのその他の機能はいつでもスクロールすることができます。
LAP のメモリー数が 15 に達すると LAP 機能は停止し、FLASH ボタン (3) を押す度にインストルメントパネルに "FULL" の文字が 4 秒間点滅します。これは、測定したラップの保存領域がなくなったことを表します。

参考
LAP 機能が起動しているとき、FLASH ボタンはハイビームの点滅機能との両方に使用します。

LAP の記録

LAP 機能が起動している場合、連続して 15 周回までラップタイプを記録することができます。
操作

ラップタイムが最大 9 分 59 秒 99 以内に停止されない場合、ストップウォッチは再度ゼロからカウントを開始し、ラップが停止されるか記録機能が解除されるまでカウントを続けます。
それぞれの LAP で以下の情報が記録されます。

- 15 周分のラップタイム (連続したスタートとストップ間のタイム)
- 15 周分の最大 RPM 値 (各ラップの最大 RPM 値)
- 15 周分の最高スピード (各ラップの最高スピード)

平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、"CONS.AVG" の文字を表示します。
TRIP1 が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

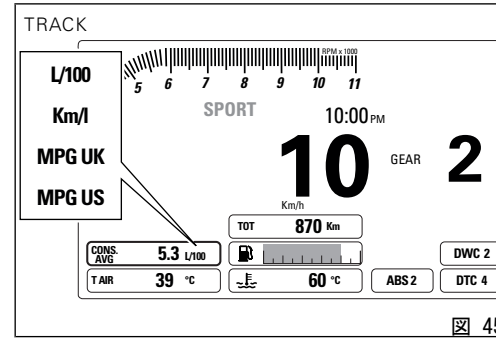


図 45

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます (走行距離を同時に変更)。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は "- -.-" が平均燃費として固定表示されます。データは設定された単位 (リットル /100 km、mpg UK、mpg USA) で表示されます。
停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます(車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。

瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONSの文字を表示します。
数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、mpg USA で表示されます。
数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます（車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません）。算出されない場合は、ディスプレイ上に ″－－.－″ が瞬間燃費として固定表示されます。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

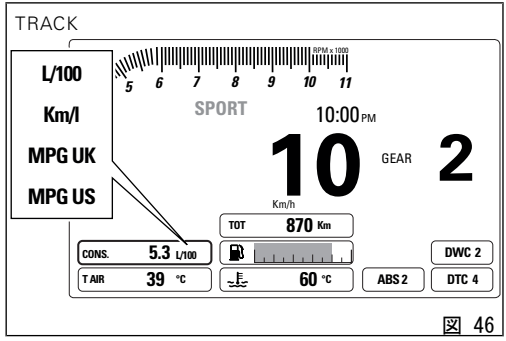


図 46

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます (走行距離を同時に変更)。

平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、″SPEED AVG″ の文字を表示します。
TRIP1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。
平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

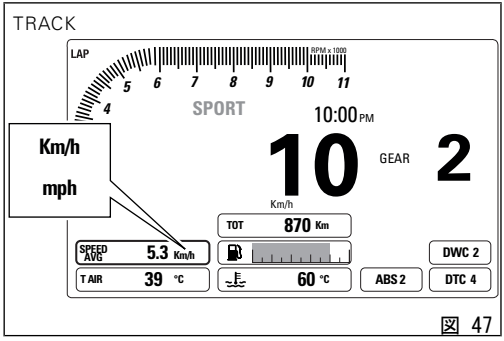


図 47

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます (走行距離を同時に変更)。

TRIP1 がリセットされると、データがリセットされ、次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値が表示されない最初の 10 秒間は "- -.-" が平均スピードとして固定表示されます。
停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。

外気温

インストルメントパネルは設定された単位（° C または ° F）に換算された外気温、設定単位、″T AIR″の文字、温度計記号を表示します。温度データは -39 ° C～+125 ° C（-38 ° F～+257 ° F）の場合に表示されます。それ以外の温度（ -39 ° C（-38 ° F）未満 か +125 ° C（+257 ° F）を超える場合）では ″－－－″と単位が表示されます。

気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に ″－－－″が点滅します。さらに一般的エラー警告灯が点灯します。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

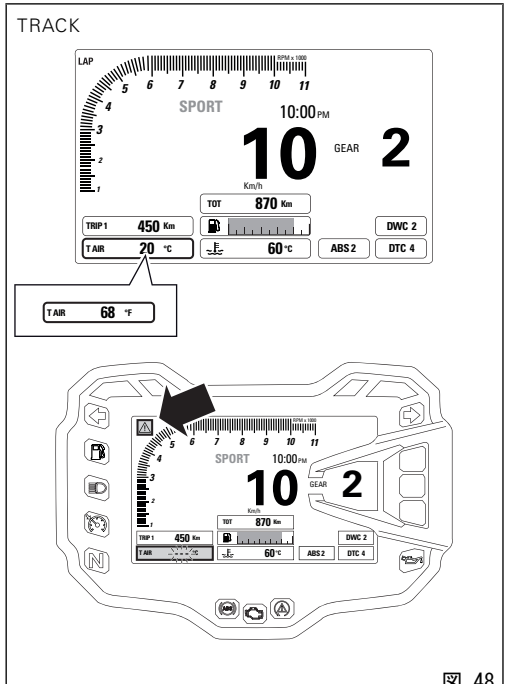


図 48

参考
エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

トリップメーター（TRIP MASTER）

トリップメーター Trip Master は車両の部分走行距離（キロまたはマイル）をカウント、表示します。Trip Master はカウントアップやリセットだけではなく、一時停止やカウントダウンも可能です。

トリップメーター Trip Master は OFF ROAD モードでのみ表示されます。

インストルメントパネルには "TRIP MASTER" の文字とデータ、上向き矢印（カウントアップ時）もしくは下向き矢印（カウントダウン時）が表示されます。OFF ROAD 表示モードの場合に限り、ボタン（1）およびボタン（2）で TRIP MASTER 機能を操作することができます。

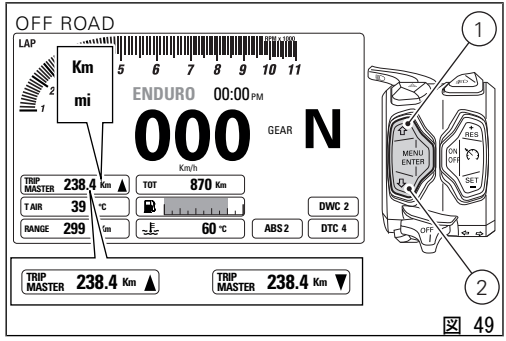


図 49

ボタン (1) を押すと、

- カウントアップ時はカウントが一時停止し、データが点滅します。再びボタン (1) を押すと、カウントを再開します。
- カウントダウン時は、カウント方法がカウントアップに変わります。

ボタン (2) を押すと、

- カウントアップ時は、カウント方法がカウントダウンに変わります。
- カウントダウン時はカウントが一時停止し、データが点滅します。再びボタン (2) を押すと、カウントを再開します。

Trip Master は、データが 0.0 (キロまたはマイル) のときはカウントアップのみが可能です。データが 100 メートル (0.1 マイル) に達するまでは、カウント方法を変えることはできません。
カウントアップでは、データは 999.9 (キロまたはマイル) まで自動的にカウントされるとゼロ (0.0) に戻り、カウントアップを続けます。
カウントダウンでは、データは 0.0 (キロまたはマイル) まで自動的にカウントされるとカウントは一時停止します。データが点滅し、その後カウントダウンからカウントアップにカウント方法が変わります。
以下の場合においても、データが自動的にリセットされ、カウントアップ方法でのカウントを再開します。

- 電源供給が中断された時 (Battery-OFF)
- "UNIT SETTING" からインストルメントパネルの表示単位を変更した時

サブ機能

LAP

インストルメントパネルは LAP 機能の状態を表示します（LAP の記録 ON または OFF）。
LAP 機能が起動しているときは、画面左上に "LAP" の文字が表示され、解除されると表示が消えます。記録中は文字が点滅します。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

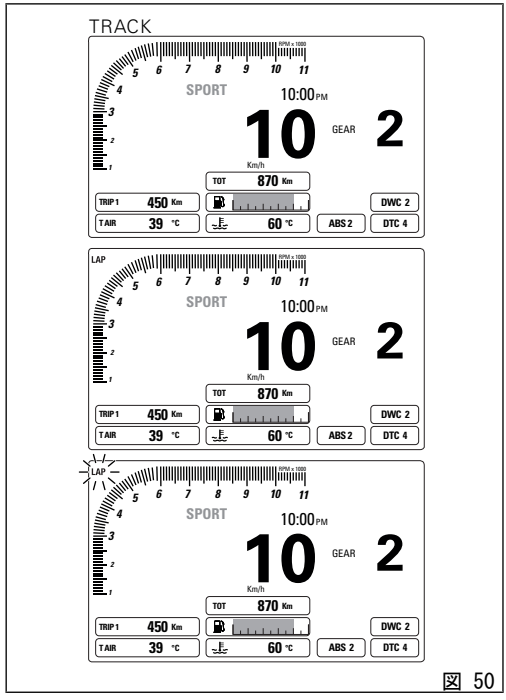


図 50

ヒーテッドグリップ制御機能（オプション）

この機能でグリップヒーターの起動と調整を行います。
ヒーテッドグリップボタン（12）を押すと、インストルメントパネルはグリップ OFF アイコンを表示します。
ボタン（12）を押すたびに、インストルメントパネルは OFF 表示からLOW、MED、HIGH（次は OFF に戻ります）の順に移行します。

参考
エンジンがかかっているときのみ、ヒーテッドグリップが実際に作動します（熱くなる）。

ヒーテッドグリップ "ON" 時のレベルの設定：LOW、MED、HIGH のレベル調整時、各アイコンは以下の背景色になります（インストルメントパネルの背景設定が DAY モードでも NIGHT モードでも同様）。

- LOW レベルは緑色
- MED レベルは黄色
- HIGH レベルは赤色

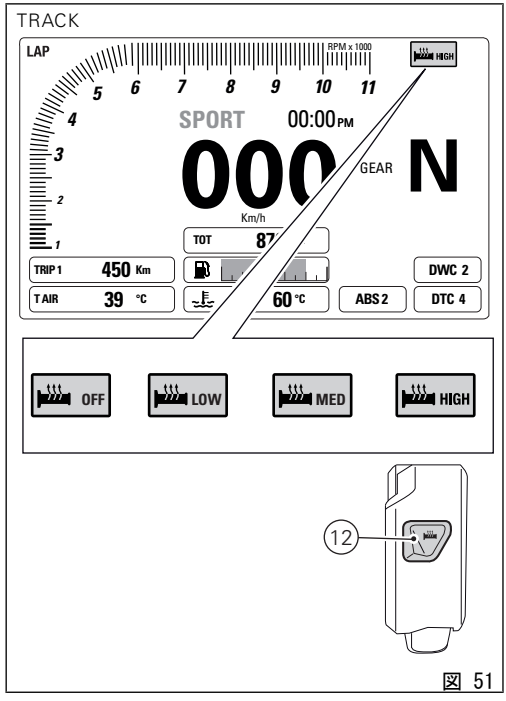


図 51

ヒーテッドグリップ "OFF" 時のレベルの設定：ヒーテッドグリップ機能を解除している場合でも、LOW、MED、HIGH のレベル調整を設定することができます。ただし、アイコンの背景色は白色（インストルメントパネル背景が DAY モードの場合）、もしくは黒色（インストルメントパネル背景が NIGHT モードの場合）になります。

参考
エンジンのアイドリング時（RPM <= 2000）は、ヒーテッドグリップが "MEDIUM" もしくは "HIGH" に設定されていても "LOW" レベルで作動するように調整されます。エンジン回転数が上がると（RPM > 2000）、ヒーテッドグリップは設定されている調整に達するよう熱が高くなります。

参考
バッテリーが切れた場合（Battery-OFF）は、次回の Battery-ＯＮ / Key-ＯＮ 時にはデフォルト値の "OFF" に設定されます。

参考
グリップヒーターが起動した状態でエンジンが停止している場合、グリップヒーターは "一時的に" 作動を停止しますが、表示は継続して起動状態を示します。エンジンを再始動するとグリップヒーターは自動的に再起動します。

参考
グリップヒーターは電流消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。 バッテリーが充電不足（電圧が 11.9 V を下回っている）状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにグリップヒーターの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

インフォテインメント

La Multistrada 1200 はドゥカティマルチメディアシステム（DMS）を標準搭載します。このシステムは Bluetooth テクノロジー対応ヘッドフォンを用いて着信通話のほか、音楽を聴いたり SMS 受信通知を受け取ったりすることが可能です。
インストルメントパネルにはインフォテインメント機能の状態、すなわち Bluetooth の起動および接続デバイス（スマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーター）を表示します。

Bluetooth が起動しているときは、メインスクリーンに Bluetooth アイコン（A）が表示されます。
また FULL および CORE 表示モードでは、インフォテインメント機能を専用メニュー（B）で見ることができます。
TRACK および OFF ROAD 表示モードでは、インストルメントパネル上にインフォテインメント機能は表示されません。ただし各機能ボタンを使用して、電話の着信通話 / 拒否 / 通話終了は可能です。

警告

インフォテインメントに関連するすべての情報（プレーヤー、電話帳へのアクセス、デバイス名など）は英文字で表示されます。

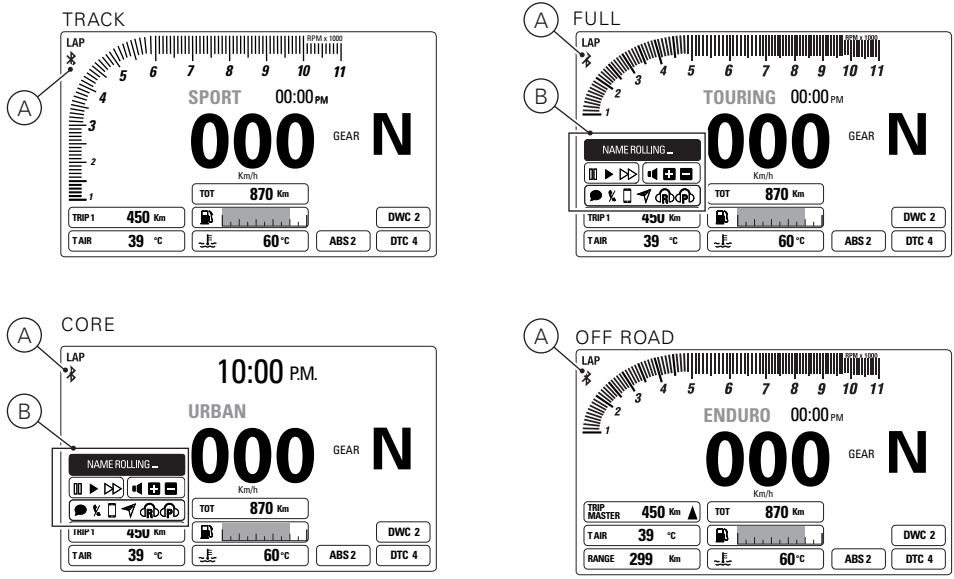

TRACK
A
LAP
RPM x 1000
SPORT
00:00 PM
000
Km/h
GEAR
N
TOT
870 Km
TRIP 1
450 Km
T AIR
39 °C
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
FULL
B
TOURING
NAME ROLLING
CORE
10:00 P.M.
URBAN
OFF ROAD
ENDURO
TRIP MASTER
RANGE
299 Km

図 52

Bluetooth が起動している場合は、Bluetooth アイコンのほかにスマートフォン、ライダーヘルメットヘッドセット、パッセンジャーヘルメットヘッドセット、Ducati ナビゲーターの接続デバイスについても表示されます。
デバイスは最大 4 台まで接続が可能です。

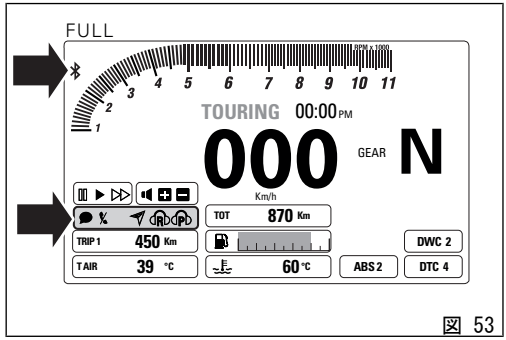


図 53

携帯電話

電話機能を用いて以下の操作が可能です。

- ボタン (1) およびボタン (2) を押して、着信を管理します。
- 通話の中断後 5 秒以内に、最後に通話していた番号へかけ直すことができます (リコール機能)。

参考

機能ボタンで電話帳に登録されている氏名 / 電話番号を選択して電話をかけることはできません。

着信があると (B)、枠内の青色が点滅します。着信を受けると枠内の青色の点滅が止まります。
TRACK および OFF ROAD 表示モードでは、着信中も発信者名や電話番号は表示されません。ライダーには Bluetooth ヘッドセットから着信音が聞こえます。
着信時にプレーヤー (A) が作動している場合は、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。
ボタン (2) を押して着信を受けます。
通話を終了するには、ボタン (1) を 2 秒間押し続けます。

メインスクリーン設定が FULL または CORE モードの場合には、電話をかけ直すことができるリコール機能 (C) を表す枠が通話終了後 5 秒間表示されます。
5 秒が過ぎると、リコール機能枠は解除されます。
TRACK および OFF ROAD 表示モードにはリコール機能はありません。
リコール機能を使うには 5 秒以内にボタン (2) を押します。

FULL

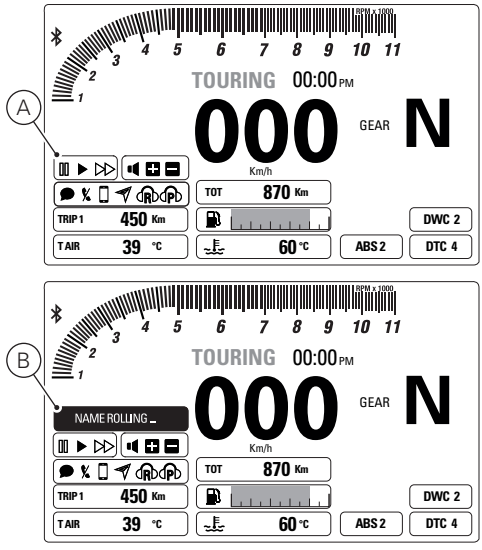

A
B
C
RPM x 1000
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
TOURING 00:00 PM
000
Km/h
GEAR N
NAME ROLLING
RECALL ROLLING
TOT 870 Km
TRIP 1 450 Km
T AIR 39 °C
60 °C
DWC 2
ABS 2
DTC 4
MENU ENTER
ON OFF
RES
SET
OFF
1
2

図 54

スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに応答しなかった着信がある場合は、不在着信マークが表示されます。不在着信の相手番号は表示されません。
スマートフォンが車両に接続された瞬間から接続を切断する瞬間までに未読の SMS/MMS/EMAIL がある場合は、未読メッセージのマークが表示されます。未読メッセージ数は表示されません。

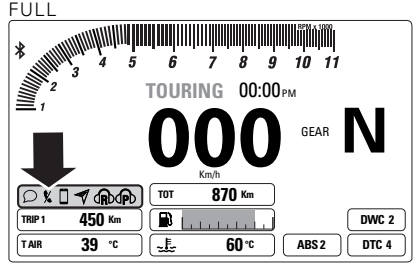


図 55

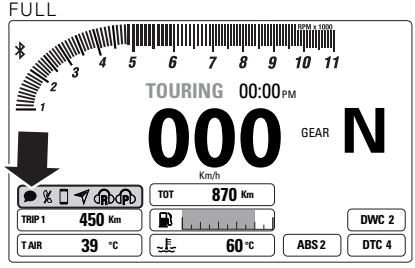


図 56

プレーヤー

プレーヤーは URBAN および TOURING の表示モードでのみ起動できます。
少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されていると（メインスクリーンの青色アイコン）、FULL および CORE 表示モードではメニュー 1 内に PLAYER OFF 機能が表示されます。
ボタン (1) を 2 秒間押すとプレーヤーが起動します。
インストルメントパネルはメニュー 1 に "PLAYER ON" を表示し、プレーヤーのグラフィックが起動します。プレーヤーが起動すると、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) はプレーヤー操作専用ボタンになります。
プレーヤーが ON の時にインストルメントパネルがトラック名を受信しない場合は、曲再生が一時停止になり、曲名が表示される枠内に "NOT AVAILABLE" の文字が表示されます。

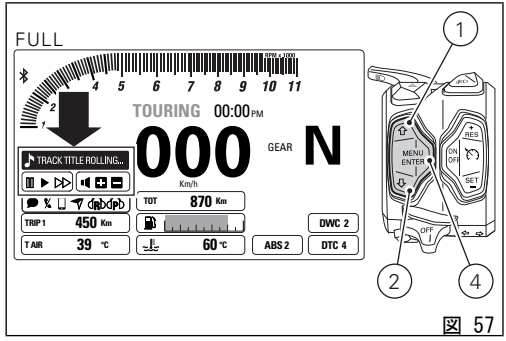


図 57

重要
着信中、通話中、およびリコール中はメニュー 1 からプレーヤー機能を起動することはできません。

音量調節は以下の方法で行います。

- 音量を上げる：ボタン (1) を押します。
- 音量を下げる：ボタン (2) を押します。

プレーヤーを一時停止 / 再生するにはボタン (4) を 2 秒間押します。
次の曲にスキップするにはボタン (4) を押します。ボタンを押すたびに一曲ずつスキップします。
プレーヤー操作メニューを終了し (ボタン (2) を 2 秒間押す)、続いてボタン (1) を 2 秒間押してプレーヤーを停止することができます。メニュー 1 の "Player ON" の表示が 3 秒以内に "PLAYER OFF" の表示に代わります。

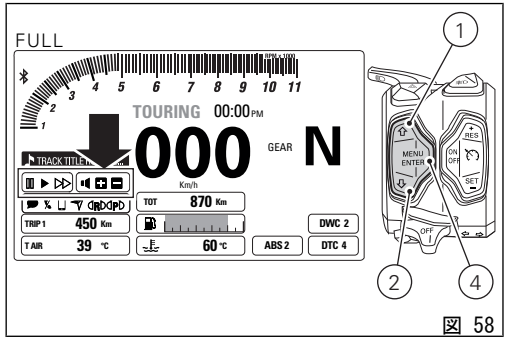


図 58

プレーヤーを ON の状態にしたままで、プレーヤー操作から出るにはボタン（2）を 2 秒間押します。

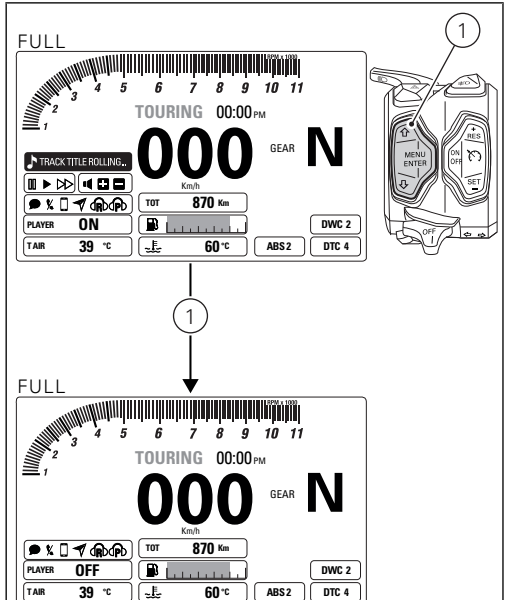


図 59

1）Eメール受信通知を受け取れません。
メール受信の通知は、携帯電話のネイティブアプリケーションに設定されている場合にのみ受け取ることができます。また、携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

2）SMS 受信通知を受け取れません。
携帯電話が MAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、メッセージ通知へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

3）ヘッドセットを接続できません。
一回ペアリングを行っている場合は、ヘッドセットを一度リセットして再び車両とのペアリングを実施してください（ヘッドセットの取扱説明書参照）。

4）着信時、インストルメントパネルには発信者の番号は表示されますが、発信者名は表示されません（電話帳に保存している場合も含む）。
携帯電話が PBAP プロフィールに対応していることを確認してください。
対応している場合には、ドゥカティマルチメディアシステムは接続時にプロフィールへのアクセスリクエストを送信します。このリクエストは、携帯電話の電話帳へのアクセス許可をリクエストするかたちで、ユーザーに明確に通知される場合があります（端末の OS により異なる）。

5）インストルメントパネルからプレーヤーを起動しても、音楽がスタートしません。
プレーヤーの起動は携帯電話の設定に依存します。この場合は、インストルメントパネルからプレーヤーを起動したのち、スマートフォンから音楽再生アプリを起動してください。

6）音楽の音が飛ぶことがあります。
デバイスの接続が悪いと、Bluetooth コントロールユニットがまだデバイスとの接続を完了しようとしているままになる場合があります。また、PBAP プロフィールおよび MAP プロフィールが有効でなければ

なりません。iOS の場合は、項目 7) を参照してください。Android の場合は、項目 2)、4) を参照してください。

7) iPhone ではメッセージ受信通知を受け取れません。

「設定」メニューの「Bluetooth」を選択してください。「デバイス」リスト内から「Ducati Media System」の横にある「i」を選択してください。通知の表示を有効にします。

クルーズコントロール

Multistrada 1200 は走行速度を一定に維持するシステム、ドゥカティクルーズコントロールを搭載しています。

この機能はクルーズコントロールの状態と設定速度を表示します。
ボタン ON/OFF (5) を押してクルーズコントロールを起動すると、インストルメントパネルはクルーズコントロールランプを点灯します。
この状態にあるとき、ドゥカティクルーズコントロールの速度を設定することができます。設定速度はスロットルグリップをの位置を維持しなくても自動的に一定に保たれます。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

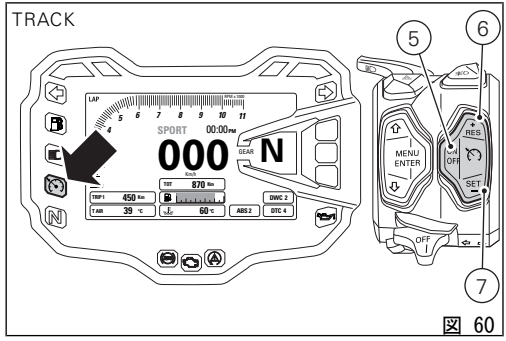


図 60

ボタン SET (7) を押すと、現在の走行速度がクルーズコントロール速度に設定されます。
クルーズコントロール速度が正しく設定されると、インストルメントパネルに設定速度が 5 秒間表示され、その後 SET アイコンが点灯します。
設定速度の増速および減速は、それぞれボタン (6) および (7) を押して行います。
ワン《クリック》が 1 Km/h の増速または減速に相当します。
新しく設定された速度は、システムが新しく設定された速度に到達するまで SET アイコンの代わりに表示されます。
新しい設定速度に到達して 5 秒以上が経過すると、再び SET アイコンが点灯します。
ドゥカティクルーズコントロール機能を解除している場合、RES ボタン (6) を押すと、前回の SET 速度を呼び出して設定することができます。

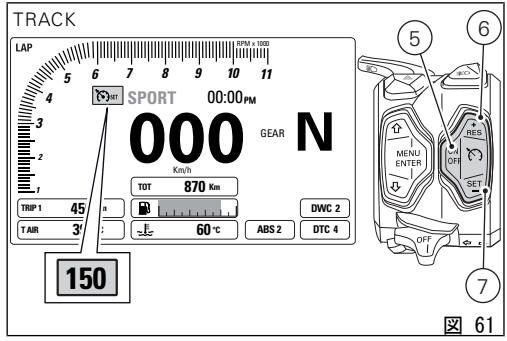


図 61

重要

DTC（トラクションコントロール）が長時間にわたって介入すると、クルーズコントロール機能は自動的に一時停止します。

一旦システムが起動すると、RES ボタン (6)、または SET ボタン (7) を押して現在の走行速度を設定速度に設定することができます。以前に一度も設定速度を設定していない場合には RES ボタン (6) を押してください。
この場合には、システムは現在の走行速度を記録して、ユーザーがスロットルを操作することなく記録した速度を維持します。設定速度はインストルメントパネルに表示されます。

前回に速度を設定しており、機能条件を満たしている場合に、スタンバイモードから RES ボタン (6) を押すと、システムはユーザーが最後に設定した速度を呼び出してクルーズコントロール機能に戻ります。

以下のすべての条件が確認された場合に限り、ドゥカティクルーズコントロールシステムを起動することができます。

- ギアが 2 速以上に入っている。
- 走行速度 50 Km/h (30 mph) 以上もしくは 200 Km/h (125 mh) 以下。
- Key-ON 時点から少なくとも一度はブレーキをかけた (フロント/リアに関係なく)。

以下の方法でドゥカティクルーズコントロールシステムを解除することができます。

- スロットルグリップを減速方向に回す。
- ボタン (5) を押す。
- フロントブレーキをかける。
- リアブレーキをかける。
- クラッチを切る。

ドゥカティクルーズコントロールシステムは 50 Km/h (30 mph) ～ 200 Km/h (125 mh) の範囲で車両速度を制御します。

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス（定期点検）を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。
定期点検には 3 つの種類があります。

- OIL SERVICE ZERO：最初の 1000 km (600 mi) 点検
- OIL SERVICE および SERVICE DATE：オイル点検もしくは一年点検（どちらも同様の点検作業を実施します）
- DESMO SERVICE

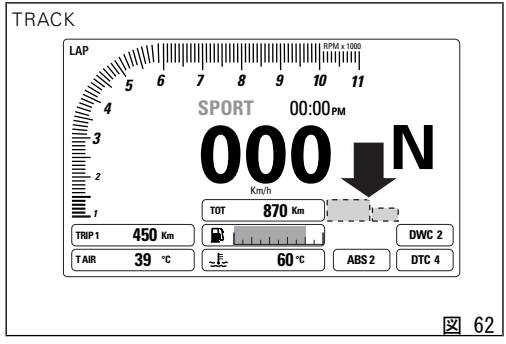


図 62

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると表示され、Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて ″リセット″ されるまで常時表示されます。

図 63

OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ（1000 km - 600 mi）表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは Key-ON ごとに以下の表示を黄色で 5 秒間表示します。

- 次回の定期点検 OIL SERVICE (A) までの走行距離が 1000 km（600 mi）を切るまで、定期点検までの残りのキロ数（マイル数）をカウントします。
- 次回の定期点検 SERVICE DATE (B) までのまでの日数が 30 日を切るまで、残りの日数をカウントします。
- 次回の定期点検 DESMO SERVICE (C) までの走行距離が 1000 km（600 mi）を切るまで、残りのキロ数（マイル数）をカウントします。

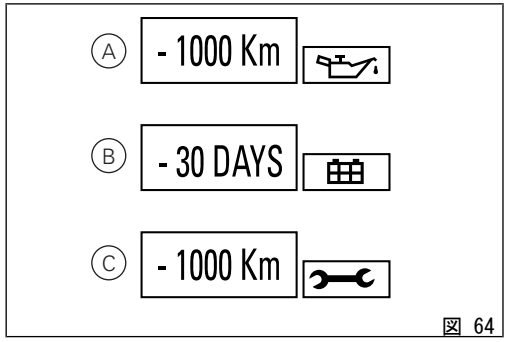


図 64

OIL SERVICE、SERVICE DATE、DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のうち必要なメンテナンスが表示されます。

- OIL SERVICE (A)
- SERVICE DATE (B)
- DESMO SERVICE (C)

実施するメンテナンスの種類が赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

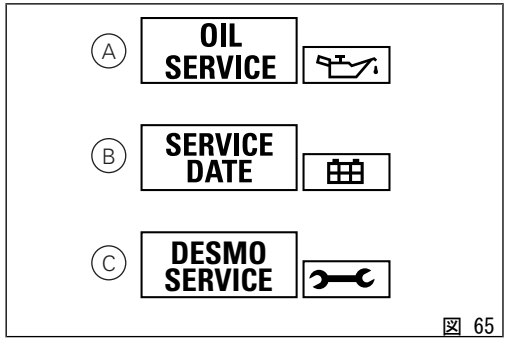


図 65

注意 / 警告 (Warning)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。

KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。

車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。警告が検知されると最初の 10 秒間はっきりと表示され (大きいアイコン)、その後小さく表示されます (小さいアイコン)。

複数の警告が検知された場合、各警告アイコンが 3 秒ずつ順番に表示されます。

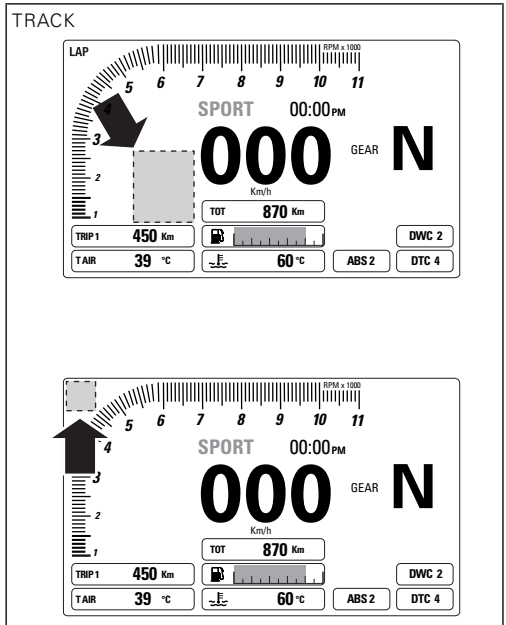


図 66

警告

ひとつ以上の警告灯が点灯すると同時に一般的エラー警告灯が点灯する場合、一般的エラー警告灯が点灯している間は小さい警告アイコンは表示されません。警告アイコンは最初の 10 秒間のみ大きく表示されます。

この機能の表示については TRACK 表示モードを例にあげています。FULL、CORE、OFF ROAD 表示モードでも TRACK 表示モードと類似した表示になります。

凍結

この機能では、外気温が低いため路面凍結の危険があることを表示します。
温度が 4° C (39° F) に下がると表示され、 6° C (43° F) に上がると表示が消えます。

警告
気温が 4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が ″低い″ 時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

図 67

バッテリーレベル LOW (LOW BATTERY) インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると表示されます。

参考
この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

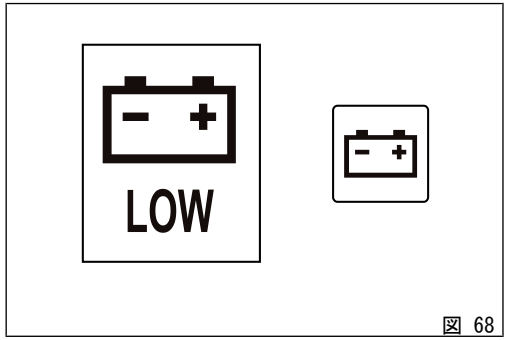


図 68

Hands Free (HF) キー無感知

Hands Free システムが車両付近に "アクティブキー" を感知できないとき、この警告が表示されます。

参考
この場合、アクティブキーが実際に車両付近に存在するか (キーを紛失していないか)、あるいはアクティブキーが正しく作動しているかを確認してください。

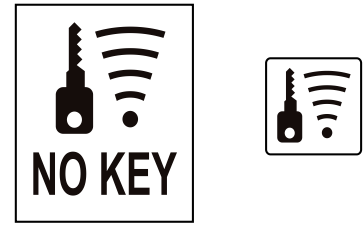


図 69

Hands Free (HF) キーバッテリーレベル "LOW"

情報のやりとり、車両の起動を行うアクティブキーの電池が切れかかっていることを Hands Free システムが検知すると、この警告が表示されます。

参考
この場合、早急に電池を交換してください。

電池の交換については "アクティブキーのバッテリーの交換" を参照してください ページ 242。

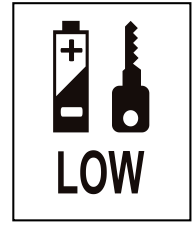


図 70

DTC オフロード設定 (DTC ENDURO)

この警告は、トラクションコントロールが ″極値″ (オフロード用設定) に設定されているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。
DTC (ドゥカティトラクションコントロール) 介入レベルが ″01″ および ″02″ に設定されている場合に、この警告が点灯します。

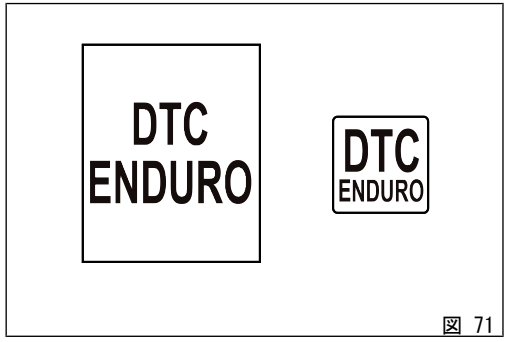


図 71

警告
この場合は、運転に細心の注意を払ってください。このタイプの DTC (ドゥカティトラクションコントロール) 設定は公道では使用せず、オフロードでのみ使用するようにしてください。

ABS オフロード設定 (ABS ENDURO)

この警告は、ABS が前輪のブレーキングのみを制御するオフロード用の設計になっているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。
ABS 介入レベルが "01" に設定されている場合に、この警告が点灯します。

警告
この場合は、運転に細心の注意を払ってください。このタイプの ABS 設定は公道では使用せず、オフロードでのみ使用するようにしてください。

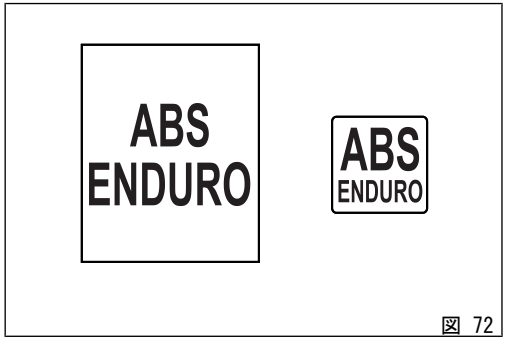


図 72

日付の入力

この機能は設定メニューから日付を入力する必要があることを通知します。

参考
この場合は一旦停車し、″日付の設定(DATASET)″ 機能から日付を入力してください。

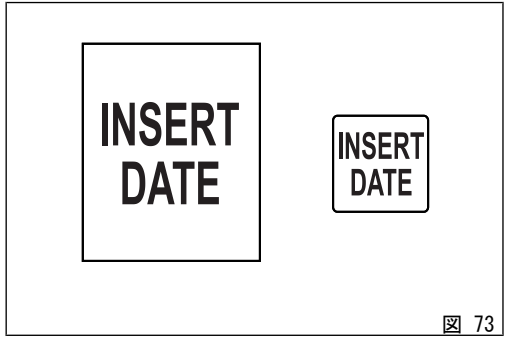


図 73

ステアリングロック解除エラー - ステアリングロック状態

この警告は、Hands Free システムがステアリングロックを解除できなかったことを示します。

警告

この場合は、ハンドルレバーを下まで押し下げた状態で車両の停止と再起動（Key-OFF/Key-ON）を行ってください。もしマークが消えない（つまりステアリングがロック状態のまま）場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

図 74

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
車両 Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (B) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー) もしくは一般的エラー警告灯 (A) (その他エラー全般) が点灯します。
車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプもしくは一般的エラー警告灯 (A) が点灯します。

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

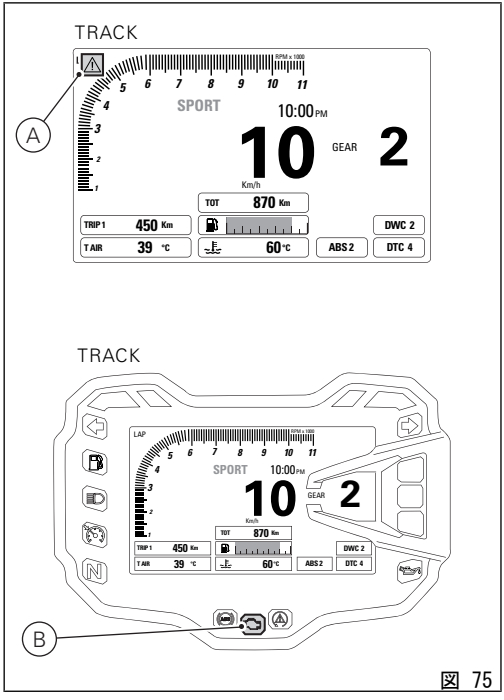


図 75

サイドスタンド表示

インストルメントパネルはスタンドの状態に関するデータを受信し、サイドスタンドが下りている/開いている場合には赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンをディスプレイに表示します。
サイドスタンドセンサーエラーが検知されると、インストルメントパネルはサイドスタンドエクステンド/オープンを表示し、MIL ランプを点灯します。
インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、スタンドが下りている/開いている場合の "SIDE STAND" の表示が点滅し、不明の状態を表します。

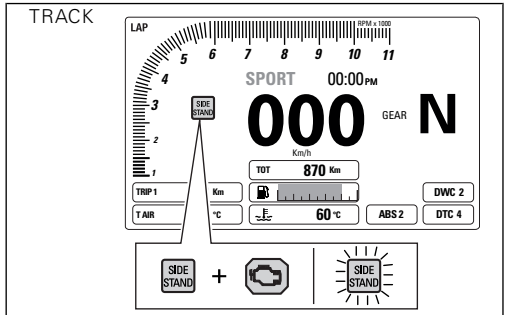


図 76

フォグランプ

フォグランプ搭載車（オプション）では、フォグランプが点灯するとインストルメントパネルのフォグランプ警告灯が点灯します。
フォグランプエラーが検知されると、インストルメントパネルのフォグランプ警告灯が点滅し、一般的エラー警告灯が点灯します。

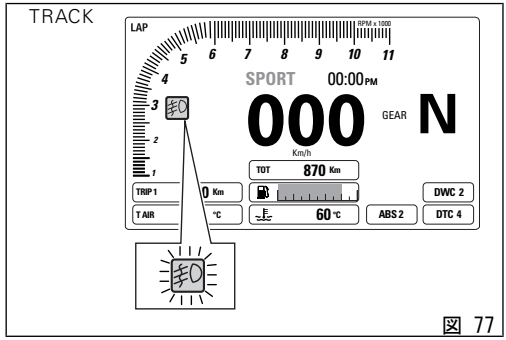


図 77

設定メニュー

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF および設定を行います。
設定メニューに入るには、KEY-ON の状態で車両実速度が 20 km/h (12 mph) 以下の時にボタン (4) を 2 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。
設定メニューには以下の機能が表示されます。

- RIDING MODE
- INFO MODE
- PIN CODE
- LAP
- BACK LIGHT
- DATA SET
- CLOCK SET
- UNIT SETTING
- BLUETOOTH (Bluetooth 起動時)

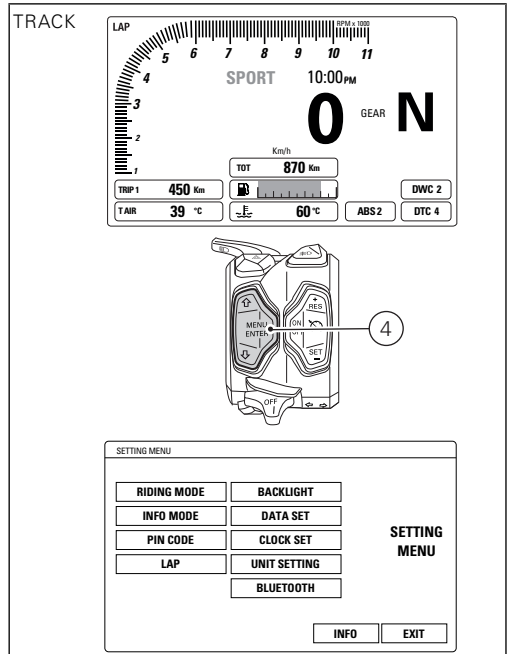


図 78

重要
安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン (1) および (2) を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次のパラメーターが、ボタン (1) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン (4) を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。
ディスプレイ上部には、機能設定中のメニューおよびサブメニューのルートが表示されます。
設定メニューを終了するには、"EXIT" を強調表示してボタン (4) を押します。

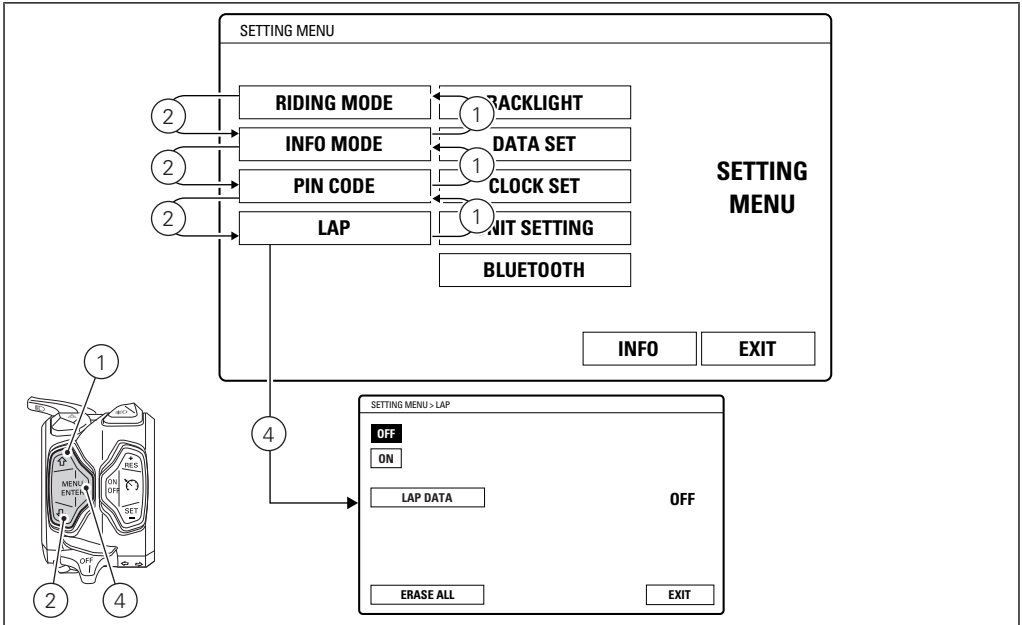

SETTING MENU
RIDING MODE
INFO MODE
PIN CODE
LAP
BACKLIGHT
DATA SET
CLOCK SET
UNIT SETTING
BLUETOOTH
SETTING MENU
INFO
EXIT
SETTING MENU > LAP
OFF
ON
LAP DATA
OFF
ERASE ALL
EXIT
MENU ENTER
RES
SET
1
2
4

図 79

ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "RIDING MODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
"EXIT" の文字が強調表示された状態でボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

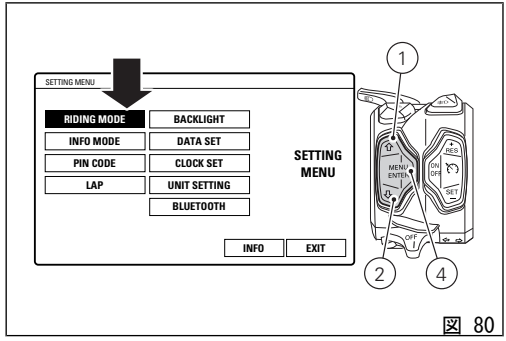


図 80

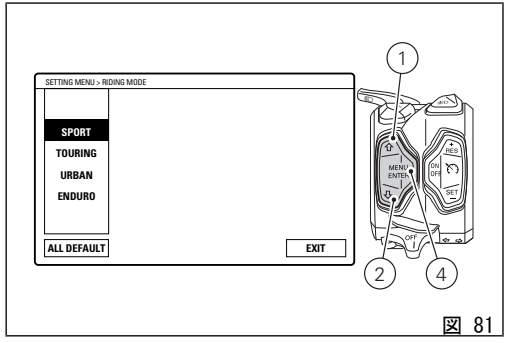


図 81

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ENGINE
- DTC
- DWC
- ABS
- DEFAULT

ボタン (1) および (2) を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のパラメーターが、ボタン (2) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン (4) を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。
それぞれのライディングモードを Ducati 初期設定に戻すには、"DEFAULT" 機能を使用します。
"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

警告
パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

DTC 機能が解除されている、すなわち OFF に設定されている場合は、DWC は強制的に OFF 設定になり、パラメーターを変更することはできません。

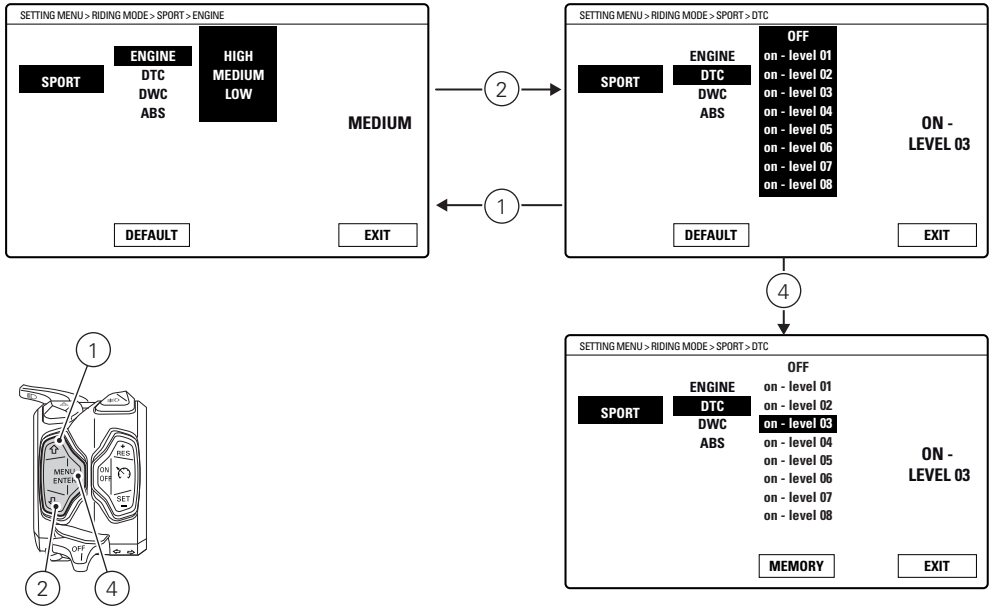

SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ENGINE
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
HIGH
MEDIUM
LOW
MEDIUM
DEFAULT
EXIT
2
1
SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > DTC
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
OFF
on - level 01
on - level 02
on - level 03
on - level 04
on - level 05
on - level 06
on - level 07
on - level 08
ON - LEVEL 03
DEFAULT
EXIT
4
SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > DTC
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
OFF
on - level 01
on - level 02
on - level 03
on - level 04
on - level 05
on - level 06
on - level 07
on - level 08
ON - LEVEL 03
MEMORY
EXIT
1
MENU ENTER
RES
ON OFF
SET
OFF
2
4

図 82

ライディングモードのパーソナライズエンジン調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "RIDING MODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (ENGINE) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

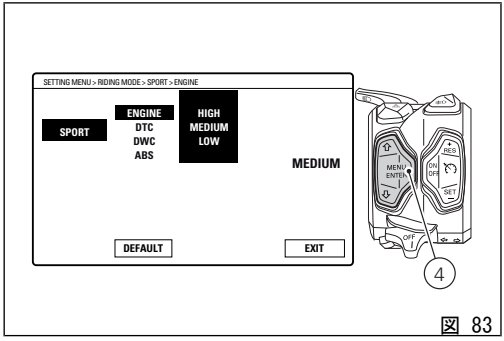


図 83

この機能に入ると、右側に現在設定されているエンジン出力が表示されます（例：MEDIUM)。
中央のプルダウンメニューにはパーソナライズ可能な一覧が表示されます。

- HIGH
- MEDIUM
- LOW

ボタン（1）および（2）を押すと希望のエンジン出力を一つずつ強調表示することができます。ボタン（2）を押すと次のパラメーターが、ボタン（1）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のエンジン出力を選択したら、ボタン（4）を押して "MEMORY" の文字をオレンジ色に強調表示します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン（4）を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、新しいエンジン出力値に更新されます。その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

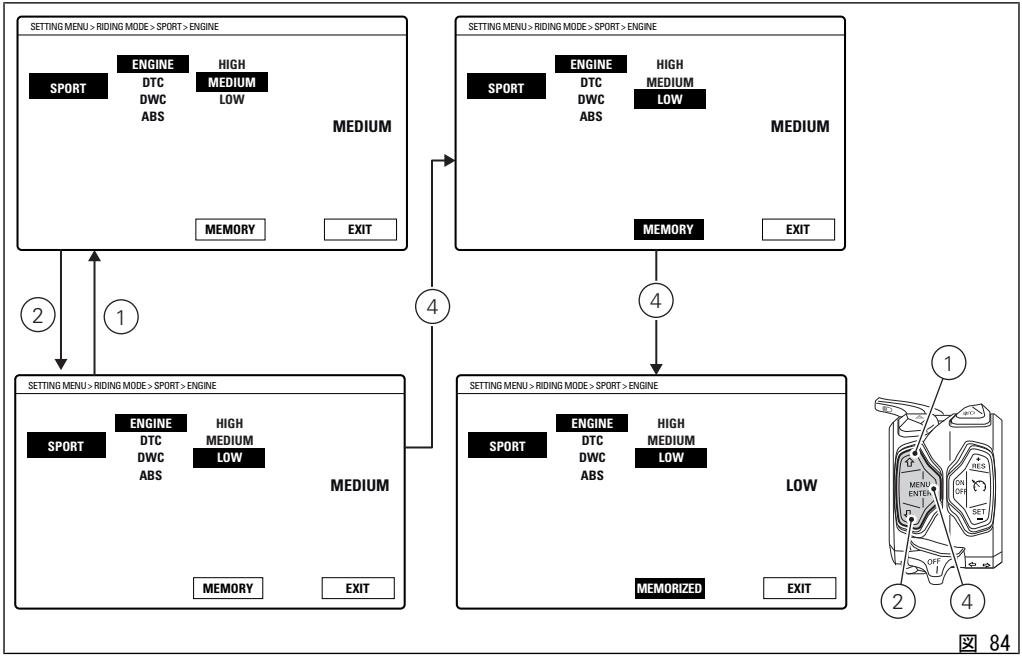

SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ENGINE
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
HIGH
MEDIUM
LOW
MEDIUM
MEMORY
EXIT
SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ENGINE
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
HIGH
MEDIUM
LOW
MEDIUM
MEMORY
EXIT
SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ENGINE
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
HIGH
MEDIUM
LOW
MEDIUM
MEMORY
EXIT
SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ENGINE
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
HIGH
MEDIUM
LOW
LOW
MEMORIZED
EXIT
1
2
4
4
1
2
4
MENU
ENTER
RES
ON
OFF
SET
OFF

図 84

ライディングモードのパーソナライズDTCレベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DTC 介入レベルの設定または解除を行うことができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "RIDING MODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) を選択します。
希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (DTC) を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

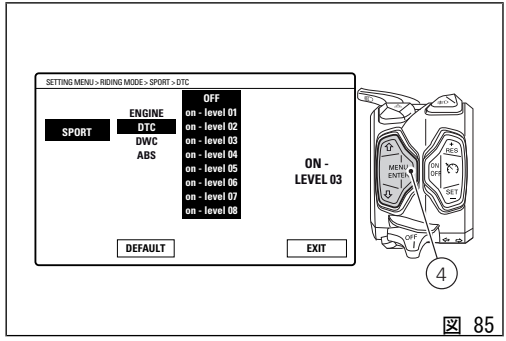


図 85

この機能に入ると、右側に現在設定されている DTC レベル、または状態が表示されます（例：ON LEVEL 03）。
中央のプルダウンメニューには、レベル 1 から 8、および OFF のパーソナライズ可能な一覧が表示されます。
新しい設定を選択し、ボタン (4) を押して "MEMORY" の文字をオレンジ色に強調表示します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

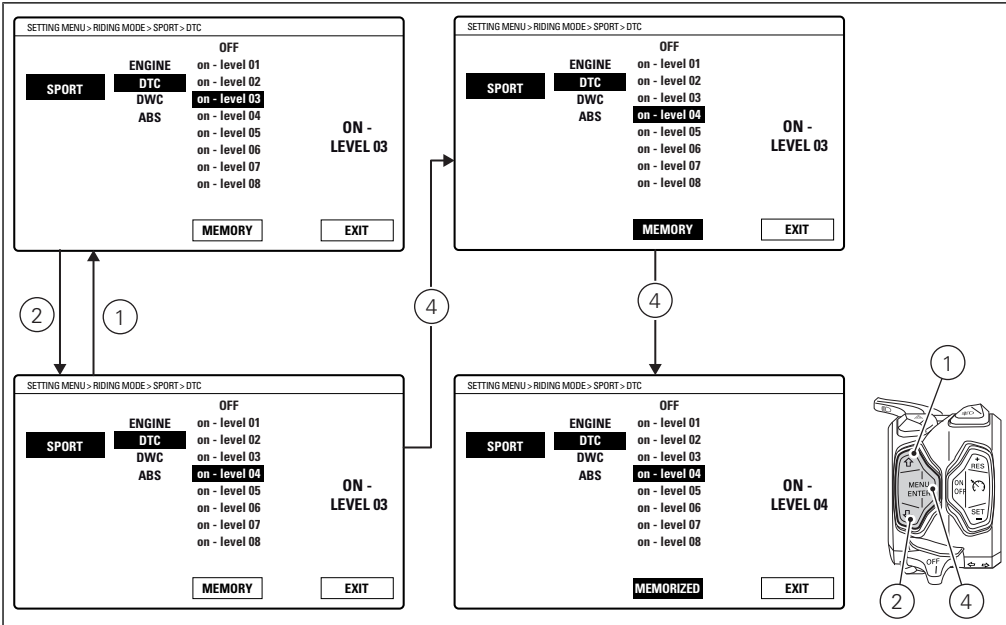

SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > DTC
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
OFF
on - level 01
on - level 02
on - level 03
on - level 04
on - level 05
on - level 06
on - level 07
on - level 08
ON - LEVEL 03
ON - LEVEL 04
MEMORY
MEMORIZED
EXIT
1
2
4
MENU ENTER
SET

図 86

ライディングモードのパーソナライズDWCレベルの設定

この機能では各ライディングモードに連動した DWC 介入レベルの設定または解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "RIDING MODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (DWC) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
DTC 機能が解除されている、すなわち OFF に設定されている場合は、DWC は強制的に OFF 設定になり、パラメーターを変更することはできません。

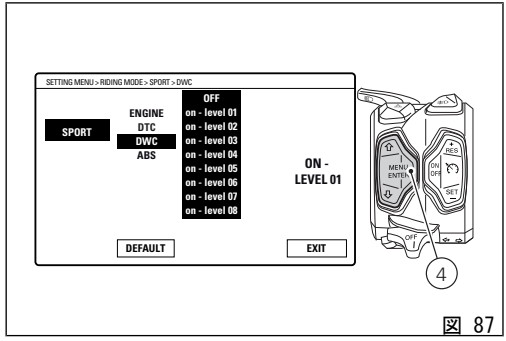


図 87

この機能に入ると、右側に現在設定されている DWC レベル、または状態が表示されます（例：ON LEVEL 01）。
中央のプルダウンメニューには、レベル 1 から 8、および OFF のパーソナライズ可能な一覧が表示されます。
新しい設定を選択し、ボタン (4) を押して "MEMORY" の文字をオレンジ色に強調表示します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

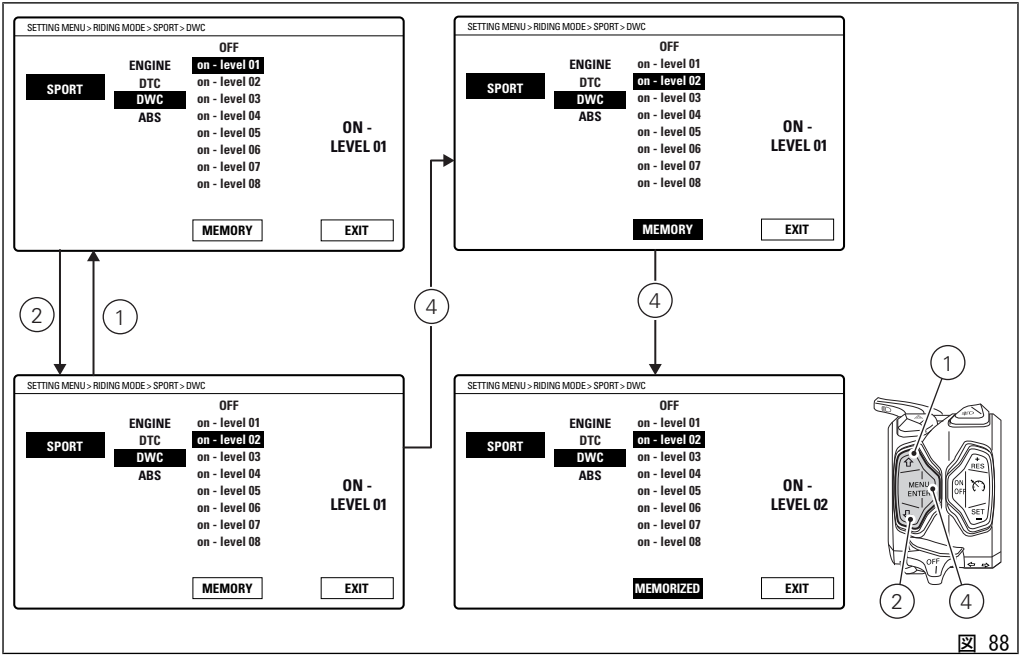

SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > DWC
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
OFF
on - level 01
on - level 02
on - level 03
on - level 04
on - level 05
on - level 06
on - level 07
on - level 08
ON - LEVEL 01
ON - LEVEL 02
MEMORY
MEMORIZED
EXIT
1
2
4
MENU ENTER
SET

図 88

ライディングモードのパーソナライズABS調整

この機能では一つのライディングモードの ABS システム介入レベルの設定、または ABS システムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "RIDING MODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO) を選択します。
希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、プルダウンメニューからパーソナライズするパラメーター (ABS) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

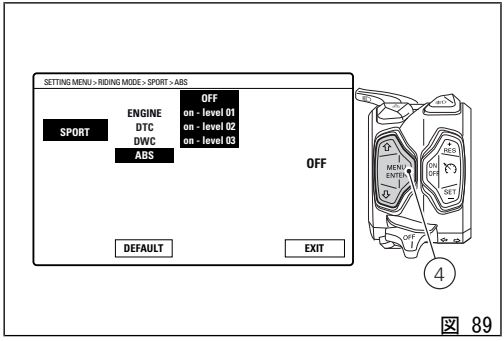


図 89

この機能に入ると、右側に現在設定されている ABS レベル、または状態が表示されます（例：OFF）。
中央のプルダウンメニューには、レベル 1 から 3、および OFF のパーソナライズ可能な一覧が表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すと希望の介入レベルを一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のレベルが、ボタン (2) を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望のレベルを選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して "MEMORY" の文字を強調表示します。
新しい設定を選択し、ボタン (4) を押して "MEMORY" の文字をオレンジ色に強調表示します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、新しいレベルまたは状態に設定が更新されます。その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考

この機能を使用して ABS システムを起動または解除する場合、すなわちシステムのステータスを解除から起動、起動から解除へ変更する場合、ABS システムの起動・解除プロセスが実施されます。ABS コントロールユニットのステータス変更には約 6 秒かかります。

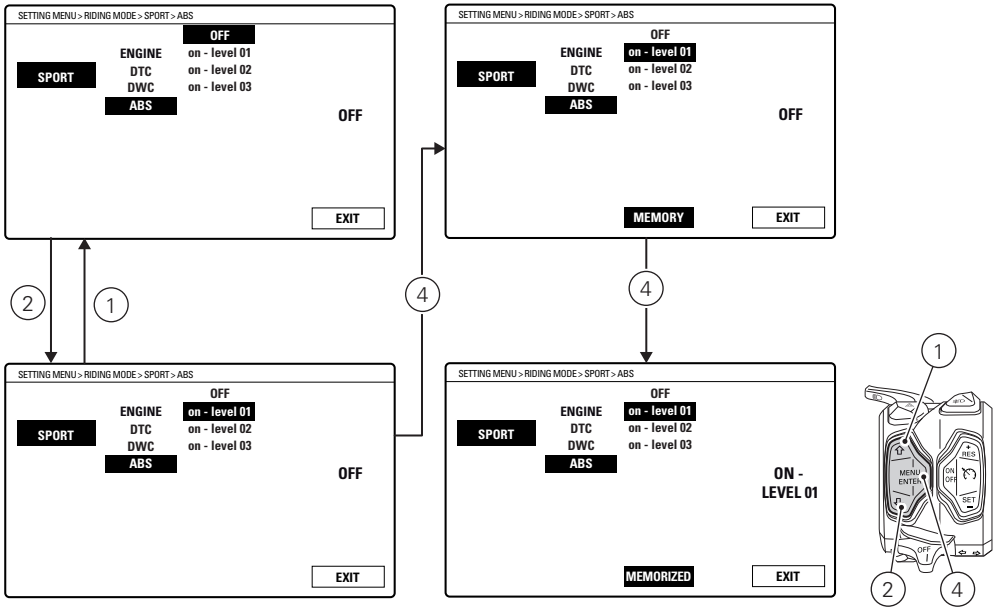

SETTING MENU > RIDING MODE > SPORT > ABS
SPORT
ENGINE
DTC
DWC
ABS
OFF
on - level 01
on - level 02
on - level 03
OFF
EXIT
MEMORY
MEMORIZED
ON - LEVEL 01
1
2
4

図 90

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復（DEFAULT）

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。
設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して "RIDING MODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン（4）を押します。"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、プルダウンメニューから希望のライディングモード（SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO）を選択します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン（4）を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、"DEFAULT" を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、ボタン（4）を 2 秒間押します。

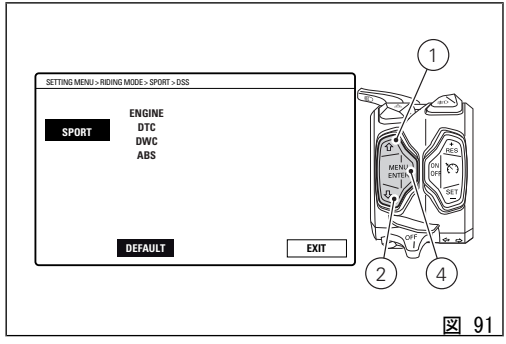


図 91

パラメーターの回復には 3 秒を要し、この間 "WAIT...." の文字がディスプレイに表示されます。手順が終了すると、ディスプレイに 2 秒間 "OK" の文字が表示され、パラメーターが回復されたことを示します。"EXIT" の文字が強調表示されます。メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

ライディングモードのパーソナライズデフォルト設定の回復（ALL DEFAULT）

ここではすべてのライディングモードに連動する全パラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。
この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で "RIDING MODE" を選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を押して "ALL DEFAULT" を選択し、ボタン（4）を2 秒間押します。

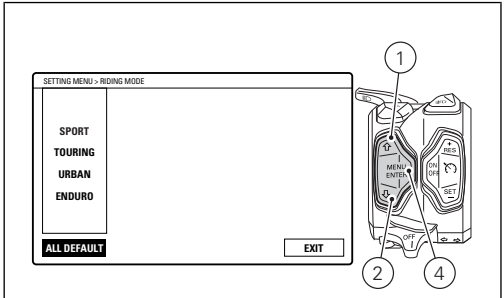


図 92

参考

"ALL DEFAULT" の表示が選択できない場合は、すべてのライディングモードの全パラメーターがすでに "デフォルト" 値であることを示します。

表示モードの設定

表示モードをパーソナライズすることができます。CORE、FULL、TRACK、OFF ROAD の 4 種類の表示モードがあります。それぞれ一つのライディングモードに連動しており、″デフォルト″ モードではライディングモード変更時に表示モードも変更されます。

しかし、選択したライディングモードを変更してもインストルメントパネルが同じモードを使用するよう特定のモードを選択することができます。
希望のモードを選択するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して ″INFO MODE″ を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

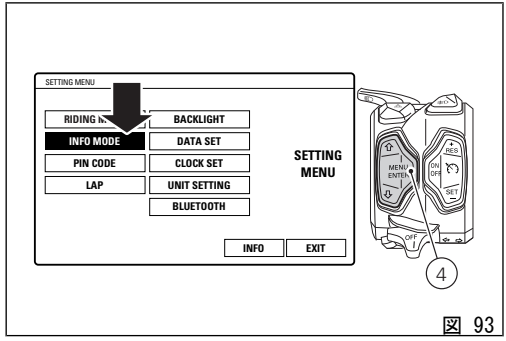


図 93

"INFO MODE" メニューに入ります。
各表示モードとライディングモードのドゥカティ初期設定は以下のとおりです。

- CORE モードとライディングモード URBAN
- FULL モードとライディングモード TOURING
- TRACK モードとライディングモード SPORT
- OFF ROAD モードとライディングモード ENDURO

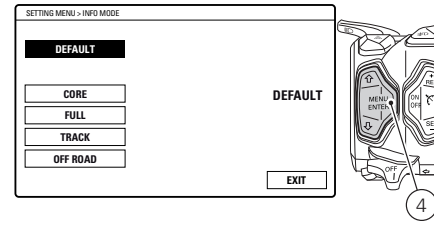


図 94

すべてのライディングモードに共通するひとつの表示モードを選択するには、ボタン (1) または (2) を押します。希望のモードが強調表示されたら、ボタン (4) を押します。選択内容が保存され、現在の表示モードが更新されます。自動的に "EXIT" ボタンが強調表示されます。
ボタン (4) を押すと前の表示に戻ります。

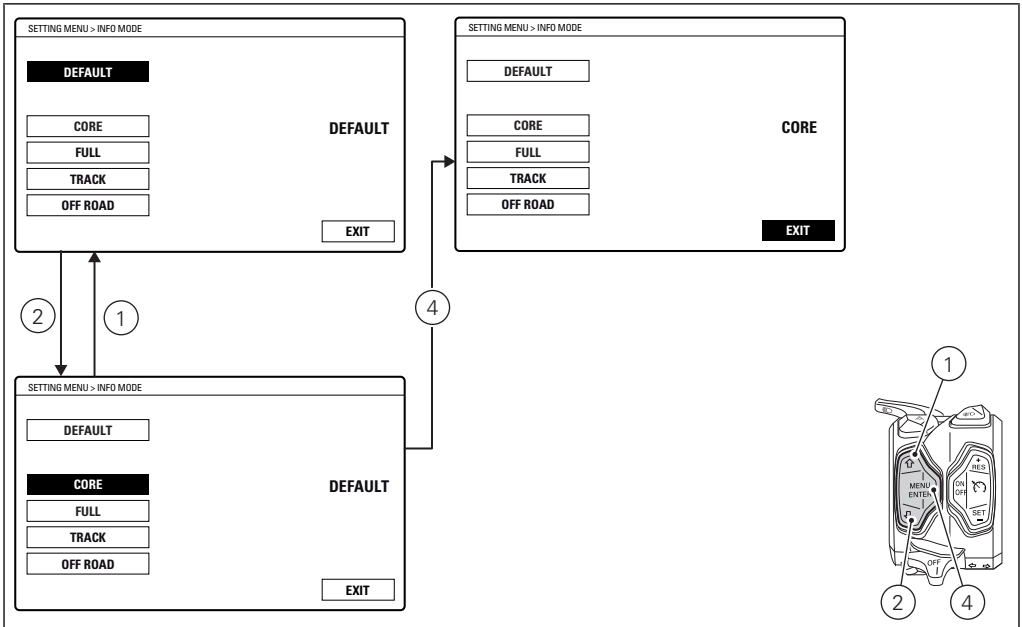

SETTING MENU > INFO MODE
DEFAULT
CORE
FULL
TRACK
OFF ROAD
DEFAULT
EXIT
SETTING MENU > INFO MODE
DEFAULT
CORE
FULL
TRACK
OFF ROAD
CORE
EXIT
SETTING MENU > INFO MODE
DEFAULT
CORE
FULL
TRACK
OFF ROAD
DEFAULT
EXIT
2
1
4
1
MENU ENTER
MES
ON OFF
SET
OFF
2
4

図 95

PIN CODE

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。
PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。
起動するには "PIN CODE の入力" の手順に従います。
PIN を変更するには "PIN CODE の変更" の手順に従います。
不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"車両のロック解除" の手順に従います ページ 247。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE の登録

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "PIN CODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"PIN CODE" メニューに入ります。

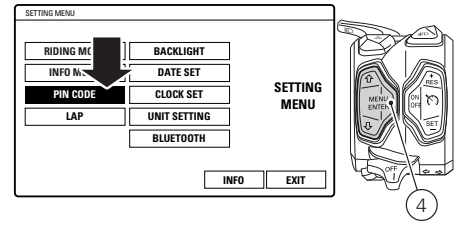


図 96

この機能に入ると、ディスプレイに ″INSERT NEW PIN CODE″ の文字、その下に一桁目が緑色に強調された点線 ″0 - - - ″ が表示されます。
コードの入力 :

1) ボタン (4) を押すと、″0″ で表示される 1 桁のみが緑色で強調表示されます。
2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり (+ 1) 、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり (- 1) 、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

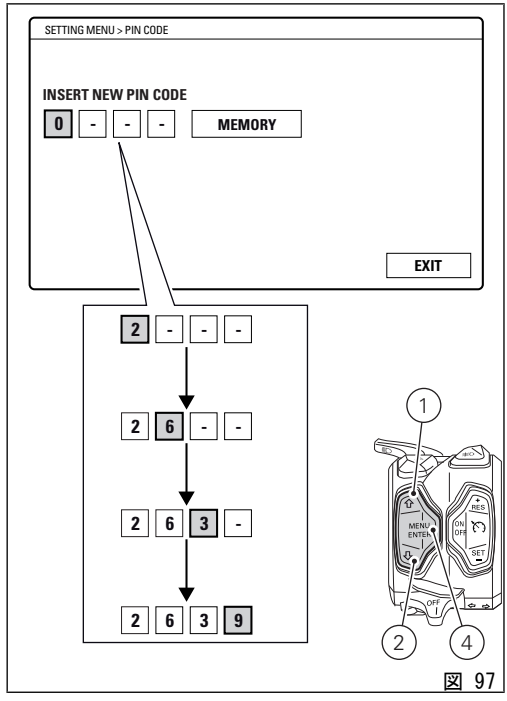


図 97

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY" の文字が強調表示されます。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 1 秒間緑色に強調され、その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
最初の PIN CODE を設定して以降は、メニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更のページになります。PIN CODE 機能がリセットされた場合 (Ducati 正規ディーラーのみ行うことが可能) に限り、最初の PIN CODE の登録ページが有効になり、メニューから入ることができるようになります。

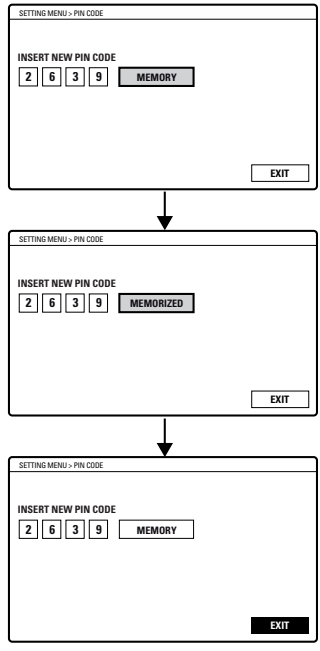


図 98

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "PIN CODE" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"PIN CODE" メニューに入ります。機能に入ると、ディスプレイに "INSERT OLD PIN CODE" と一桁目が緑色に強調された点線 "0 - - -" が表示されます。
旧コードの入力 :

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが緑色で強調表示されます。
2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり (+ 1) 、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり (- 1) 、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

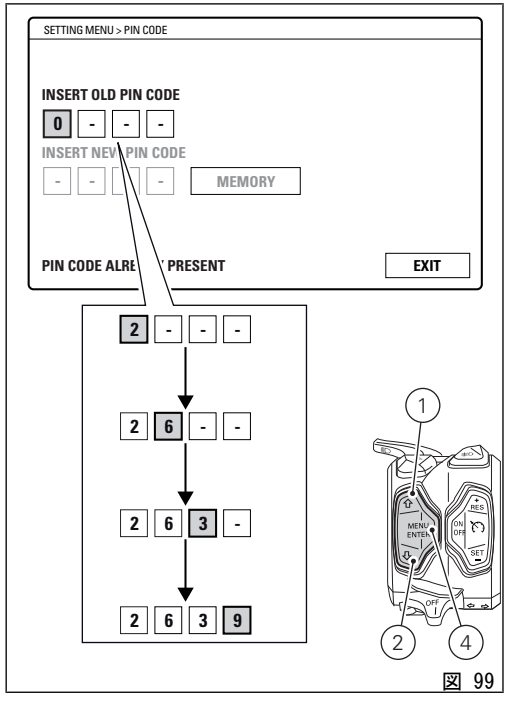


図 99

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。
ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した際、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WORNG" を 3 秒間表示し、その後 OLD PIN を入力する点線 "- - - -" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 3 秒間表示します。その後 "INSERT NEW PIN CODE" と一桁目が緑色に強調された点線 "- - - -" が表示されます。新しい PIN CODE を入力してください。

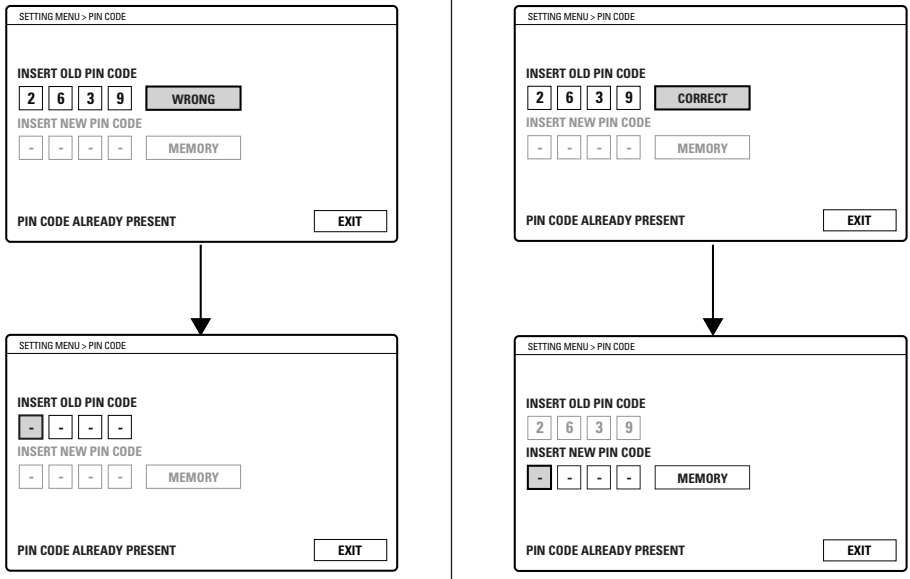

SETTING MENU > PIN CODE
INSERT OLD PIN CODE
2 6 3 9
WRONG
INSERT NEW PIN CODE
- - - -
MEMORY
PIN CODE ALREADY PRESENT
EXIT
SETTING MENU > PIN CODE
INSERT OLD PIN CODE
- - - -
INSERT NEW PIN CODE
- - - -
MEMORY
PIN CODE ALREADY PRESENT
EXIT
SETTING MENU > PIN CODE
INSERT OLD PIN CODE
2 6 3 9
CORRECT
INSERT NEW PIN CODE
- - - -
MEMORY
PIN CODE ALREADY PRESENT
EXIT
SETTING MENU > PIN CODE
INSERT OLD PIN CODE
2 6 3 9
INSERT NEW PIN CODE
- - - -
MEMORY
PIN CODE ALREADY PRESENT
EXIT

図 100

新しいコードの入力：

1) ボタン（4）を押すと、″0″ で表示される 1 桁のみが緑色で強調表示されます。
2) ボタン（2）を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり（+ 1）、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン（1）を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり（– 1）、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン（4）を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

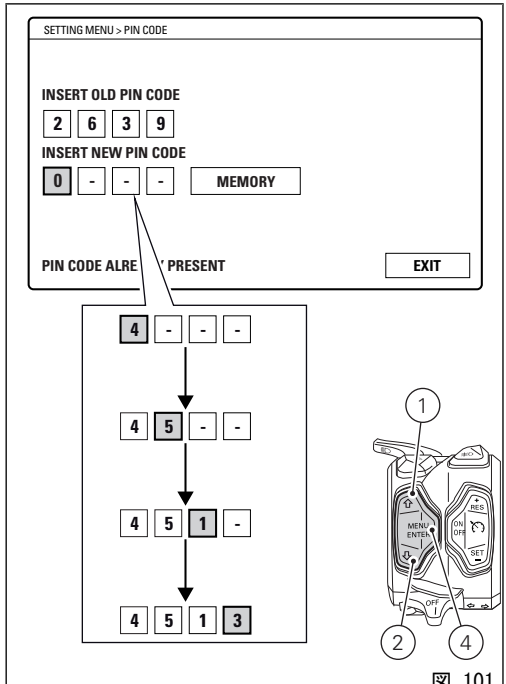


図 101

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY" の文字が強調表示されます。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字がオレンジ色に強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORIZED" の文字が 2 秒間緑色に強調され、その後 "EXIT" の文字が緑色で強調表示されます。
保存に失敗した場合、インストルメントパネルは NEW PIN を入力する点線 "- - - -" を強調表示します。
もう一度新しい PIN CODE を入力してください。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

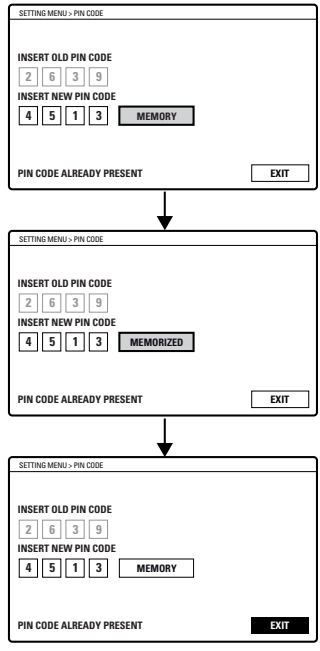


図 102

LAP

LAP 機能メニューに入るには、設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "LAP" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"LAP" メニューに入ります。
メニューでは以下の操作が可能です。

- OFF : LAP 機能を解除します。
- ON : LAP 機能を起動します。
- LAP DATA : "LAP の記録" 機能を使って記録した LAP 情報を表示します。
- ERASE ALL : LAP 記録を削除します。

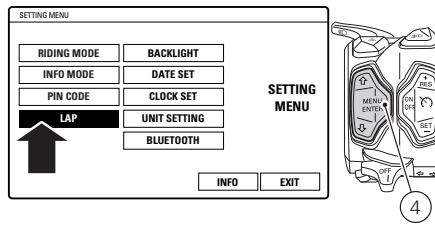
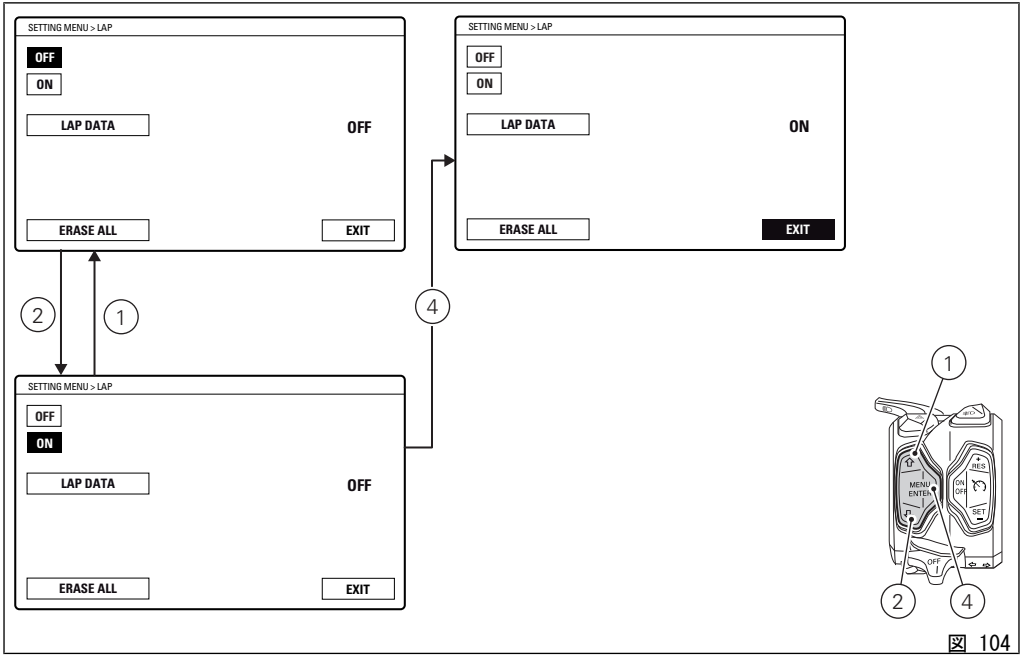


図 103


SETTING MENU > LAP
OFF
ON
LAP DATA
OFF
ERASE ALL
EXIT
SETTING MENU > LAP
OFF
ON
LAP DATA
ON
ERASE ALL
EXIT
SETTING MENU > LAP
OFF
ON
LAP DATA
OFF
ERASE ALL
EXIT
1
2
4
MENU ENTER
SET
OFF

104

記録済み LAP の表示

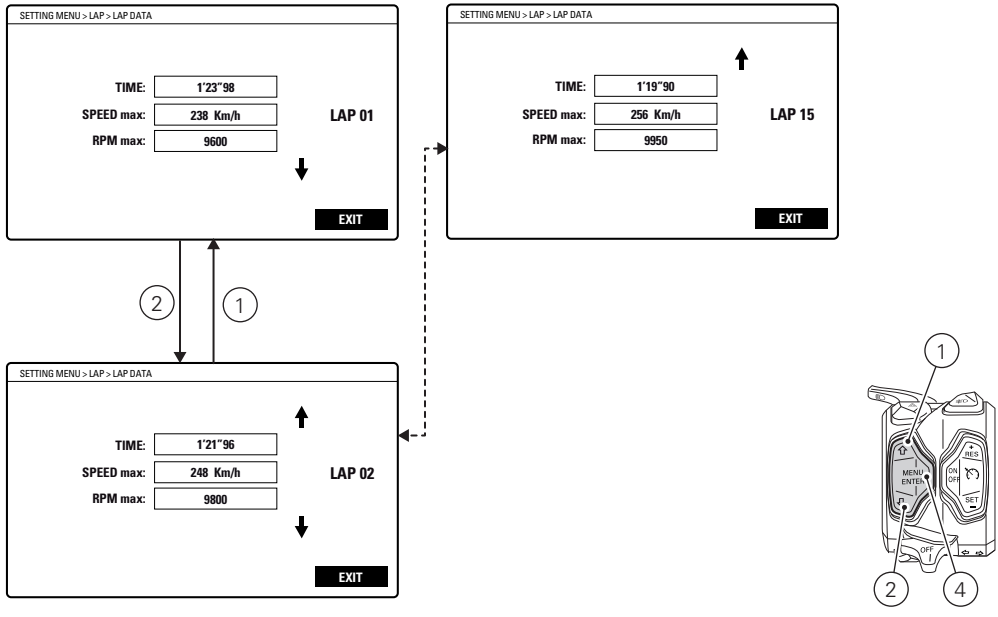
記録済み LAP を表示するには、"LAP" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "LAP DATA" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
機能に入ると以下の内容が表示されます。

- "TIME" の文字の後、記録済みラップタイム
- "SPEEDMAX" の文字の後、ラップ中に記録された最高速度
- "RPMMAX" の文字の後、ラップ中に記録された RPM 値
- "LAP" の文字の後、LAP 数 (例 : LAP 01)。

ボタン (1) および (2) を押すとメモリーされた LAP をひとつずつ表示することができます。特に以下のように表示されます。ボタン (2) を押すと、次のラップが表示されます (LAP 01 ...LAP 02 ...LAP 03 ...LAP 15 のようにラップを昇順で表示)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。ボタン (1) を押すと前のラップが表示され (LAP 15 ...LAP 14 ...LAP 13 ...LAP 01)、その後 "EXIT" の文字が表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考
記録最高スピードはラップ中に到達した速度です (5 % 増大させたもの)。

参考
メモリーにデータが記録されていない場合、ストップウォッチ "-.--.--"、最大回転数 MAX = ------、最高スピード MAX = ----- が表示されます。


SETTING MENU > LAP > LAP DATA
TIME: 1'23"98
SPEED max: 238 Km/h
RPM max: 9600
LAP 01
EXIT
SETTING MENU > LAP > LAP DATA
TIME: 1'19"90
SPEED max: 256 Km/h
RPM max: 9950
LAP 15
EXIT
2
1
SETTING MENU > LAP > LAP DATA
TIME: 1'21"96
SPEED max: 248 Km/h
RPM max: 9800
LAP 02
EXIT
1
MENU ENTER
2
4

105

LAP 記録の削除

記録済み LAP を削除するには、"LAP" メニューに入ります。
LAP メニューまたは LAP 表示ページ (LAP DATA) に入ることで LAP を削除することができます。
ボタン (1) または (2) を押して "ERASE ALL" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
ボタン (4) を 2 秒間押して削除を決定します。
2 秒後、インストルメントパネルのディスプレイには次のように表示されます。

- "WAIT..." (2 秒間)
- 続いて "ERASE OK" の文字が 2 秒間表示され、削除されたことを示します。

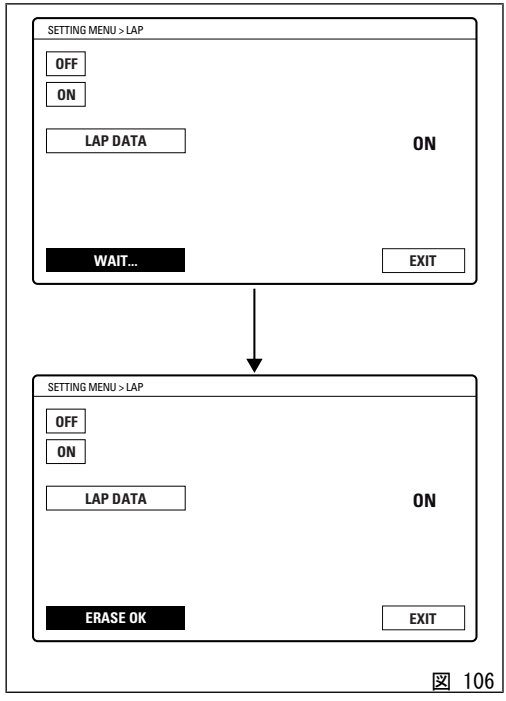


図 106

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。
削除終了後、ラップ 01 から 15 のパラメーターはすべて空白表示 ″-″ されます（ラップタイム = -’ - -’’ - - 、回転数 = - - - - - 、スピード = - - - ）。

メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

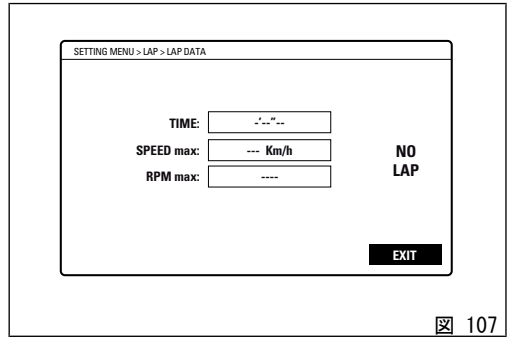


図 107

ディスプレイ背景の設定

この機能では、インストルメントパネルの背景を選択することができます。
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "BACKLIGHT" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"BACKLIGHT" メニューに入ります。

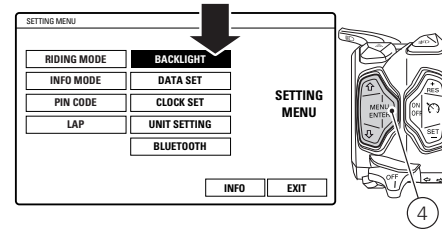


図 108

機能に入ると、左側に設定可能な背景DAY、NIGHT、AUTO が表示され、右側に現在設定しているモードが表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すとインストルメントパネルの背景の種類を一つずつ強調表示することができます。ボタン (2) を押すと次のパラメーターが、ボタン (1) を押すと前のパラメーターが強調表示されます。希望の背景を選択したら、ボタン (4) を押して決定します。インストルメントパネルは直ちにユーザーが選択した表示モードを ON にし、該当する文字が自動的に強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

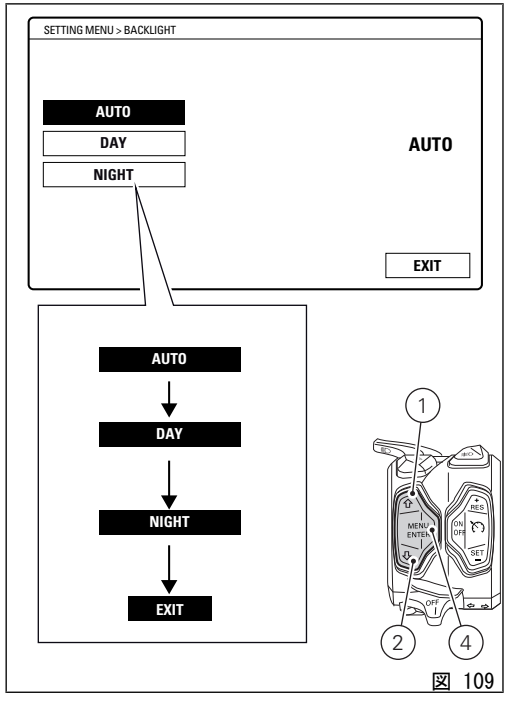


図 109

DAY 設定（昼間モード）を選択すると、ディスプレイの背景が読み取りやすい ″白″ に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。
NIGHT 設定（夜間モード）を選択すると、ディスプレイの背景がソフトなコントラストの ″黒″ に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。
AUTO 設定（自動モード）を選択すると、ディスプレイの背景が外光の強さ（センサーが感知）に応じて自動的に調整されます。
外光が強い場合ディスプレイの背景は白になり、外光が弱い場合はディスプレイの背景が黒になります。

日付の設定

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "DATE SET" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

重要

バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

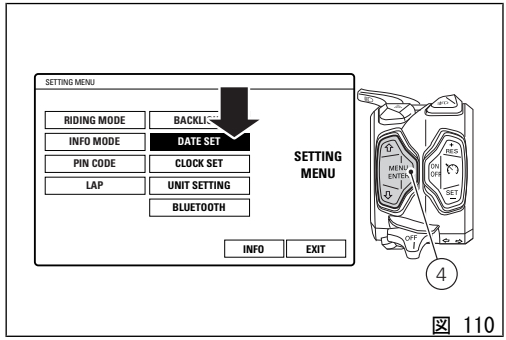


図 110

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、YEAR、MONTH、DAY が表示され、右側には設定された日付が表示されます（例：2012/01/27）。

年の調整

ボタン（1）または（2）を押して "YEAR" を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
年のデータが点滅し始めます。
ボタン（1）を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。2099, 2098, ...2000, 2099。
ボタン（2）を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。2000, 2001, ...2099, 2000。
希望の値に達したら、ボタン（4）を押します。設定された年の値が固定表示に変わります。

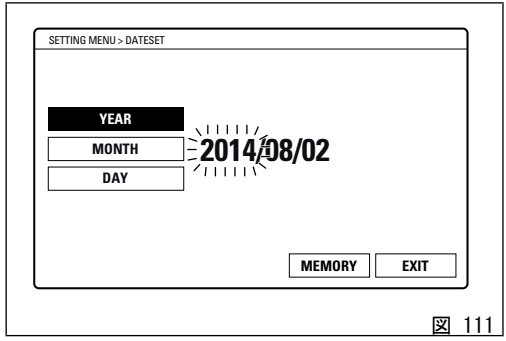


図 111

月の調整

ボタン (1) または (2) を押して "MONTH" を選択します。
強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
月のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。12, 11, ...01, 12。
ボタン (2) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ...12, 01。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された月の値が固定表示に変わります。

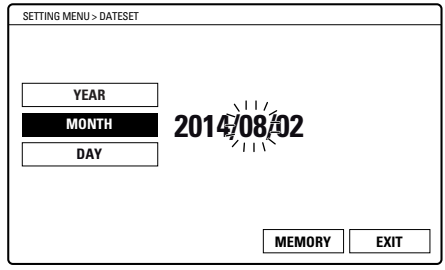


図 112

日の調整

ボタン (1) または (2) を押して "DAY" を選択します。
強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
日のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。31, 30, ...01, 31。
ボタン (2) を押すと、日の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ...31, 01。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された日の値が固定表示に変わります。

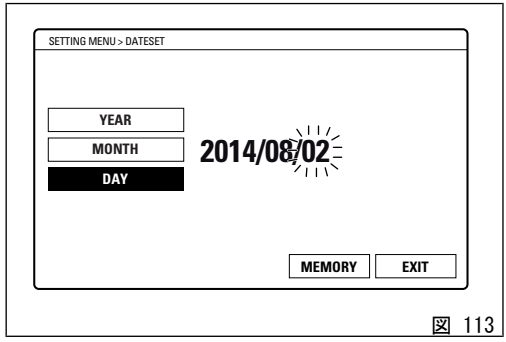


図 113

日付の保存

設定もしくは変更した日付を保存するには、ボタン (1) および (2) を押して "MEMORY" を選択し、ボタン (4) を 2 秒間押します。インストルメントパネルは "MEMORIZED" を 2 秒間表示し、自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。

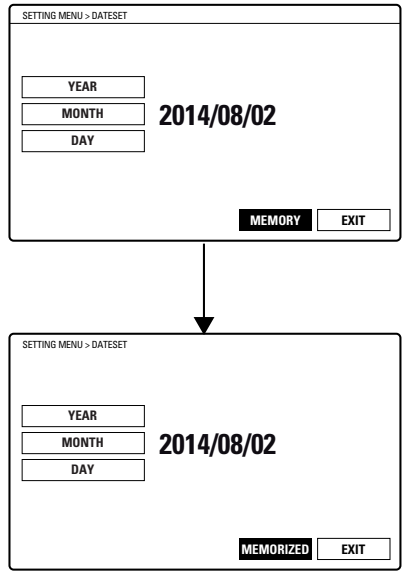


図 114

日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG DATE" を 3 秒間点滅表示した後、日付に点線 " ---- / -- / --" を表示して自動的に "EXIT" の文字を強調表示します。この場合も新しく別の日付を設定することができます。
前の画面（設定メニューページ）に戻るには、"EXIT" の文字が強調表示されている状態でボタン (4) を押します。

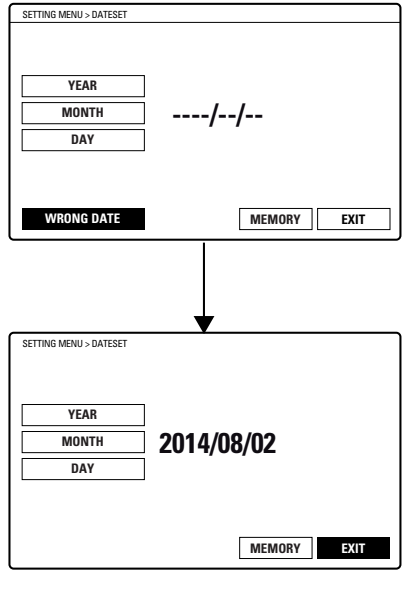


図 115

時計の調整

この機能は時計の調整/設定をします。
設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "CLOCK SET" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。"CLOCK SET" メニューに入ります。

参考

バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

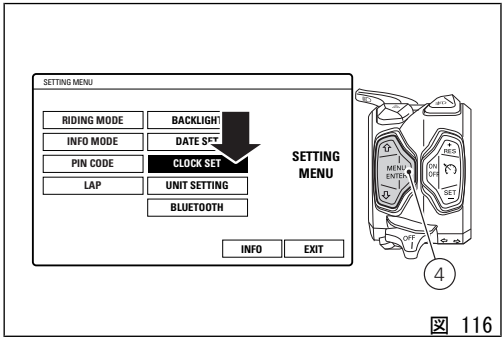


図 116

メニューに入ると、左側に調整が可能な内容、HOUR、MINUTE、AM / PM が表示され、右側には設定されたが表示されます（例：10 :30 a.m.）。

AM/PM の調整

ボタン（1）または（2）を押して "AM/PM" を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
データが点滅し始めます。
ボタン（1）または（2）を押してそれぞれに対応する AM または PM を選択します。
希望の値に達したら、ボタン（4）を押します。設定されたデータが固定表示に変わります。

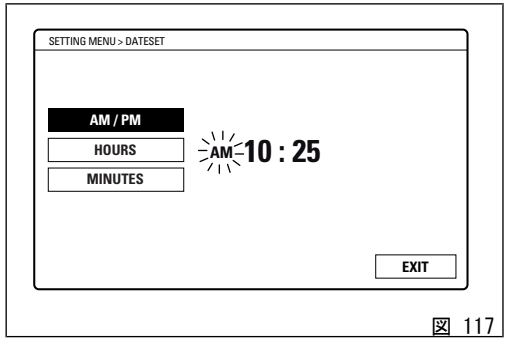


図 117

時間の調整

ボタン（1）または（2）を押して "HOUR" を選択します。
強調表示されたら、ボタン（4）を押します。時間のデータが点滅し始めます。
ボタン（1）を押すと、時間の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。12, 11, ... 1, 12。
ボタン（2）を押すと、時間の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。12, 1, ... 12。
希望の値に達したら、ボタン（4）を押します。設定された時間の値が固定表示に変わります。

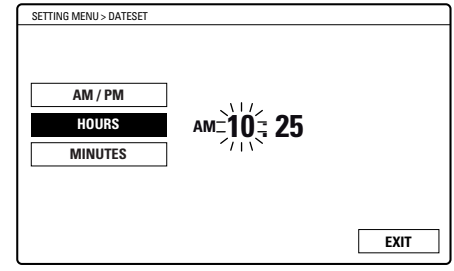


図 118

分の調整

ボタン（1）または（2）を押して"MINUTE"を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
分のデータが点滅し始めます。
ボタン（1）を押すと、分の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。59, 58, ...00, 59。
ボタン（2）を押すと、分の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。00, 01, ...59, 00。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された分の値が固定表示に代わります。

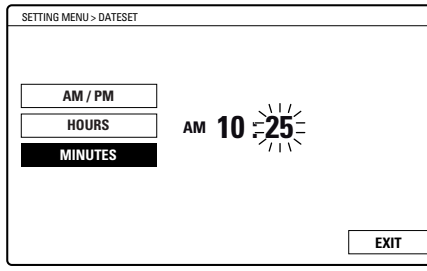


図 119

時間の保存

調整を終了するたびに、時間は自動的に設定されます（中央のコロンが点滅）”。

メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

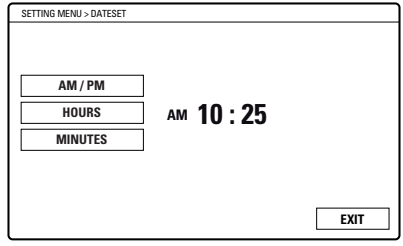


図 120

単位の設定

この機能では、使用する国に関わらず、表示される単位を変更することができます。
手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "UNIT SETTING" を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"UNITS SETTING" メニューに入ります。

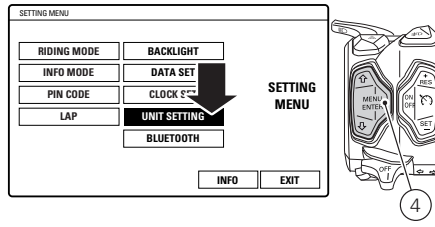


図 121

この機能に入ると、左側に単位の設定が可能な項目の一覧が表示されます。

- スピード（SPEED）
- 温度（TEMPERATURE）
- 燃費（CONSUMPTION）
- 自動設定回復（DEFAULT）

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

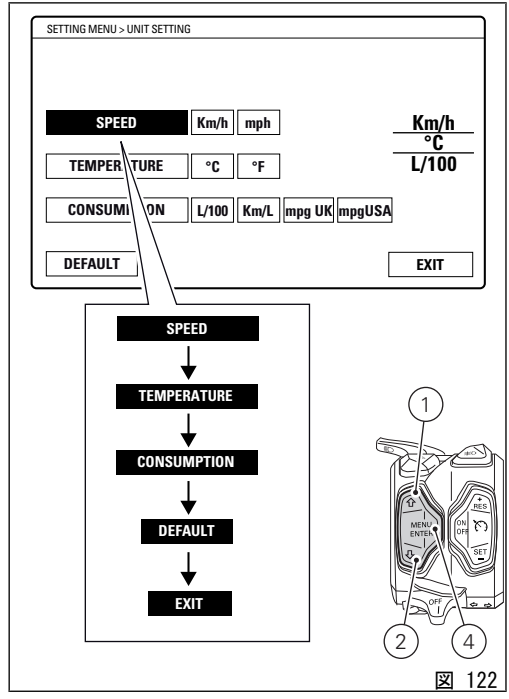


図 122

単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます(走行距離の単位も同時に変更します)。
前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して “SPEED” を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。“SPEED” メニューに入ります。
機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト km/h、mph が表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。選択した単位は保存され、“EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

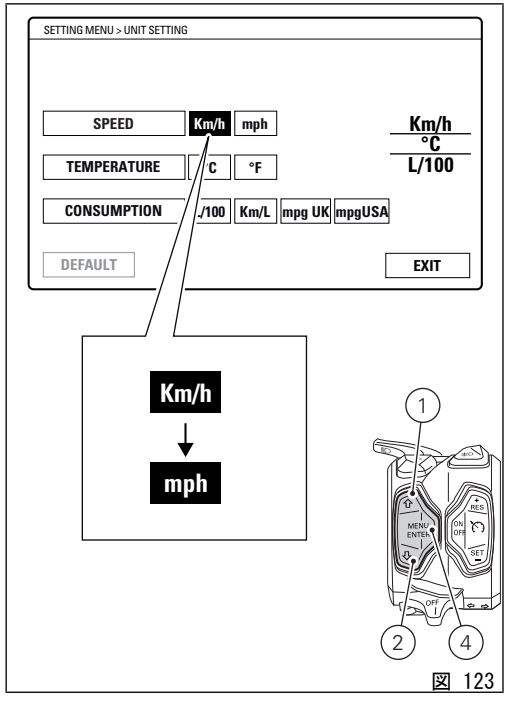


図 123

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード、平均スピード (km/h または mph)
- オドメーター、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL (km または mi)

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。
前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して ”TEMPERATURE” を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
“TEMPERATURE” メニューに入ります。機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト° C 、° F が表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。選択した単位は保存され、”EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

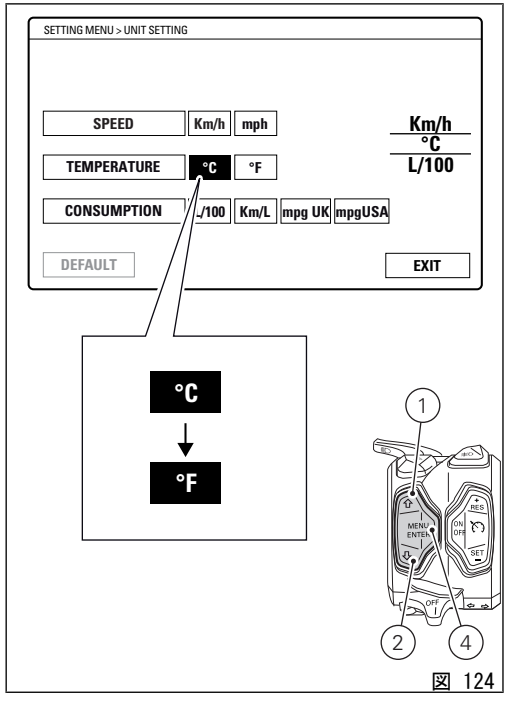


図 124

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- エンジンクーラント温度および外気温

単位の設定燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して ”CONSUMPTION” を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。”CONSUMPTION” メニューに入ります。
機能に入ると現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリストL / 100km, km / L, mpg (UK), mpg (USA) が表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。
希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押して決定します。選択した単位は保存され、”EXIT” の文字が自動的に強調表示されます。

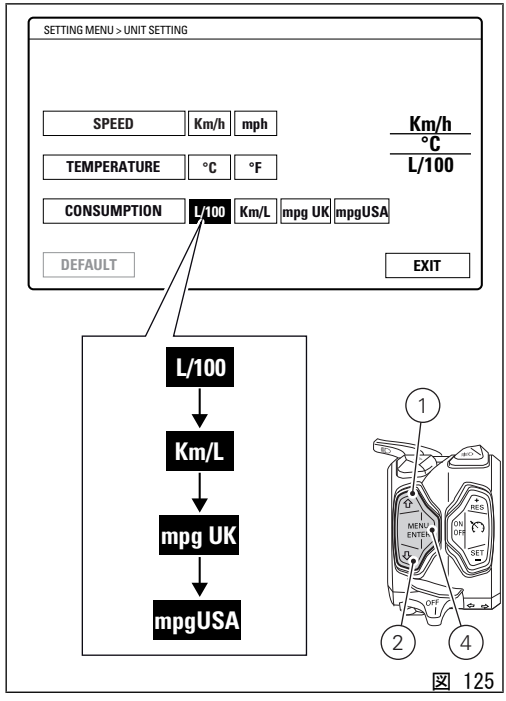


図 125

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 瞬間燃費および平均燃費

単位の設定自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。
前のページの記載に従い、“UNITS SETTING” メニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して "DEFAULT" を選択します。
機能が強調表示されたら (D)、メニュー決定ボタン (4) を 3 秒間押します。ディスプレイに "WAIT..." が 2 秒間表示され、その後 "UNITS SETTING" メニューページに移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

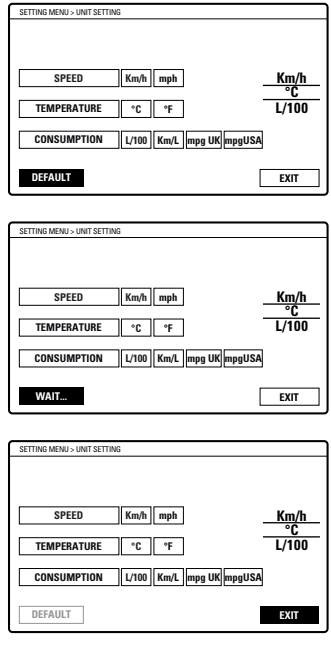


図 126

Bluetooth デバイス設定

この機能では Bluetooth デバイスのペアリング、およびその解除を行います。
これらを実行するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して "BLUETOOTH" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。
"BLUETOOTH" メニューには Bluetooth 機能が起動しているときのみ入ることができます。
プレーヤーが作動している時や着信中、通話中、最呼び出し中には BLUETOOTH メニューに入ることはできません。
デバイスのペアリング方法は "新しいデバイスのペアリング" を参照してください。
デバイスのペアリング解除方法は "ペアリングデバイスの削除" を参照してください。

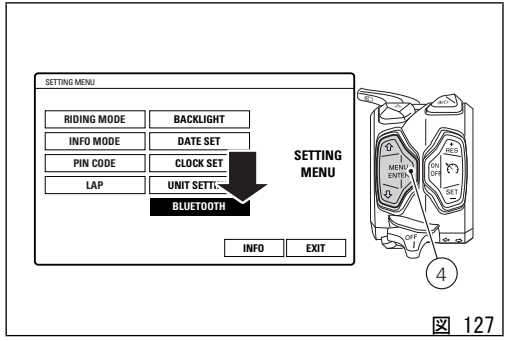


図 127

新しいデバイスのペアリング

この機能ではひとつ以上の Bluetooth デバイスを "PAIRING" コマンドを使用してペアリングすることができます。
Bluetooth デバイスをコントロールユニットが検出してアクセスできるように設定します。
検出モードにあるとき、Bluetooth デバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようにします。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。
車両には Bluetooth コントロールユニットが装備されています。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告
Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります（スマートフォン、ヘッドセット）。

警告
ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット（音楽共有、マルチメディア再生など）の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン（Bluetooth 対応プロファイルによる）に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。
- "Kit Ducati キット（部品番号：981029498）に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン（"Ducati キット　部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも）

警告
外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット（部品番号：981029498）ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます（詳しくは Ducati キット（部品番号: 981029498）のトルクで締め付けます。

参考

Ducati キット（部品番号：981029498）は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

BLUETOOTH 設定メニューに初めてアクセスすると、デフォルトラベルとして "PAIRING" が強調表示されます。
ボタン (4) を押してペアリング機能を起動すると、Bluetooth デバイスの検索を始めます。デバイス検索中のマークが点灯し、"WAIT…" の文字が表示されます。
近くにあるデバイスを検出した時点でペアリングは自動的に終了します。
ペアリングに失敗した場合は、"PAIRING LOSTPLEASE EXIT" の文字が表示されます。. この場合は BLUETOOTH 設定メニューを一旦終了し、もう一度メニューに入りペアリングをやり直してください。
ペアリングが正常に終了した場合は、Bluetooth デバイスを検出した時点でデバイス名がデバイス一覧に表示されます。デバイスは最大 20 個まで表示することができます。
ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、Bluetooth ON 状態であってもすでにペアリングされているデバイスは表示されません。
二つ以上のデバイスが同じデバイス名を持っている場合は、検出デバイス一覧には同じ名前のラベルが二つ以上表示されます。
検出されたデバイスにデバイス名が存在しない場合は、検出デバイス一覧には表示されません。
デバイスの検索中は以下の操作が可能です。

- ボタン (1) および (2) を押して一覧をスクロールできます。
- ボタン (4) を押して、ペアリングしたいデバイスの "CONNECT" ラベルを選択できます。選択したデバイスのラベルを選択すると "WAIT" の文字が表示されます。

ペアリングを終了するには "EXIT" の文字を選択し、ボタン (4) を押します。

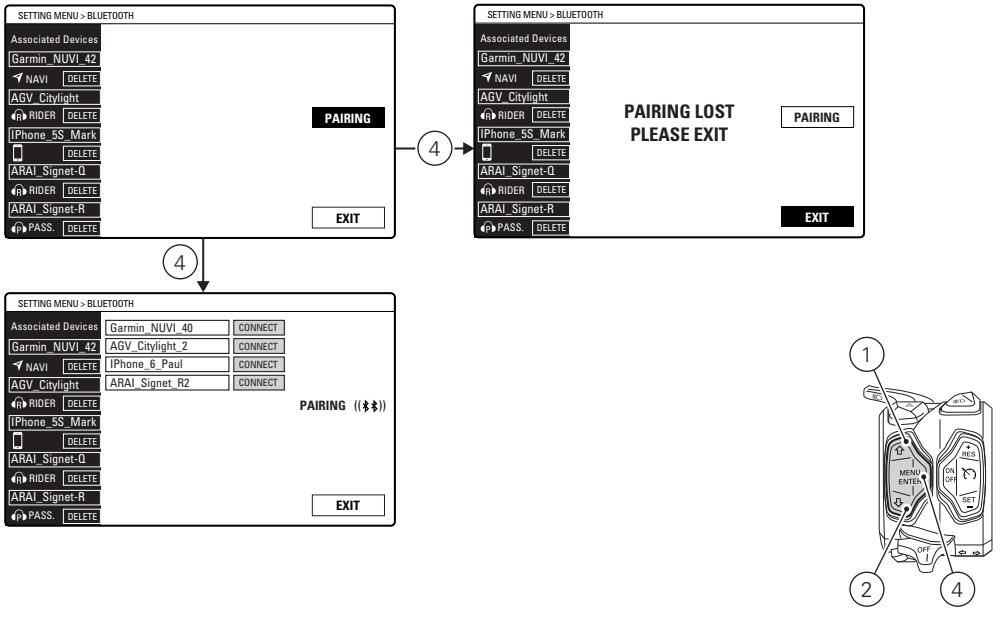

SETTING MENU > BLUETOOTH
Associated Devices
Garmin_NUVI_42
NAVI
DELETE
AGV_Citylight
RIDER
DELETE
IPhone_5S_Mark
DELETE
ARAI_Signet-Q
RIDER
DELETE
ARAI_Signet-R
PASS.
DELETE
PAIRING
EXIT
4
SETTING MENU > BLUETOOTH
Associated Devices
Garmin_NUVI_42
NAVI
DELETE
AGV_Citylight
RIDER
DELETE
IPhone_5S_Mark
DELETE
ARAI_Signet-Q
RIDER
DELETE
ARAI_Signet-R
PASS.
DELETE
PAIRING LOST
PLEASE EXIT
PAIRING
EXIT
4
SETTING MENU > BLUETOOTH
Associated Devices
Garmin_NUVI_42
NAVI
DELETE
AGV_Citylight
RIDER
DELETE
IPhone_5S_Mark
DELETE
ARAI_Signet-Q
RIDER
DELETE
ARAI_Signet-R
PASS.
DELETE
Garmin_NUVI_40
CONNECT
AGV_Citylight_2
CONNECT
IPhone_6_Paul
CONNECT
ARAI_Signet_R2
CONNECT
PAIRING
EXIT
1
2
4
MENU
ENTER
SET
OFF

図 128

ペアリングが可能な最大デバイス数は以下のとおりです。

- スマートフォン 2 台
- ナビゲーター 1 台
- ライダーヘルメット 1 個
- パッセンジャーヘルメット 1 個

すでに 5 つのデバイスがペアリングされている場合にユーザーが新たにペアリングしようとすると、"MAX 5 DEVICES CAN BE ASSOCIATED"（ペアリングは最大 5 デバイスまで可能）と "REFER TO USER MANUAL"（ユーザーマニュアルを参照）のメッセージが表示されます。
最初のペアリングされたデバイスの "DELETE" が自動的に強調表示されます。ひとつ以上のデバイスを解除するか（"ペアリングデバイスの削除" を参照）、もしくは Bluetooth 設定メニューを終了することができます。

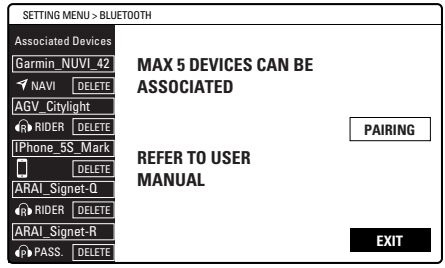


図 129

デバイスがペアリングされると、ユーザーはボタン (1)、(2) を押して接続されたデバイスタイプを選択し、最後にボタン (4) を押して決定します。デバイスタイプは順番に次のとおりです。

- スマートフォン
- ライダーヘルメット
- パッセンジャーヘルメット
- ナビゲーター

デバイスタイプを選択すると、ディスプレイに "WAIT…" と表示されます。
関連付けが終了すると、"WAIT" の文字が接続されたデバイス名に代わります。デバイス名は最初の数文字だけが表示されます。

ペアリングは Bluetooth 設定メニューを終了するか、検出されたデバイスの他に Bluetooth デバイスが存在しないと終了します。

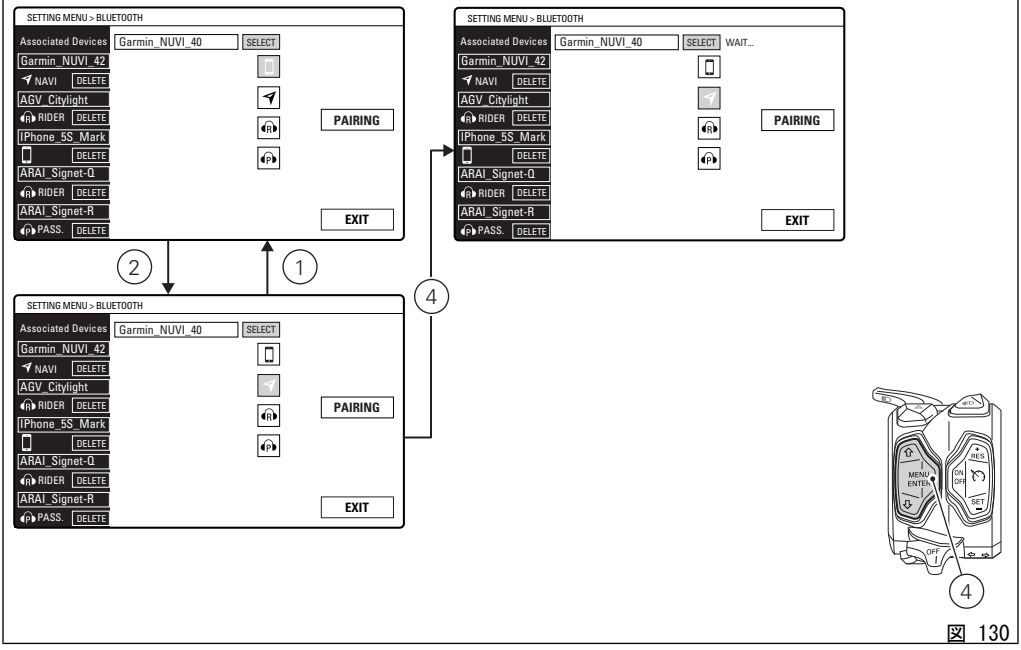

SETTING MENU > BLUETOOTH
Associated Devices
Garmin_NUVI_40
SELECT
Garmin_NUVI_42
NAVI
DELETE
AGV_Citylight
RIDER
DELETE
PAIRING
IPhone_5S_Mark
DELETE
ARAI_Signet-Q
RIDER
DELETE
ARAI_Signet-R
PASS.
DELETE
EXIT
WAIT...
2
1
4
MENU ENTER
SET
OFF
4

図 130

スマートフォンをペアリングする場合には、Bluetooth コントロールユニットとペアリングするためのペアリングコード（0000）の入力が必要になります。デバイスを Bluetooth コントロールユニットにペアリングする初回のみコードを入力します。この場合は、インストルメントパネルに "INSERT PIN ON SMARTPHONE:0000 "（スマートフォンに PIN を入力してください：0000）の表示が現れます。
ユーザーがスマートフォンに PIN を入力すると、デバイスはペアリングされます。

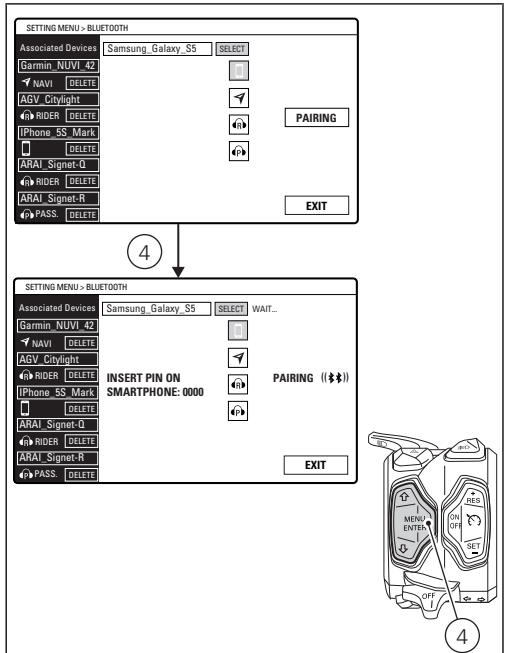


図 131

ナビゲーター

Bluetooth ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。この場合ペアリング中は Bluetooth 設定メニュー内に "CONNECT ON NAVI" の文字が表示されます。コントロールユニットとデバイスとの接続に成功するとこの文字は消えます。

参考

万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しないときは、インストルメントパネルのペアリング画面が終了し、Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

ペアリング中、ペアリング開始から 90 秒後にスクロールが起動し（ペアリング中にエラーが発生した場合）、ペアリングを中止するのが適切だと判断される場合に "EXIT" の点滅文字枠だけを選択できるようにします。

- UP/DOWN を押すと "EXIT" が緑色に変わります（"ENTER" を押して Bluetooth 設定メニューを終了することができます）。
- UP/DOWN を押すと "EXIT" が白色に変わります（この場合は Bluetooth 設定メニューを終了することはできません）。

ペアリングが完了すると、"WAIT" の文字が接続されたデバイス名に代わります。(完全なデバイス名がスクロールされ、その後デバイス名の最初の数文字だけが表示されます)。

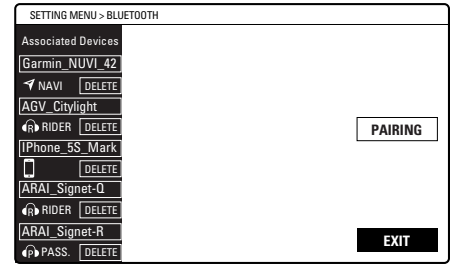


図 132

ペアリングデバイスの削除

Bluetooth メニューから、"DEVICE" ラベル上でボタン (4) を押してデバイス一覧にアクセスすることができます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、ペアリングデバイス一覧からデバイスを選択することができます。次に、"DELETE" ラベル上でボタン (4) を 2 秒以上押し続け、デバイスを削除します。
削除されたデバイスが、ペアリングデバイス一覧から消えます。この時点でペアリングデバイス一覧が更新されます。ボタン (4) を押して "EXIT" の点滅している文字枠を選択すると、ペアリングデバイス一覧から設定メニューのメイン画面に戻ります。

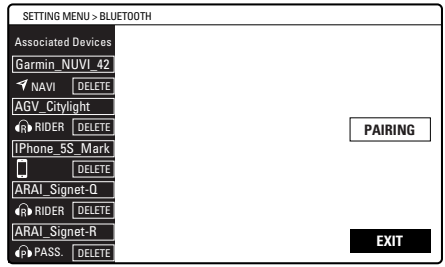


図 133

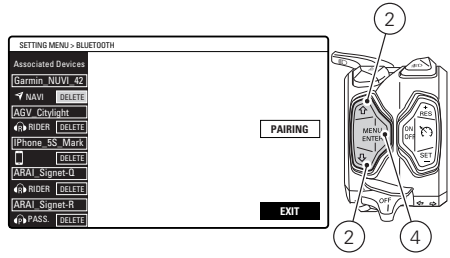


図 134

インフォメーション（INFO）

この機能では役に立つ各種情報を表示します。
"INFO" を表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）および（2）で "INFO" を表示してボタン（4）を押します。
次の情報を見ることができます。

- BATTERY（バッテリー電圧）
- RPM（エンジン回転数表示）
- BLUETOOTH version（Bluetooth モジュールバージョン）

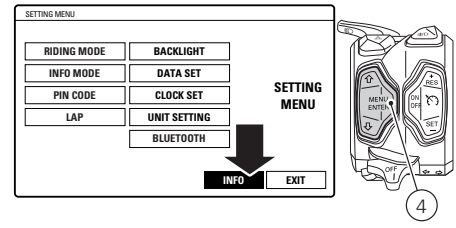


図 135

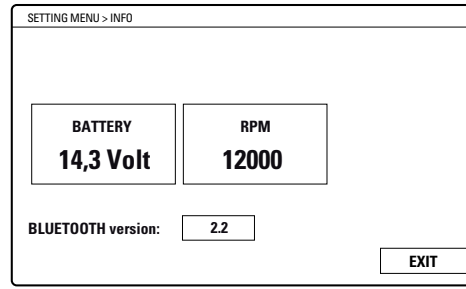


図 136

ライトコントロール
ロービーム/ハイビームランプ

ヘッドランプの点灯および消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。
Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままで、パーキングランプのみが点灯します。
エンジンを始動するとロービームランプが起動します。エンジンが作動している状態でランプの標準機能が回復します。ボタン (3) のポジション (A) と (B) でロービームとハイビームの切り替えを行います。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (3) をポジション (C) に押してロービーム/ハイビームランプを起動することができます。

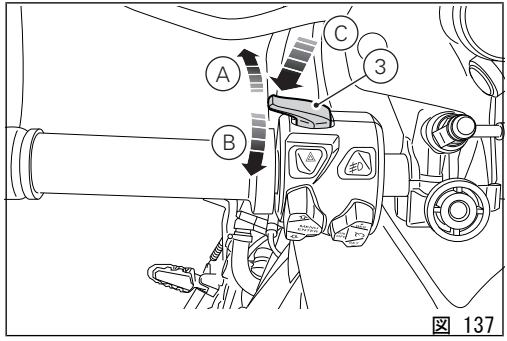


図 137

手動でランプを起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ロービームまたはハイビームランプは再び停止します（OFF）。
エンジン始動前に（上記の方法で）ロービームまたはハイビームランプを点灯させた場合、エンジンを始動する際ヘッドランプが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再び点灯します。

コーナリングランプの起動 / 解除

この機能でコーナリングランプの自動 ON / OFF が可能です。コーナリングランプは、車両がカーブに進入する際に傾斜側前方の角付近の道路を照らして見やすくするためのランプです。右に傾斜すると右側のコーナリングランプが点灯し、左に傾斜すると左側が点灯します。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
左ターンインジケーターを起動するにはボタン（10）をポジション（I）に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタン（10）をポジション（L）に押します。
左側スイッチのボタン（10）を押してターンインジケーターを解除することができます。
ターンインジケーターコマンドの手動解除が行われなかった場合、起動してから 500 m（0.3マイル）走行すると、インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは 80 km/h（50 mph）以下でのみ行なわれます。
自動解除の走行距離カウントがスタートしてから速度が 80 km/h（50 mph）を上回った場合、カウントは中断されます。その後、前述の速度を下回るとカウントが再開されます。

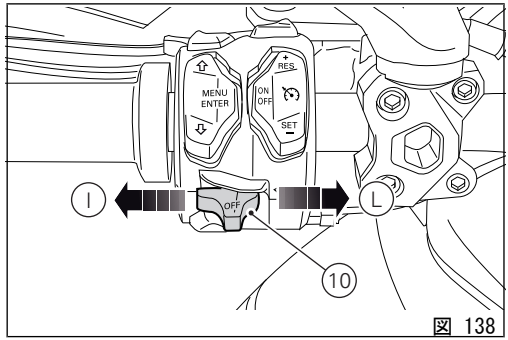


図 138

ハザード機能（ターンインジケーターすべて点滅）

"ハザード" 機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン (11) を押して "ハザード" 機能を作動することができます。この機能は車両が起動している場合 (Key-ON) に限り起動することができます。"ハザード" 機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルのランプが同時に点滅します。"ハザード" 機能は、車両が起動している状態 (Key-ON) でのみボタン (11) を押して手動で解除することができます。

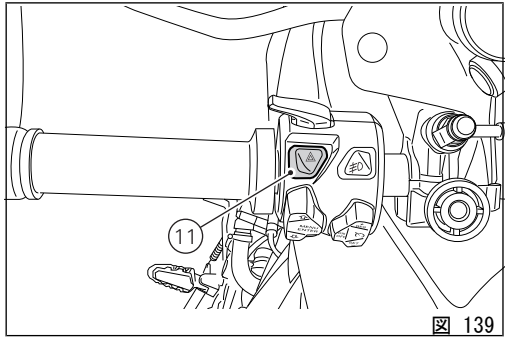


図 139

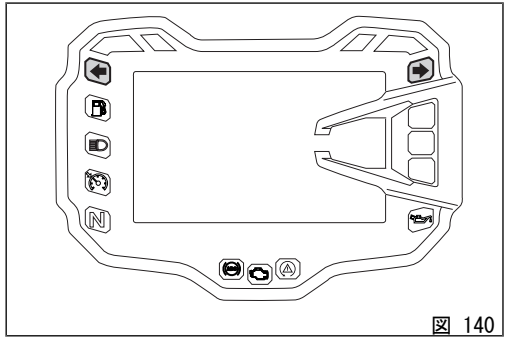


図 140

"ハザード" 機能を起動してから車両を停止した場合は（キーを "OFF" 位置に回す)、 ハザード機能はその後 2 時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、2 時間後ターンインジケーターは自動的に消灯します。

参考

"ハザード" 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます（ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考

"ハザード" 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード" 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

表示 "ステアリングをロックするには起動ボタンを押してください" (Key-OFF 時)

この機能は、ステアリングロックを起動させるにはボタンを押す必要があることを示します。
車両を停止してから 60 秒以内に起動ボタンを押すと、ステアリングロック状態に入ります。
"KEEP PRESSED TO LOCK" の表示は、起動ボタンが少なくとも 1 秒押されると表れます。

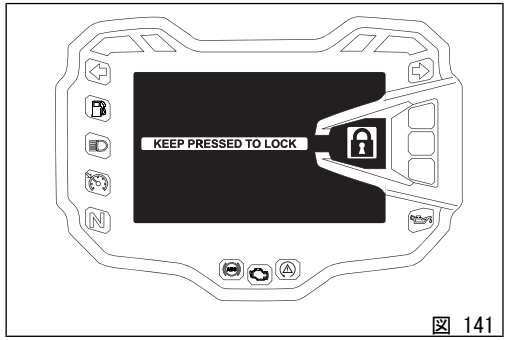


図 141

ステアリングロック起動表示 (Key-OFF 時)

この機能は Key-OFF 時にステアリングロック状態に入ったことを示します。
正常にステアリングロック状態に入れば、ディスプレイ上に "STEERING LOCKED" が 5 秒間表示されます。

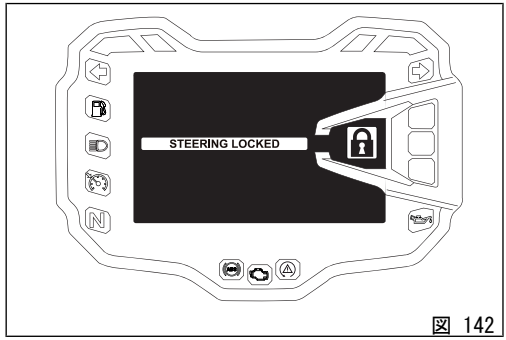


図 142

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム（イモビライザー）が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーボディには電子装置が内蔵されています。この電子装置は車両の起動時にヘッドライトフェアリングに組み込まれた特殊アンテナから送られる信号を変調します。この信号はパスワードの役割を果たし、起動のたびに変更されます。CPU がその "パスワード" によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、以下のキーが付属します。

- アクティブキー 1 本 (1)
- パッシブキー 1 本 (2)

これらのキーは、Hands Free システムにおいて複数の方法で Key-ON するためのコードを備えています。

アクティブキー (1) は通常時に使用します。キーについているボタン (A) を押すとキーの金属部分 (B) が外に出ます。
金属部分をボディ内部に押し入れて戻します。

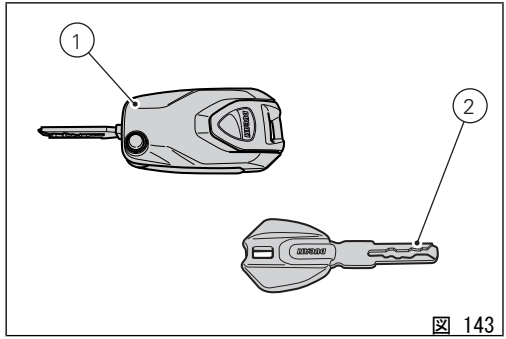


図 143

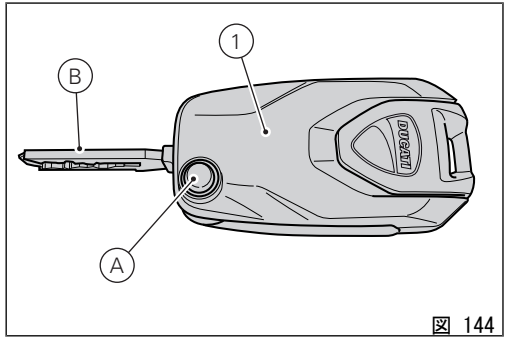


図 144

アクティブキー内部には、バッテリーが内蔵されています。インストルメントパネル起動時に、キーとバッテリーマークの下に ″low level″ のメッセージが表示される場合はバッテリーを交換する必要があります。

参考
この場合はできるだけ早くバッテリーを交換してください。

バッテリー残量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキーモードでのみ作動します。この場合、インストルメントパネルには一切のメッセージが表示されません。

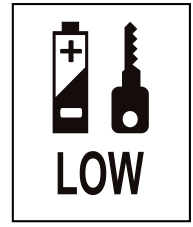


図 145

警告

キー（アクティブキーまたはパッシブキー）をフィラープラグのロックやシートロックに差したまま走行しないでください。途中でキーが抜けて思わぬ事故につながるおそれがあります。また、強い衝撃はキーの機械部分や内部回路に損傷を与える可能性があります。

過酷な気象条件下でキーを挿入したまま走行することも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があります。

洗車中にキーを車両の上に放置しないでください。防水対応はしておりませんので、損傷するおそれがあります。

アクティブキーのバッテリー交換

参考
交換後のキーの再設定は必要ありません。

バッテリーの金属部分を取り出します。
図のように、ボディ裏側のプラスチックカバーを前方に押し、上に持ち上げて取り外します。

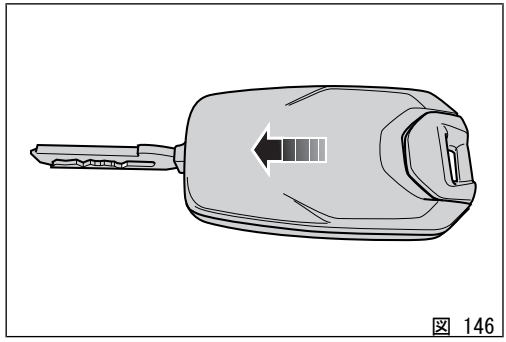


図 146

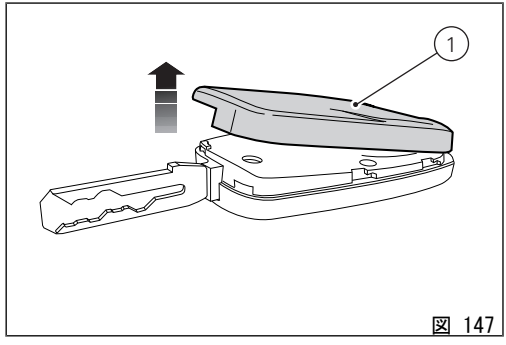


図 147

プラスチックカバーが外れたら、バッテリー保護カバー（2）を取り出します。
バッテリー（3）を取り出して、新しいバッテリーと交換します。

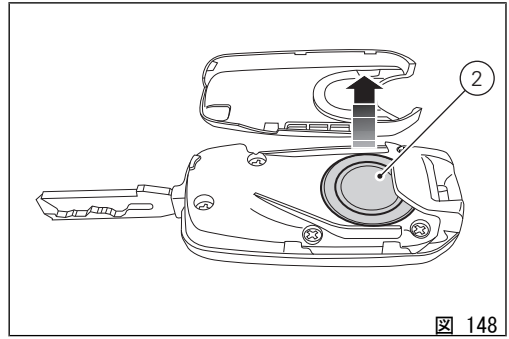


図 148

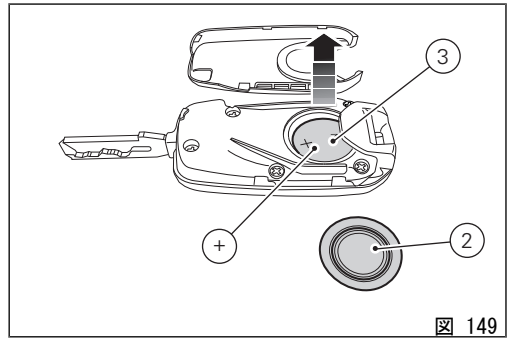


図 149

バッテリーを所定の取付位置に入れます。このとき電極に十分に注意し、プラス（+）を必ず上に向けてください。

重要
指定バッテリーのみ、使用してください。

バッテリー固定用カバー（2）を取り付けます。

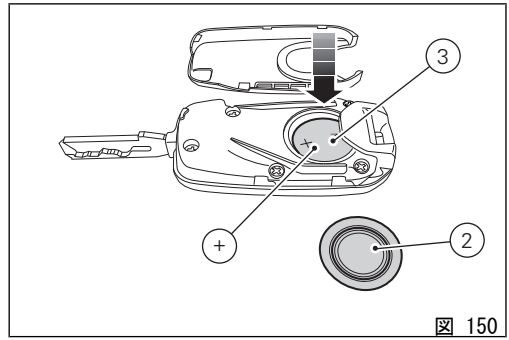


図 150

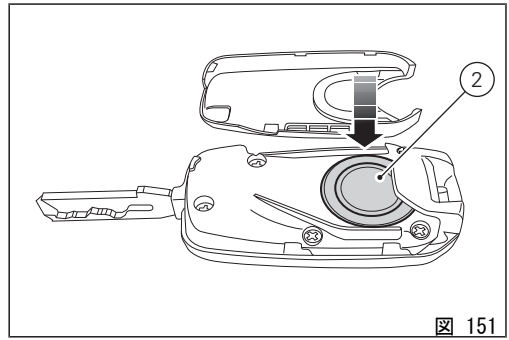


図 151

裏側のプラスチックカバーを図のように軽く押しながら取り付けます。
キーが確実に閉じられたことを確認します。

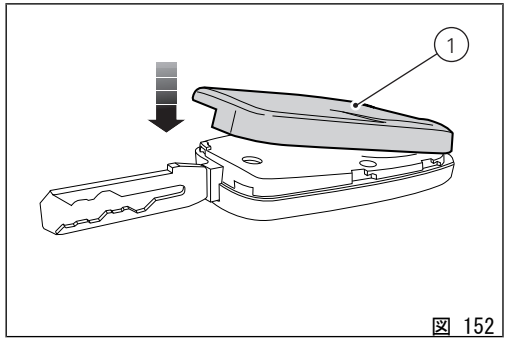


図 152

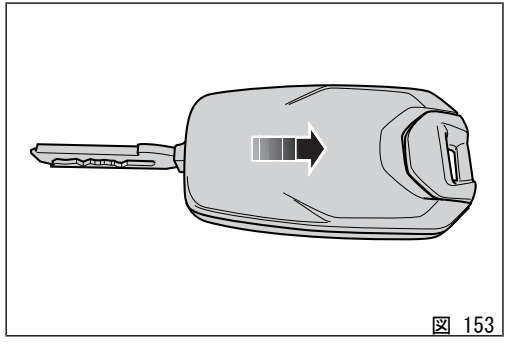


図 153

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。
Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。
Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。
登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が起動している場合、インストルメントパネルは ″メニュー 1″ にロック解除のコードを入力できるように、″INSERT PIN CODE″ の文字とその下に一桁目の ″0″ と 3 本の点線を表示します。

コードの入力：

1) ボタン（4）を押すと、″0″で表示される 1 桁のみが緑色で強調表示されます。
2) ボタン（2）を押す度に数字が ″9″ までひとつずつ大きくなり（+ 1）、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン（1）を押す度に数字が ″1″ までひとつずつ小さくなり、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン（4）を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

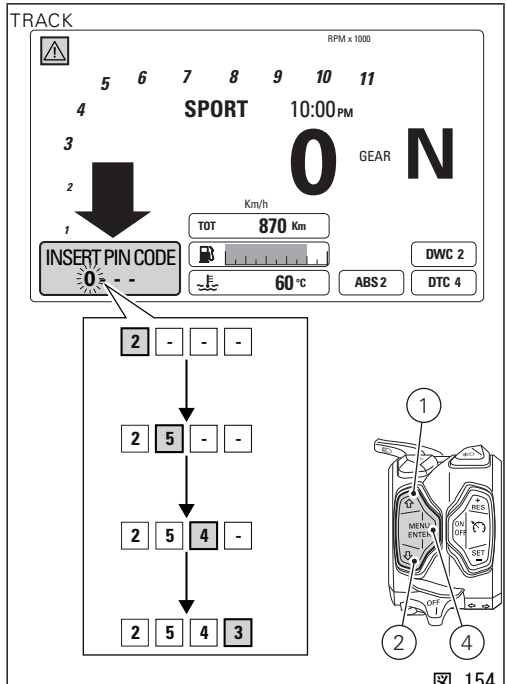


図 154

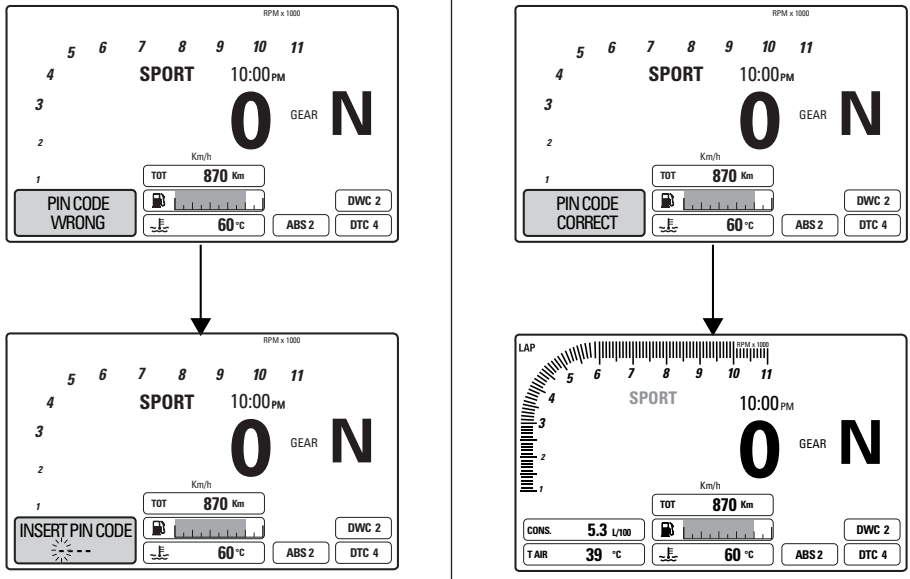
ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 3 秒間表示し、その後再び点線 "- - - -" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力可能時間は 2 分間に設定してあります。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 3 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

TRACK


RPM x 1000
5 6 7 8 9 10 11
4
3
2
1
SPORT
10:00 PM
0
GEAR
N
Km/h
TOT 870 Km
PIN CODE WRONG
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
INSERT PIN CODE
PIN CODE CORRECT
LAP
CONS. 5.3 L/100
T AIR 39 °C

155

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) Hands Freeシステム
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

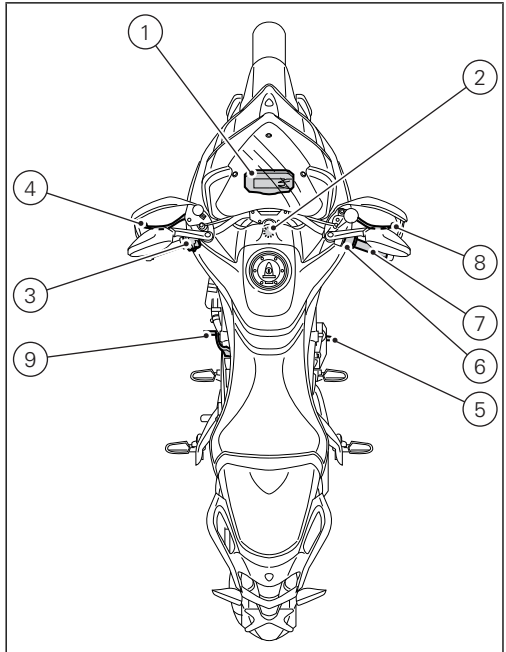


図 156

Hands Free システム

Hands Free システムは、以下で構成されています。

1) Hands Free ブロック
2) アンテナ
3) アクティブキー
4) パッシブキー
5) 電動フィラープラグ（オプション）

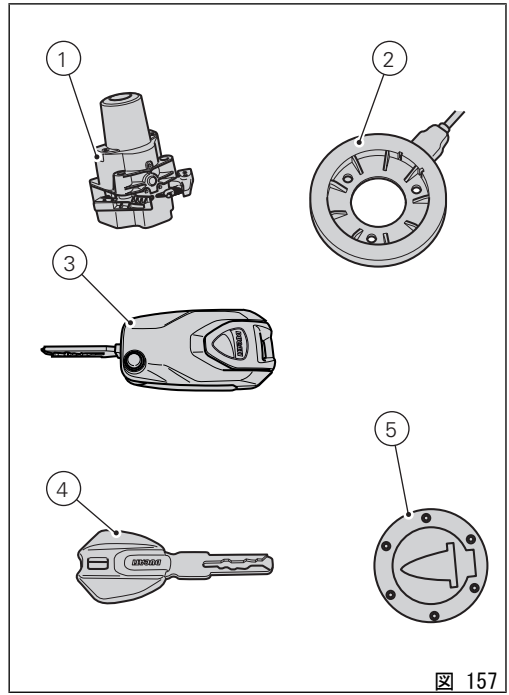


図 157

Hands Free パネルの開閉

Hands Free ブロック (1、 図 157) は燃料タンクの前方部に位置し、作業を行うにはパネル (8) を起こして取り外してください。
パネル (8) のピン (A) をそれぞれラバー (B) に確実に挿入し、しっかりとはまるまでタブを押してパネルを閉じます。
USA バージョンでは、パネル (8) を取り外すことなく Hands Free ブロック上の緊急ボタンにアクセスすることができます。

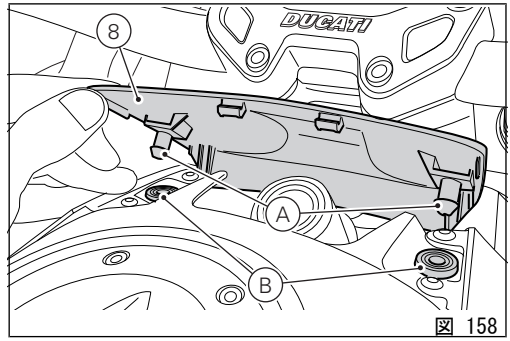


図 158

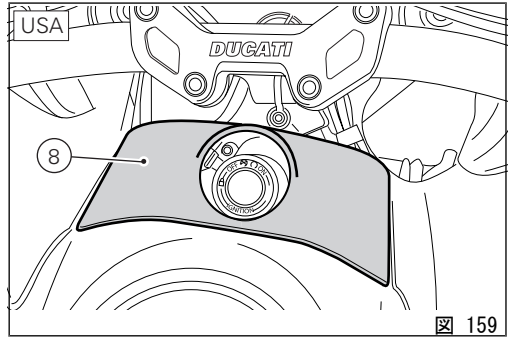


図 159

Hands Free システムの起動 "Key-ON"と停止 "Key-OFF"

Key-ON は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを起動します。Key-OFF は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを停止し、エンジンを確実に停止します。Key-ON するにはハンドルバー右側スイッチのボタン (6)、もしくは Hands Free ブロックの緊急ボタン (7) を使用します。Key-OFF するにはハンドルバー右側スイッチのボタン (6)、もしくは Hands Free ブロックのボタン (7) を使用します。

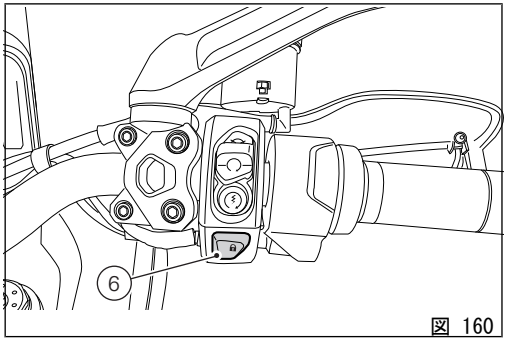


図 160

警告

ボタン (7) はパネル (8) の下に隠れています。ボタン (7) を押す場合はパネルを取り外してください。

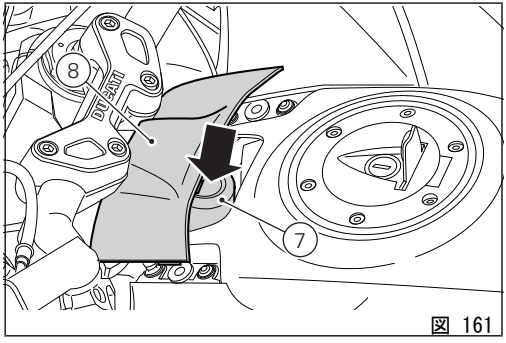


図 161

参考

ボタン (6) または (7) は ON/OFF どちらにでも使用することができます。例えば、どちらかで ON にしてもう片方で OFF にすることができ、その反対も可能です。

2 個のキー (3) もしくは (4) のいずれかがあるとき、または PIN CODE を入力して Key-ON することができます。Key-OFF はキー (3) または (4) がなくても可能です。Key-OFF するには、車速がゼロのときにハンドルバーのボタン (6) か Hands Free ボタン (7) を押します。車速がゼロでないときの Key-OFF は、Hands Free ボタン (7) でのみ可能です。

参考

アクティブキー (3) のバッテリーが切れると、パッシブキー (4) と同じように作動します。インストルメントパネルはバッテリーの消耗状態を通知します。

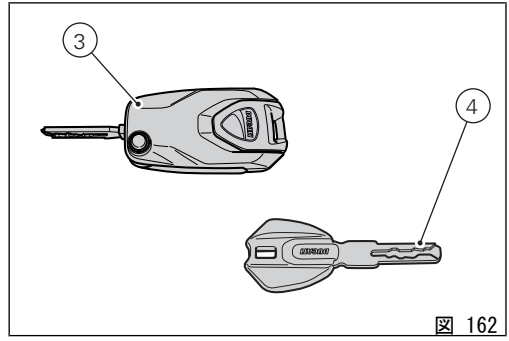


図 162

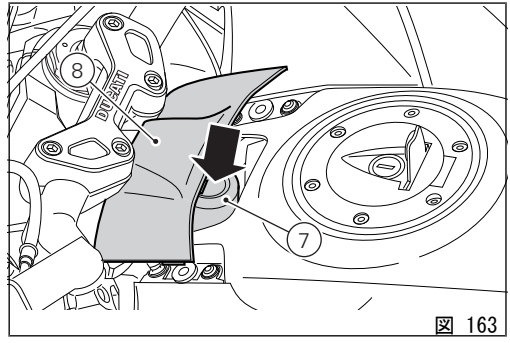


図 163

キー (3) の金属部分 (A) は、フィラープラグを開けるときと、シートおよびバッグのロックに使用します。キー (3) の金属部分 (A) は、ボタン (B) を押すと柄の内側に隠れます。

参考

車両が Key-ON 状態にありエンジンが停止しているときにアクティブキー (3) の存在を 30 秒間検知できないと、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

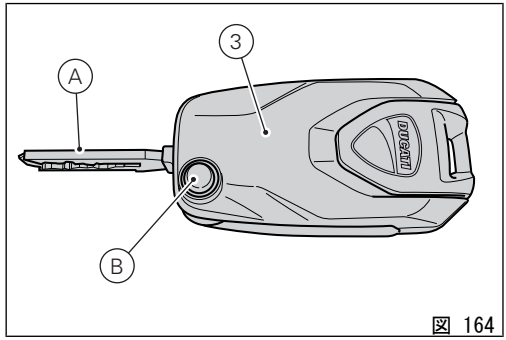


図 164

アクティブキーとハンドルバーのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、アクティブキー (3、 図 162) があるときにハンドルバーのボタン (6) を押します。

参考
アクティブキー (3) の作動範囲は半径約 1.5 m です。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFF するには、ハンドルバーのボタン (6) を押します。車速がゼロであればキー (3、 図 162) がなくても Key-OFF が可能です。

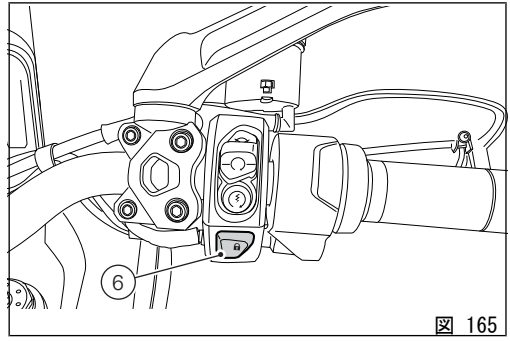


図 165

アクティブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、アクティブキー (3、 図 162) があるときに Hands Free ブロック (1、 図 157) のボタン (7) を押します。

参考

アクティブキー (3) の作動範囲は半径約 1.5 m です。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFF するには Hands Free ブロックのボタン (7) (1、 図 157) を押します。キー (3、 図 162) がなくても Key-OFF が可能です。

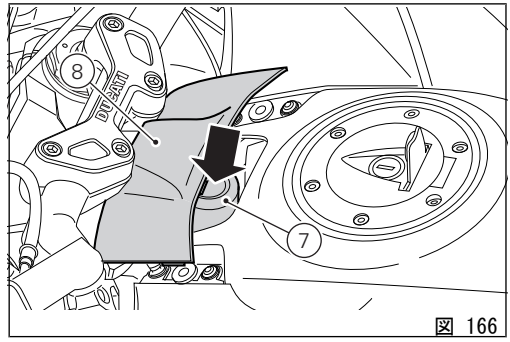


図 166

パッシブキーとハンドルバーのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、パッシブキー (4、 図 162) があるときにハンドルバーのグレーのボタン (6) を押します。

参考
パッシブキー (4) の作動範囲は半径数 cm です。キー (4) をアンテナ (2) の近くに置いてください。

Key-OFF するには、ハンドルバーのグレーのボタン (6) を押します。車速がゼロであればキー (4、 図 162) がなくても Key-OFF が可能です。

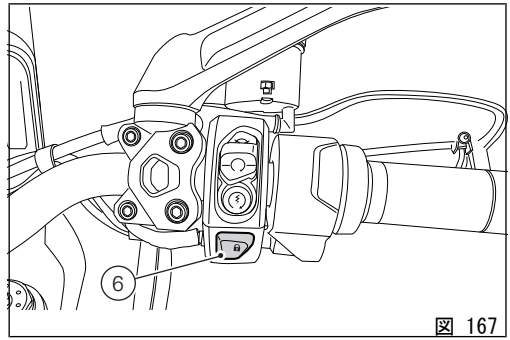


図 167

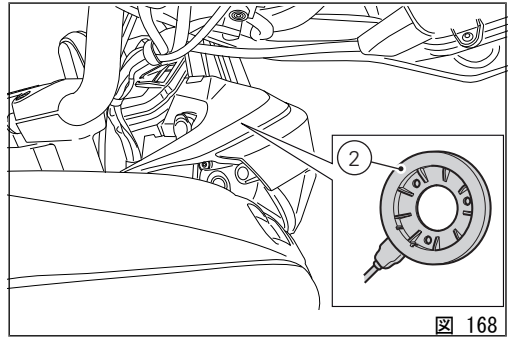


図 168

パッシブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、パッシブキー (4、 図 162) があるときに Hands Free ブロックのボタン (7) を押します。

参考
パッシブキー (4) の作動範囲は半径数 cm です。キー (4) をアンテナ (2) の近くに置いてください。

Key-OFF するには Hands Free ブロックのボタン (7) (1、 図 157) を押します。キー (4、 図 162) がなくても Key-OFF が可能です。

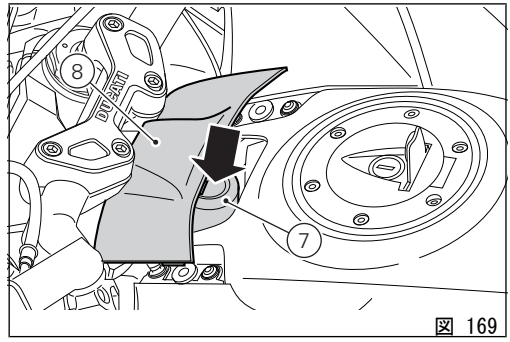


図 169

PIN CODE（イモビライザー解除）による Key-ON/Key-OFF

アクティブキー（3、 図 162）とパッシブキー（4、 図 162）がないときに Key-ON するには、Hands Free ブロックのボタン（7）（1、 図 157）を押し、ダッシュボードで PIN CODE を入力します。Key-OFF するには、ハンドルバーのボタン（6）をエンジン ON 位置からエンジン OFF 位置に押します。Key-OFF した後、次の Key-ON 時にキーがない場合は PIN CODE を入力します。PIN CODE は車両受取り後にユーザーが入力します。PIN CODE を入力しないとこの機能は有効になりません。Hands Free ボタン（7）を押すと、インストルメントパネルにバックライトが点灯し、円形ディスプレイに 4 桁の PIN CODE 入力画面が表示されます。PIN CODE を正しく入力すると、インストルメントパネルが点灯し、エンジンが始動します。PIN CODE の入力は 120 秒以内に完了してください。それを過ぎると自動的に Key-OFF します。

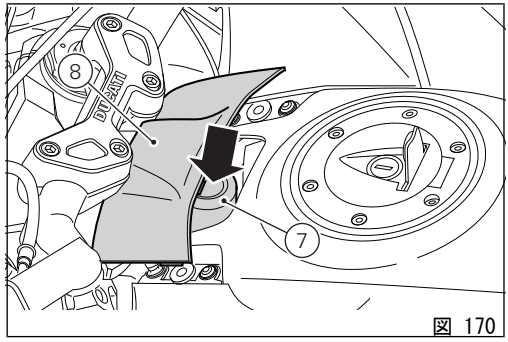


図 170

車両解除のための PIN CODE 入力機能

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、この機能を使用して車両を一時的に起動します。
通常の始動ボタンで車両を起動できないときは、パネル (8) を持ち上げて緊急 Hands Free (7) ボタンを押します。
ボタンを押すとインストルメントパネルはロック解除のコード入力ページを表示し、"INSERT PIN CODE" の文字とその下に緑色で強調表示された 4 本の点線 " - - - - " が表示されます。

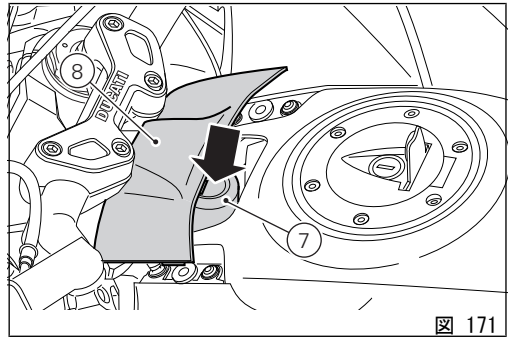


図 171

コードの入力：

1) ボタン（4）を押すと、″0″で表示される 1 桁のみが緑色で強調表示されます。
2) ボタン（2）を押す度に数字が ″9″ までひとつずつ大きくなり（+ 1）、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン（1）を押す度に数字が ″1″ までひとつずつ小さくなり、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン（4）を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

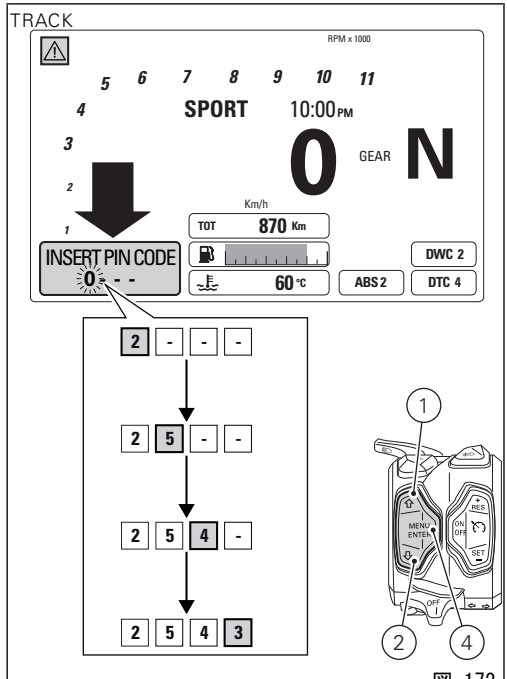


図 172

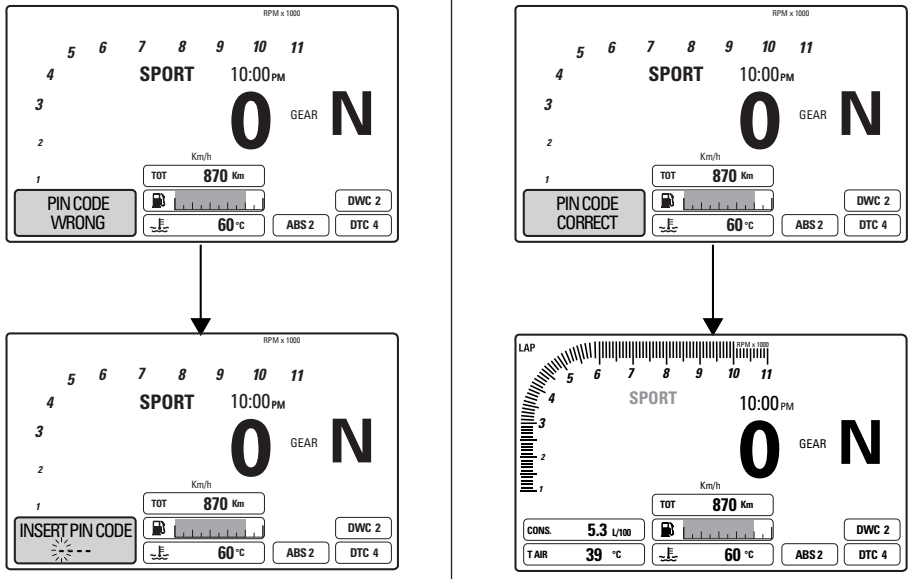
ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "WRONG" を 3 秒間表示し、その後再び点線 "- - - -" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力可能時間は 2 分間に設定してあります。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "CORRECT" を 3 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

TRACK


RPM x 1000
5 6 7 8 9 10 11
4
3
2
1
SPORT
10:00 PM
0
GEAR
N
Km/h
TOT 870 Km
PIN CODE WRONG
60 °C
ABS 2
DWC 2
DTC 4
INSERT PIN CODE
- - -
PIN CODE CORRECT
LAP
CONS. 5.3 L/100
T AIR 39 °C

173

ハンドルバー左側スイッチ

1) ディマースイッチ、ライトの選択、2 ポジション：
- 上 (A) に押すとハイビームランプが点灯（ ≡D ）、初期位置 (B) に戻すとロービームランプが点灯（ ≡D ）
- (C) 横方向に押すと、ハイビームランプ点滅（ ≡D ）
- (FLASH)、"START-STOP LAP" 機能

2) ハザード ON/OFF ボタン（ターンインジケーターすべて）

3) フォグランプ ON/OFF ボタン（オプション）

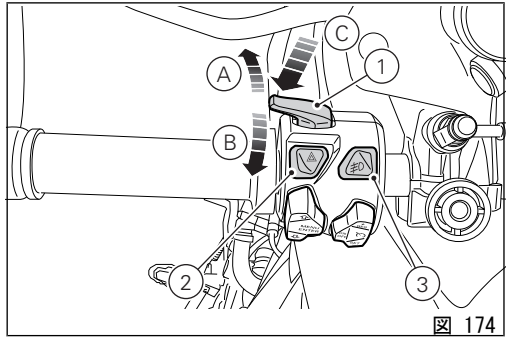


図 174

4) メニュー操作ボタン
5) クルーズコントロールボタン
6) 3 ポジション、ターンインジケーターボタン
(⇔):
- センターポジション = OFF
- ポジション (⇦) = 左折
7) ターンインジケーター解除ボタン
8) ボタン(⛜) = 警告ホーン

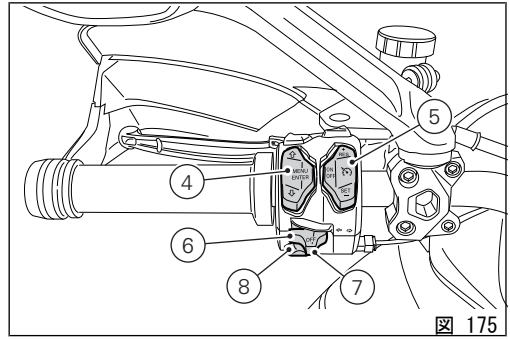


図 175

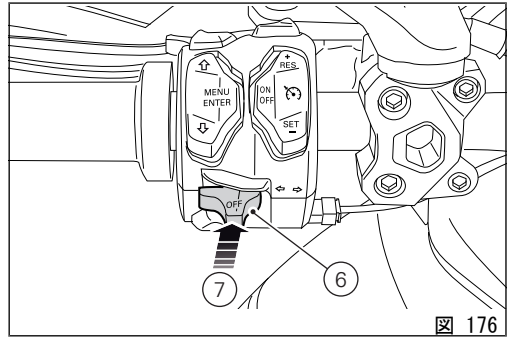


図 176

メニュー操作ボタン (4) には次の 3 つのポジションがあります。
- (D) メニュースクロール (メニュー UP)
- (E) メニュースクロール (メニュー DOWN)
- (F) メニュー決定

クルーズコントロールボタン (5) には次の 3 つのポジションがあります。
- (G) クルーズコントロール ON/OFF
- (H) 設定速度の増速、前回の設定速度の再設定
- (I) 設定速度の減速、新しい速度の設定

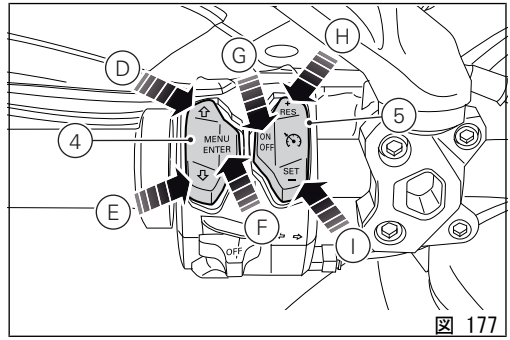


図 177

凡例

A) ロービームランプ
B) ハイビームランプ
D) メニュー UP
E) メニュー DOWN
F) 表示メニューの決定
G) クルーズ ON/OFF
H) 増速
I) 減速
2) ハザード
3) フォグランプ
5) クルーズ
6) ターンインジケーター
7) ターンインジケーター OFF
8) ホーン

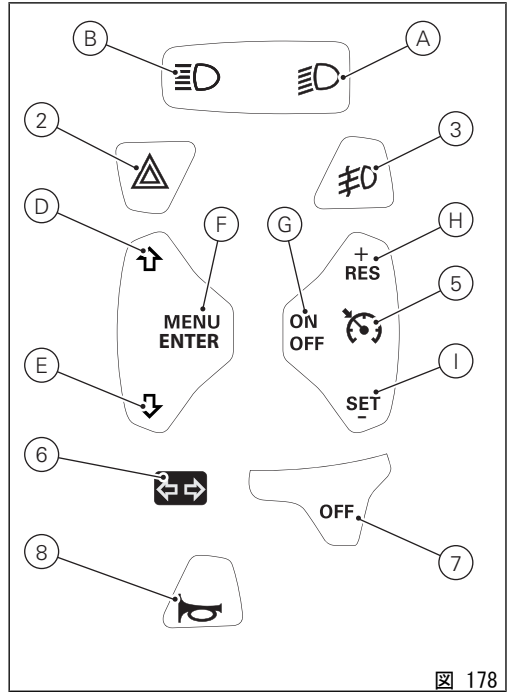


図 178

クラッチレバー

レバー（1）でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター（2）がついており、レバーとグリップとの間隔の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター（2）の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー（1）を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

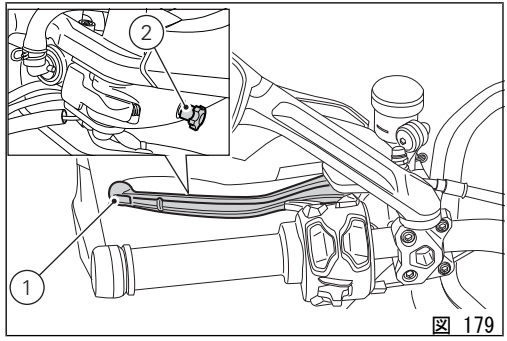


図 179

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ　エンジンの停止
2) エンジンの始動ボタン
3) システムの ON/OFF (Key-ON/Key-OFF) およびステアリングロック起動
4) ヒーテッドグリップボタン

スイッチ (1) には 2 つのポジションがあります。

B) 下に押した場合：エンジンの停止
A) 上に押した場合：RUN ONこのポジションでのみ、ボタン (2) を押してエンジンを始動することができます。

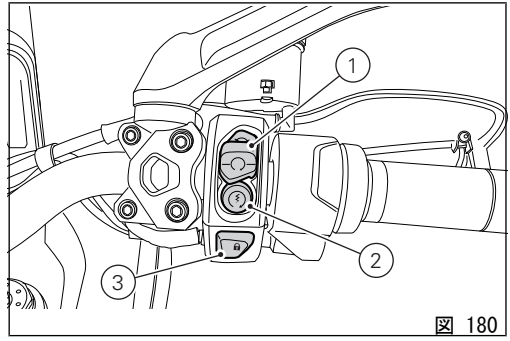


図 180

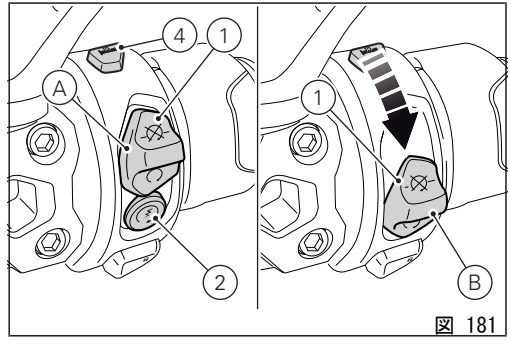


図 181

凡例

2) 電動エンジン始動
3) 電子式ステアリングロック
4) ヒーテッドグリップ
A) RUN ON
B) RUN OFF
C) 車両電動起動
D) 車両電動停止

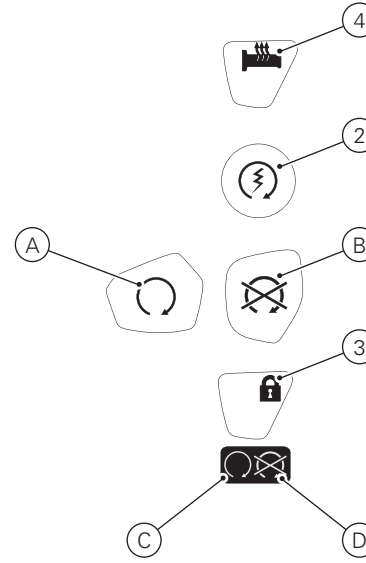


図 182

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップは、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを離すと、自動的に元の位置（アイドリング状態）に戻ります。

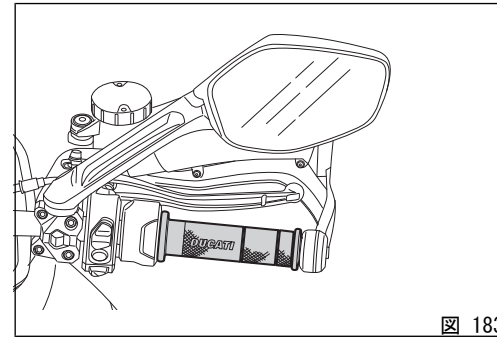


図 183

フロントブレーキレバー

レバー（1）をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。
コントロールレバー（1）には調整用つまみ（2）が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整できます。
レバーの間隔はアジャスター（2）の 10 クリックで調整できます。
時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

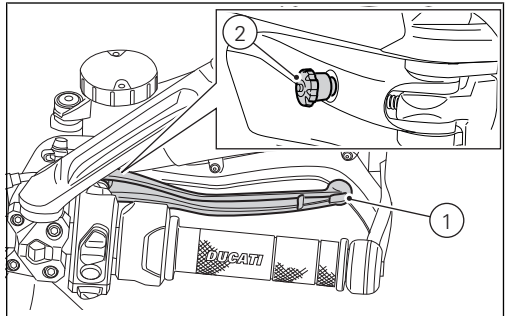


図 184

リアブレーキペダル

ペダルを下に踏むと、リアブレーキが作動します。
制御システムは油圧式です。

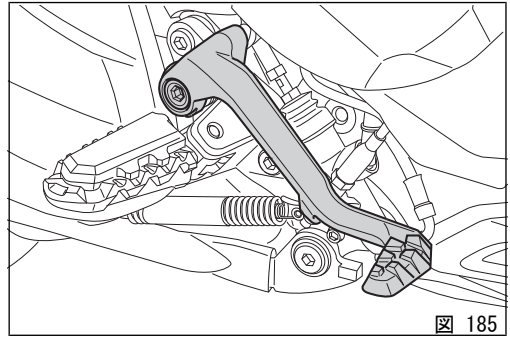


図 185

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジション N に自動的に戻ります。 ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプ N で表示されます。
ペダルは次のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3 、4 、5 、6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

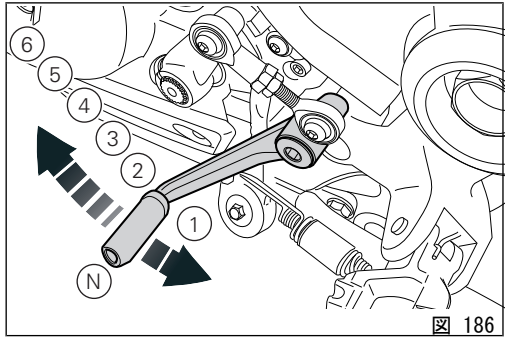


図 186

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

スパナ（2）でソケットを操作してボールエンド（1）をロッドに固定し、ロックナット（3）を緩めます。
リンケージユニットをギアチェンジペダルから取り外すために、スクリュー（4）を緩めて外します。
リンケージ（5）を回し、ギアチェンジペダルを好みの位置に調整します。
スクリュー（4）でギアチェンジペダルをリンケージ（5）に固定します。
ボールエンド（1）をロックナット（3）で締め付けます。

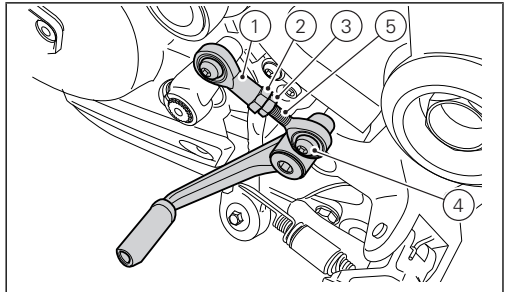


図 187

リアブレーキペダル

ナット（7）を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー（6）を回します。ロックナット（7）を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 2〜5 mm の遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。
マスターシリンダーのロッドのロックナット（10）を緩めます。
ロッド（8）をフォーク（9）に締め込むと遊びが増加し、緩めると遊びが減少します。
ロックナット（10）を締め付け、再度遊びを点検します。

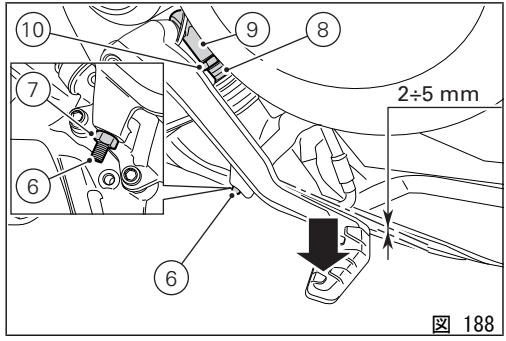


図 188

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) 電源ソケット
5) リアビューミラー
6) フロントフォークアジャスター
7) リアショックアブソーバーアジャスター
8) 触媒
9) エキゾーストサイレンサー
10) USB 接続
11) ウィンドスクリーン

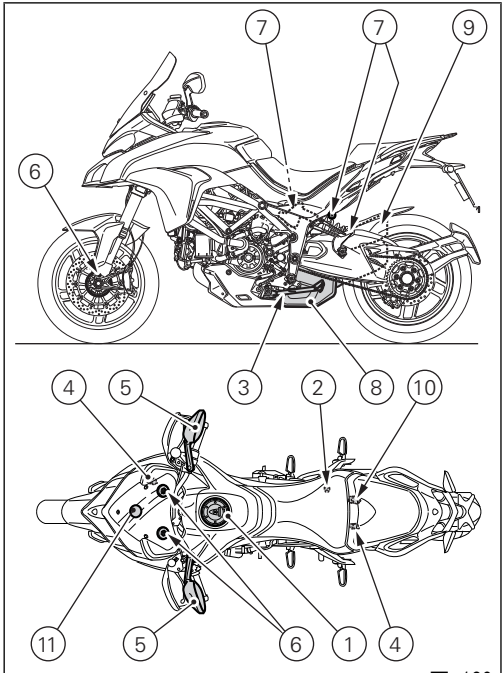


図 189

燃料フィラープラグ

開け方

保護カバー (1) を起こし、アクティブキーまたはパッシブキーをロックに差し込みます。キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。
プラグ (2) を起こします。

閉じ方

差し込んだキーでプラグ (2) を閉じ、プラグを押します。キーを抜き取り、保護カバー (1) を閉じます。

参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

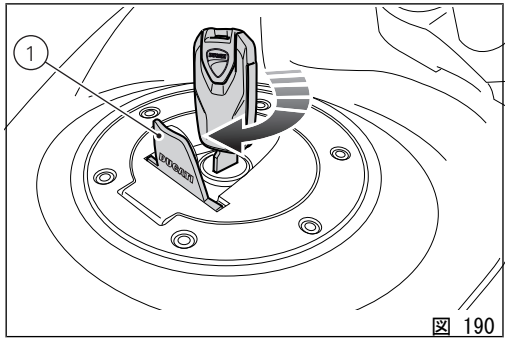


図 190

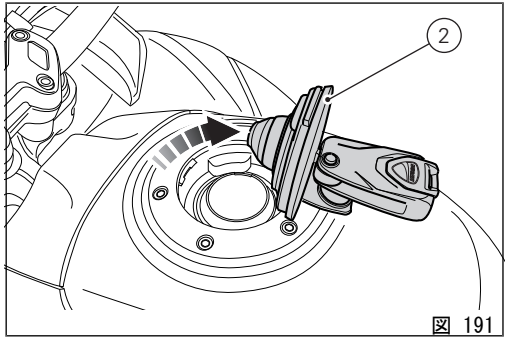


図 191

電動フィラープラグの開け方（オプション）

電動フィラープラグ（2、図 191）は、Key-OFF 後 60 秒以内にフィラープラグ上のレバー（1、図 190）を操作すると開きます。

シートロック

ロック（1）を操作してシートを取り外すことができます。パッセンジャーシートを取り外すと、ツールキットボックスを取り出すことができます。ライダーシートを取り外すと、バッテリーやその他の装置で作業を行うことができます。

シートの取り外し

ロック（1）にアクティブキーもしくはパッシブキーを差し込み、カチッと音が鳴りパッセンジャーシートのロックが外れるまで時計方向に回します。
パッセンジャーシート（2）の前部を持ち上げ、前方に引いてシート底のリアフック（3）を外して取り外します。

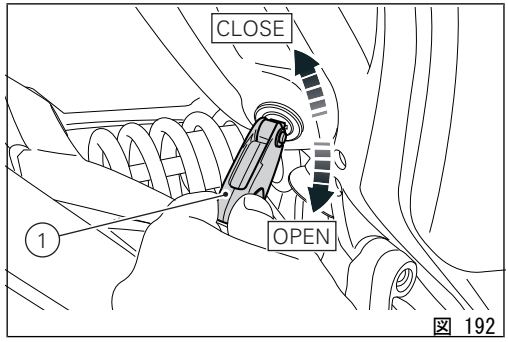


図 192

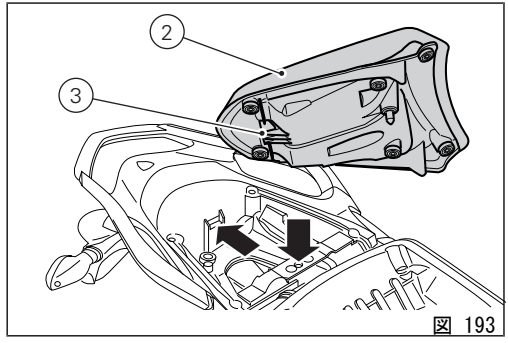


図 193

シートを後方に引いてガイド（5）から引き抜きながら、同時に上に引いてピン（6）から抜き取ります。

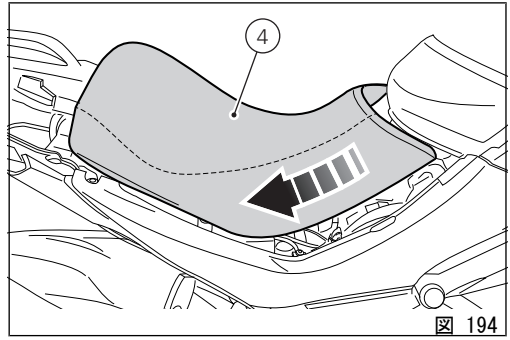


図 194

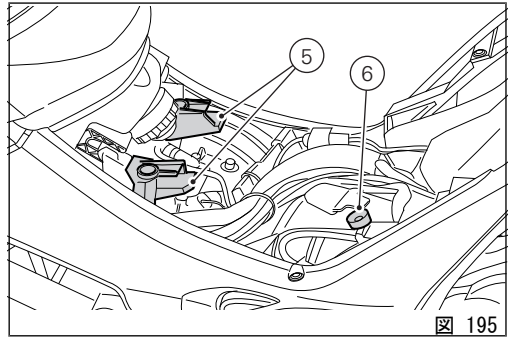


図 195

シートの取り付け

ライダーシート（4）の溝（7）の付いている前部をガイド（5、図 195）に取り付け、ピン（6、図 195）を所定の位置（8）に挿入します。
ピン（6、図 195）が確実に所定位置（8）内に収まっていることを確認します。
パッセンジャーシートを少し上に引き正しくロックがかかったことを確認します。
ロック（1、図 192）からキーを抜き取ります。

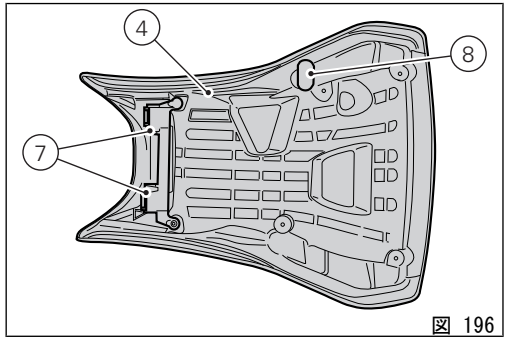


図 196

シート高の調整

本モーターサイクルはハイポジションシートを標準装備します。シートを下げることでシート高の調整が可能です。

シートを下げるには、ページ 282 の手順でシートを取り外します。

パッセンジャーシートに伸縮性プレート (1) を取り付けます。

スクリュー (4) とスクリュー (5) を緩めて外し、ブラケット (3)、2 枚のプレート (2) をパッセンジャーシートから取り外します。

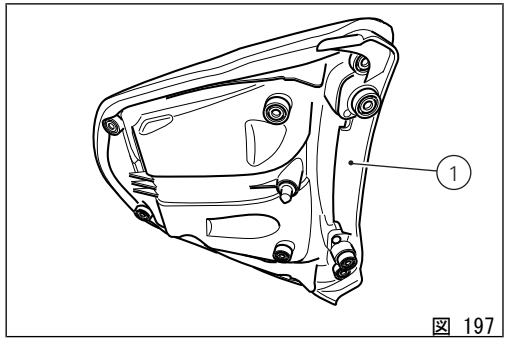


図 197

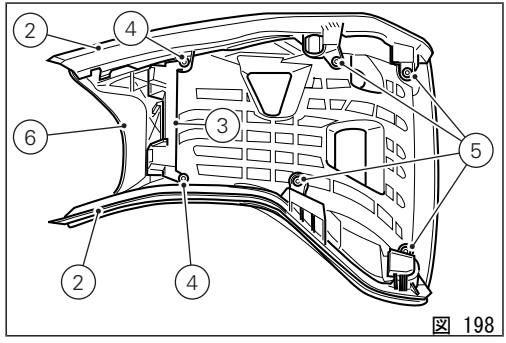


図 198

パッセンジャーシートをそれぞれ車両に配置します。この時点でシートの位置が下がりました。

シートを上げるには、ページ 282 の手順でシートを取り外します。
パッセンジャーシートから伸縮性プレート (1) を取り外します。
ツメ (A) および (B) を溝 (C) に差し込み、パッセンジャーシートからの 2 枚のプレート (2) を取り付けます。

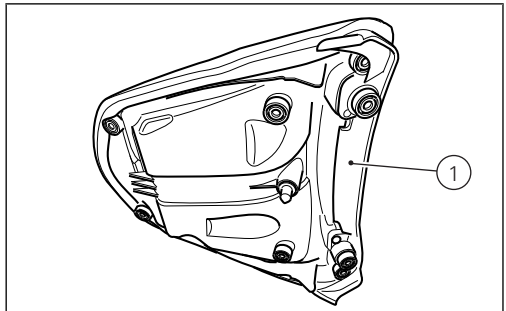


図 199

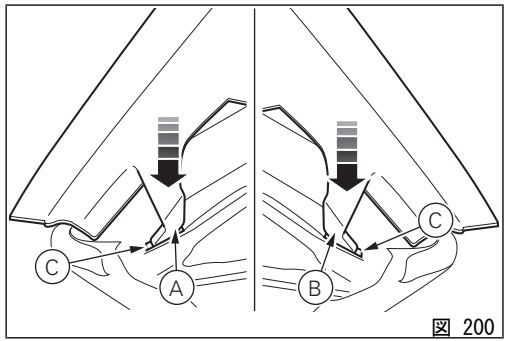


図 200

図の向きにブラケット (3) を取り付けます。このとき、タブ (D) が取り付け位置 (E) に収まるようにします。
プレート (2) にスクリュー (4) とスクリュー (5) を取り付け、4 Nm のトルクで締め付けます。
両シートを車両に取り付けます。

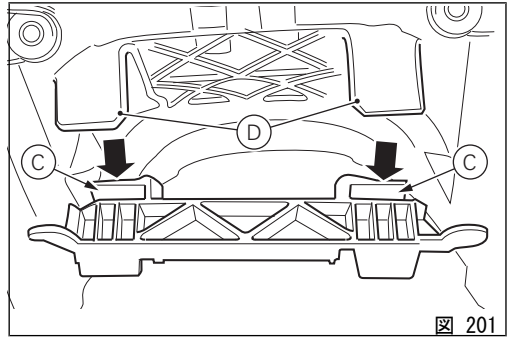


図 201

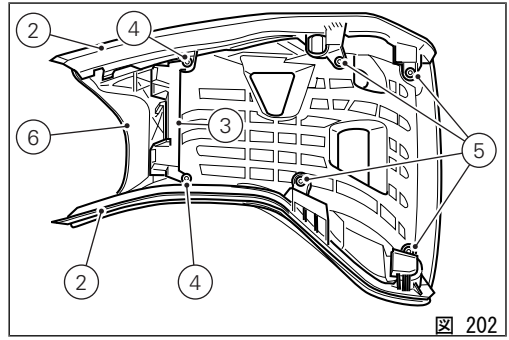


図 202

ヘルメットキャリーケーブル

″シートの取り外し″ ページ 282 の記載に従い、パッセンジャーシートおよびライダーシートを取り外します。
ケーブル (1) をヘルメットに通し、フレームのピン (2) にケーブルの両端を挿入します。
ヘルメットを吊るした状態にし、ライダーシートおよびパッセンジャーシートを取り付けてヘルメットを固定します。

警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

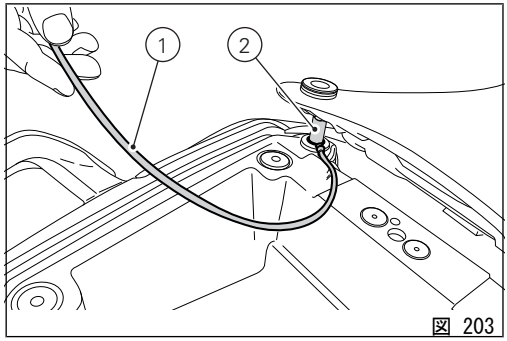


図 203

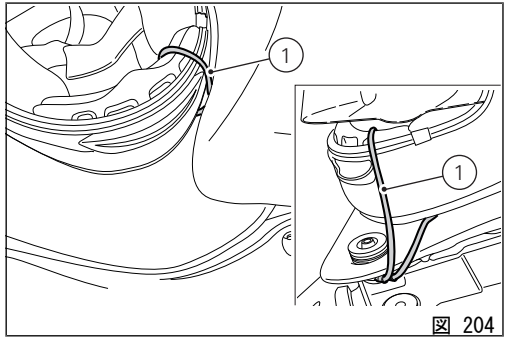


図 204

サイドスタンド

重要
短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。
サイドスタンドを元の位置 （水平位置） に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。

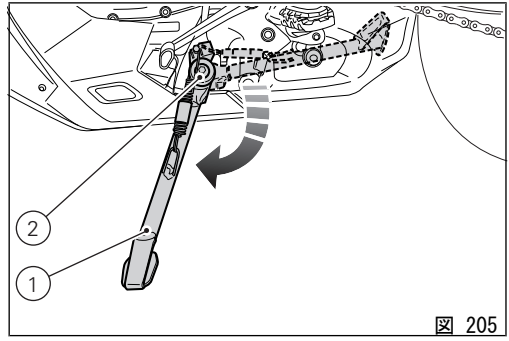


図 205

警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考
定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

Bluetooth コントロールユニット

車両には Bluetooth コントロールユニットが装備されています。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります（スマートフォン、ヘッドセット）。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット（音楽共有、マルチメディア再生など）の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン（Bluetooth 対応プロファイルによる）に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット（部品番号：981029498）に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン（"Ducati キット　部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも）

警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット（部品番号：981029498）ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます（詳しくは Ducati キット（部品番号：981029498）のトルクで締め付けます。

参考

Ducati キット（部品番号：981029498）は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

電源ソケット

本車両は 12V 電源ソケットを備え、リアヒューズボックス内のヒューズ 1 個で保護されています。
このヒューズは以下のラインを過電流から保護します。

- 電源ソケット（1、図 206）
- 電源ソケット（2、図 207）
- フォグランプ（搭載している場合）
- USB ソケット
- Bluetooth コントロールユニット（搭載している場合）

電源ソケットの許容電流は以下のとおりです（許容電流はソケット（1）+ ソケット（2）における使用電流の合計です）。

- 5A（フォグランプ搭載車）
- 9A（フォグランプなし）

許容電流以上を接続すると、ヒューズが切れます。

重要

エンジン停止状態で、アクセサリーを電源ソケットに接続したまま長時間放置しないでください。
バッテリー上がりの原因となるおそれがあります。

電源ソケットはダッシュボード左前側にひとつ（1）、後部パッセンジャーシート下にもうひとつ（2）が設けられています。

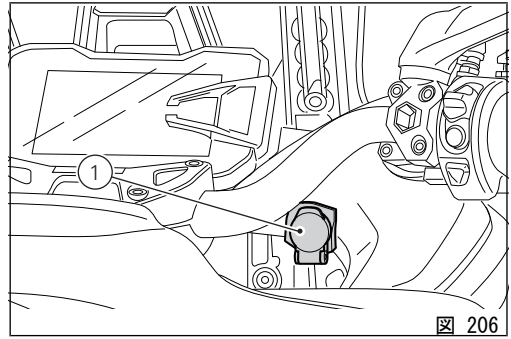


図 206

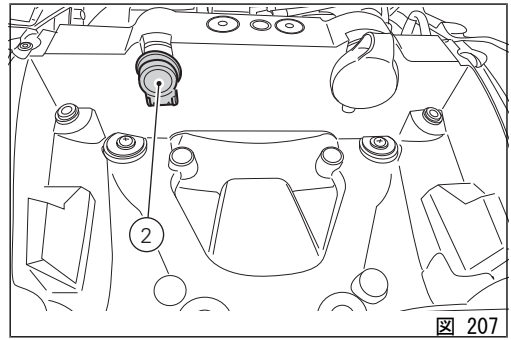


図 207

センタースタンド

車両を安定した状態で停車するには、常にセンタースタンド（1）を使用してください。このスタンドは最大積載時でも確実に車両を支えることができる構造になっています。

警告

センタースタンドを使用する前に、地面に十分な硬さがあり平らであることを確かめてください。

右足でセンタースタンドの接地面（2）が地面に当たるまで押し下げ、同時に車両を上後方に引きます。センタースタンドを元にもどすには、ハンドルを持ちながらリアホイールが地面に着くまでバイクを前に押します。センタースタンドは自動的に元の位置に戻ります。

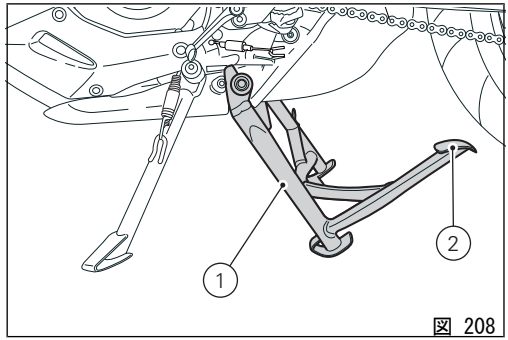


図 208

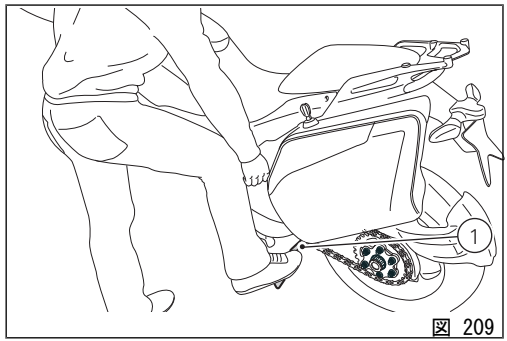


図 209

警告
発進する前は、必ずセンタースタンドが元の収納位置にあることを確認してください。

定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）の作動状態を点検することをお勧めします。

ドゥカティサイドバッグ取り付け

取り付け位置へのバッグの組み付け

バッグのロックにキーを差し込み、時計方向に回します。
バッグのハンドルを引き上げ、バッグのロック機構を後ろに下げます。

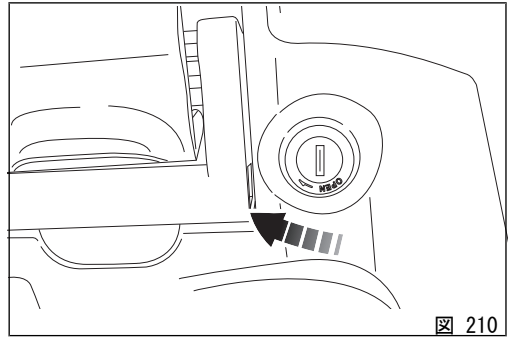


図 210

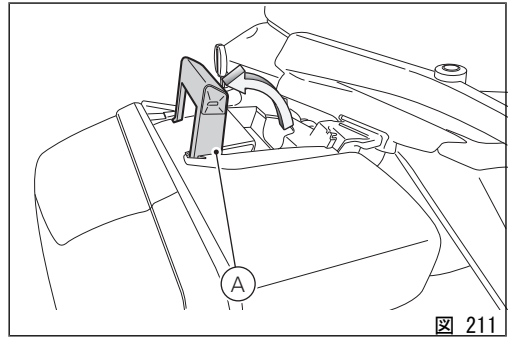


図 211

フックが取り付け位置に確実にはまるようにして、バッグを正しい位置に取り付けます。

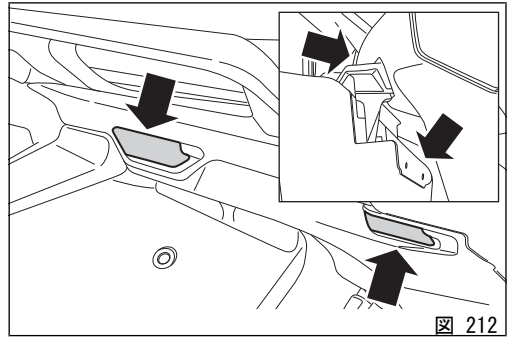


図 212

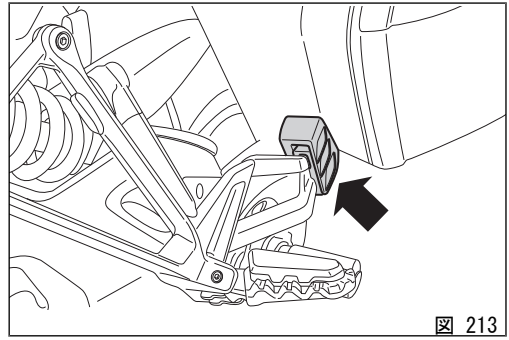


図 213

取り付け位置の奥までバッグを押し込みます（フロントホイールに向かって押します）。バッグがこの位置にあるときしか、バッグのハンドルを倒して取り付け位置に固定することはできません。これによりバッグがロック位置に確実に固定されます。
キーを反時計方向に回してハンドルをロックし、キーを抜き取ります。

図 214

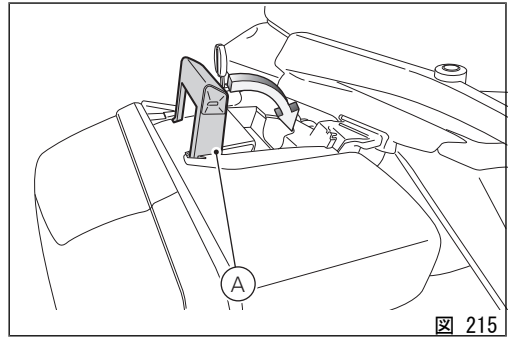


図 215

取り付け位置からのバッグの取り外し

バッグのロックにキーを差し込み、時計方向に回します。
バッグのハンドルを引き上げ、バッグのロック機構を後ろに下げます。

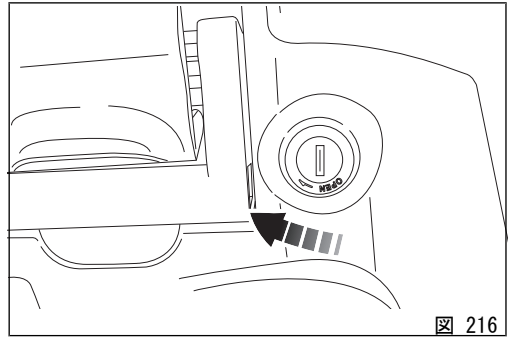


図 216

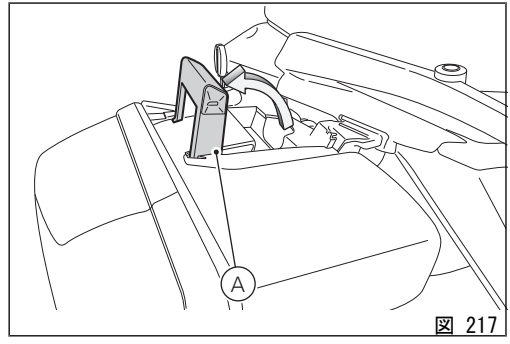


図 217

バッグをリアホイールに向かって完全に後ろまで引きます（1）。このときバッグは上に引き上げません。この位置でバッグを上に引き上げて（2）、取り付け位置から両方のフックを外します。
バッグを運転席方向に引き（3）、取り付け位置からフックを完全に外します。

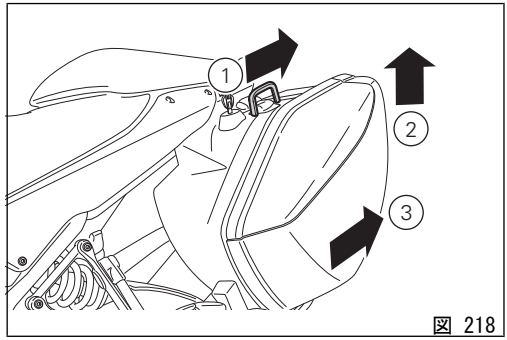


図 218

サイドバッグの使用

開け方

以下の手順でサイドバッグを開きます。
バッグのロックにキーを差し込み、時計方向に回します。

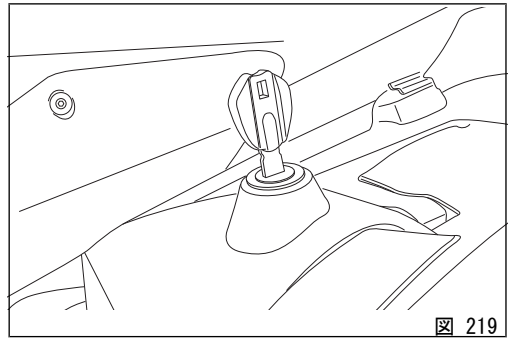


図 219

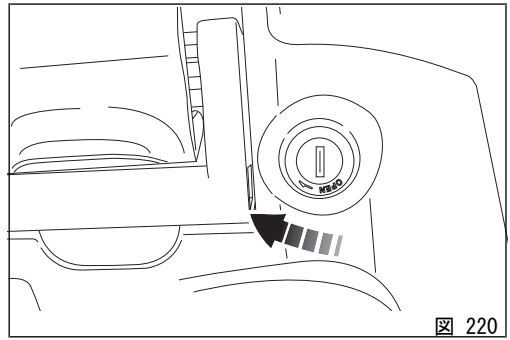


図 220

開閉タグ (A) を持ち上げてバッグを開きます。

警告
サイドバッグは軽い荷物専用です。それぞれのバッグには最大 10 kg まで収納することができます (K)。規定重量を超えた荷物を入れると、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

図 221

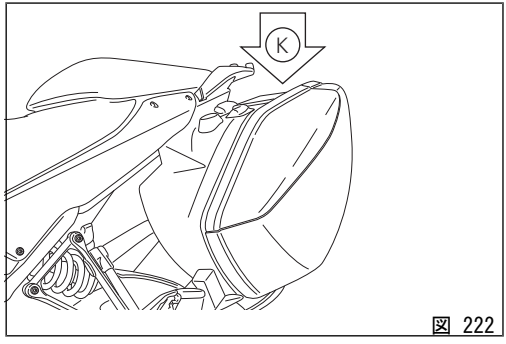


図 222

固定側のバッグには、荷物を保持するためのベルト (C) が付属しています。

警告
車両のバランスが崩れないよう、重い物はバッグ内側に詰めるようにして均等に収納します。

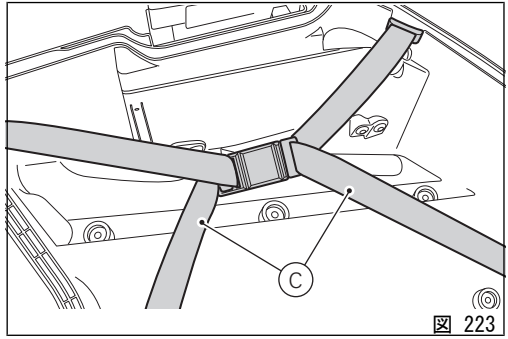


図 223

閉じ方

以下の手順でサイドバッグを閉じます。
アウターカバーを持ち上げ、縁を固定側バッグの溝にはめて閉じます。この状態でのみバッグを閉じることができます。
開閉タグ（A）をバッグのアウターカバーに差し込み、下に向けて押します。
キーを反時計方向に回します。
この状態でのみ、キーをロックから抜き取ることができます。

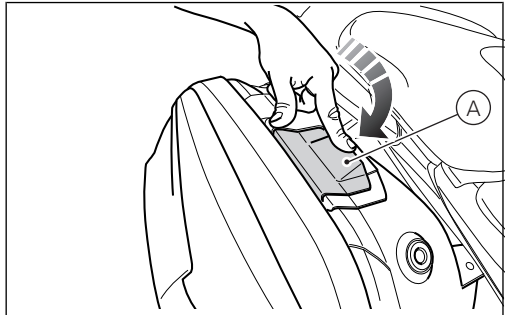


図 224

USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1 A の電流をサポートします。
USB コネクター (1) はパッセンジャーシート下に位置し、カバーで保護されています。カバーを持ち上げてコネクターを使用します。

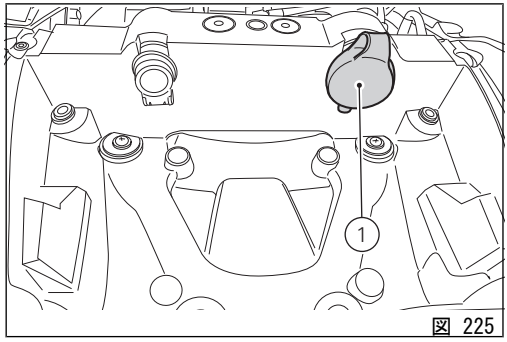


図 225

重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

警告

USB コネクターを使用していないときは、USB コネクター保護キャップをいつも必ず閉じてください。

警告

雨天の場合は、決して USB ソケットを使用しないでください。

ウィンドスクリーン調節

ウィンドスクリーンの高さを調節するにはレバー（1）を操作します。
上に押すとウィンドスクリーンが上がり、逆に下に押すと下がります。

警告

走行中のウィンドスクリーンの調節は事故を招くおそれがあります。ウィンドスクリーンの調節は停車した状態で行ってください。

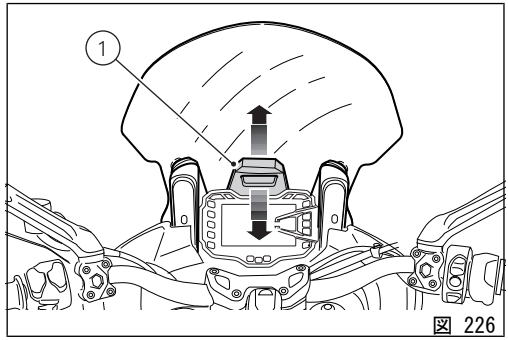


図 226

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング（リターン）、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。
調整は外部アジャスターを使用して行います。

1) リバウンドダンピングの変更
2) スプリングプリロードの変更
3) コンプレッションダンピングの変更。

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。
3 mm の六角レンチで右フォークレッグの先端にあるアジャスター (1) を回転させ、リバウンドダンピングを修正します。
3 mm の六角レンチで左フォークレッグの先端にあるアジャスター (3) を回転させ、コンプレッションダンピングを修正します。

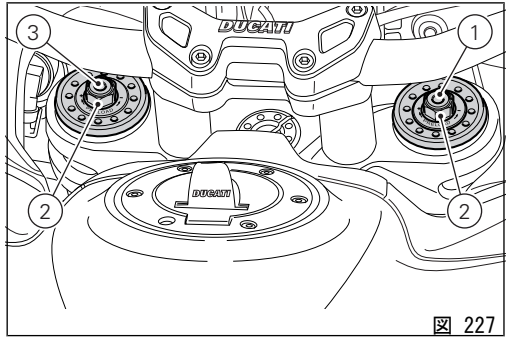


図 227

アジャスター (1) および (3) を回すと、クリック音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。

アジャスター（1、図 227）および（3、図 227）をいっぱいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。
この位置から反時計回りに回すとクリック音がします。それぞれが "1"、"2"、･･･の位置に相当します。

各レッグのスプリングプリロードを調整するには、すべて開いた位置から六角形のアジャスター（2、図 227）を 14 mm のレンチで回転させます（反時計回り）。

サスペンション設定の選択

標準設定は以下の通りで、設定されているライディングモードにより異なります。					
ライディングモード	**TOURING**	**SPORT**	**URBAN**	**ENDURO**	**ライダー + パッセンジャー**
コンプレッション	14 クリック	10 クリック	24 クリック	27 クリック	14 クリック
リバウンド	16 クリック	14 クリック	18 クリック	25 クリック	14 クリック
スプリングプリロード	7 mm	7 mm	7 mm	FULL 10mm	7 mm

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。
アジャスター（1、図 228)リバウンド（リターン）ダンピングを調整します。
アジャスター（3、図 228)コンプレッションダンピングを調整します。
つまみ（2、図 229)ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。

アジャスター（1）および（3）を操作するには、ライダーシートとバッテリー横のカバー（4）を取り外してください。

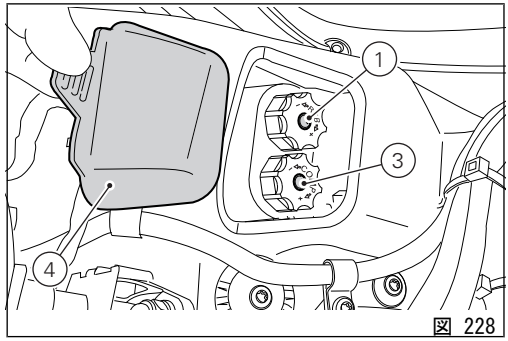


図 228

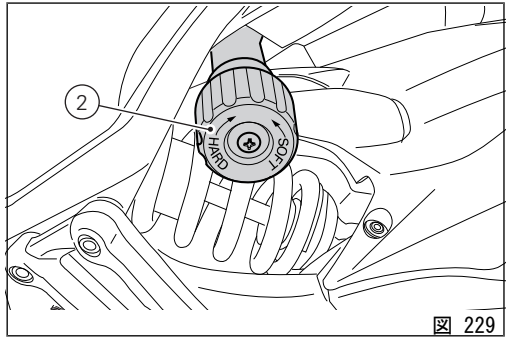


図 229

バッテリーマウントの開口部からアジャスター (1、図 228) および (3、図 228) を操作することができます。アジャスター (1、図 228) および (3、図 228) を手動で時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。
つまみ (2、図 229) を時計回りに回すとスプリングプリロードが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。

警告
ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。
この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

標準設定は以下の通りで、設定されているライディングモードにより異なります。					
ライディングモード	**TOURING**	**SPORT**	**URBAN**	**ENDURO**	**ライダー + パッセンジャー**
コンプレッション	18 クリック	14 クリック	24 クリック	24 クリック	18 クリック
リバウンド	18 クリック	14 クリック	24 クリック	22 クリック	18 クリック
スプリングプリロード	標準 (16 mm)	標準 (16 mm)	標準 (16 mm)	FULL 24 mm	FULL 24 mm

運転のしかた

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：
1) 1,000 kmまで
2) 1,000～2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpm を決して超えないようにしてください。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1000～2500 kmまで

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpm を決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください（ページ 326）。
- エンジンオイル量
  クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください（ページ 353）。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
  各リザーバータンクのフルードレベルを確認します（ページ 334）。
- クーラント量
  リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください（ページ 332）。
- タイヤコンディション
  空気圧と摩耗度を点検します（ページ 350）。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。ランプが作動しない場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。
- ロック類
  フィラープラグ（ページ 280）およびシート（ページ 282）のロックを確認します。
- スタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します（ページ 289）。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (10、 は点灯し続けます。走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。

警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール（1）とリアフォニックホイール（2）が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

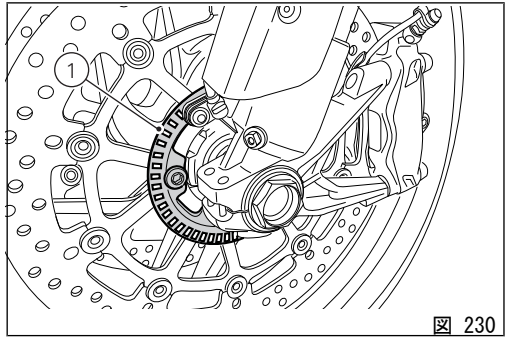


図 230

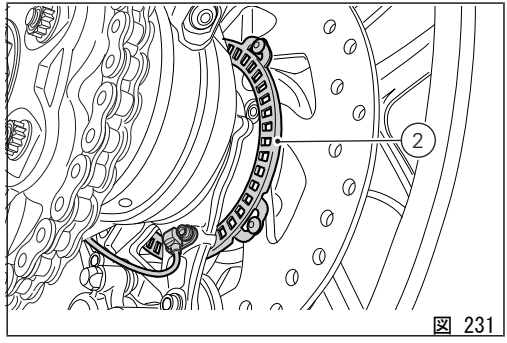


図 231

エンジンの 始動 / 停止

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

アクティブキーまたはパッシブキーがあることを確認します。ハンドル右側の赤色スイッチ (1) を上に動かして 車両を "Key-ON" (Hands Free システムとすべての電子デバイスの起動) し、ボタン (2) を押します。インストルメントパネルは初期化と車載システムの点検を開始し、下から上の順に全ての警告ランプを数秒間点灯します。この点検の後、緑色のランプ (3) と赤色のランプ (4) のみが点灯します。

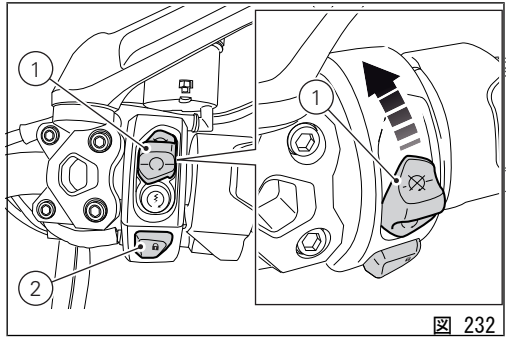


図 232

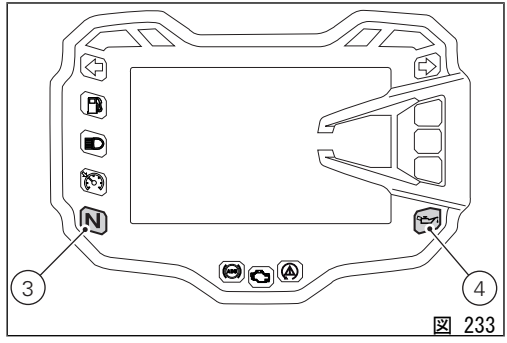


図 233

警告

サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

Key-ON してもエンジンを始動していない状態で 10 秒間アクティブキーが感知できないと、システムは自動的に Key-OFF します。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

ボタン (5) が見えるように、赤色スイッチ (1) を上に動かします。ボタン (5) を押してエンジンを始動します。

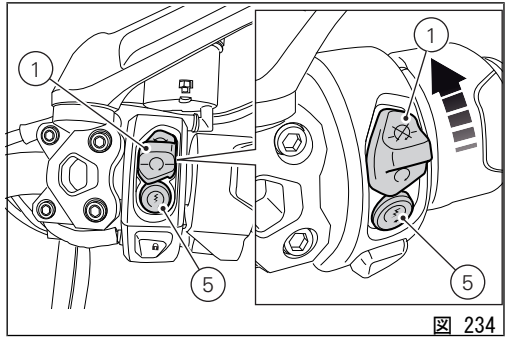


図 234

重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

オイル圧警告灯の赤色ランプ（4、図 233）はエンジン始動後数秒で消灯します。
ハンドルの赤色スイッチ（1）を RUN OFF に合わせてエンジンを停止します。Hands Free システムとすべての電子デバイスの起動に関しては、ページ 252 の "Hands Free システム" も参照してください。

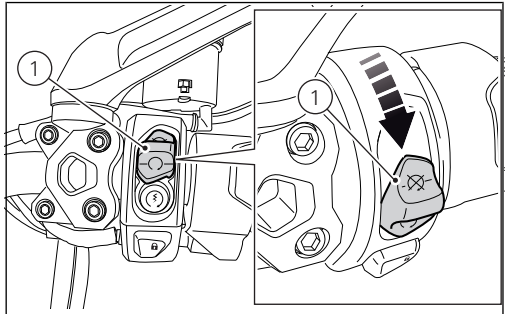


図 235

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの操作と制御は個別に行われません。本車両が装備する ABS システムは、フロントブレーキを操作するとリアブレーキシステムがフロントブレーキシステムと連動するインテグラルブレーキ動作を行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。

インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベル OFF を選択すれば、システムの解除が可能です。

警告

たとえ連動ブレーキ機能（フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動）が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり（リフトアップ）、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキカが著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
赤色スイッチ (1) を下に動かし、エンジンを停止します。
ボタン (2) を押して車両を Key-OFF します。

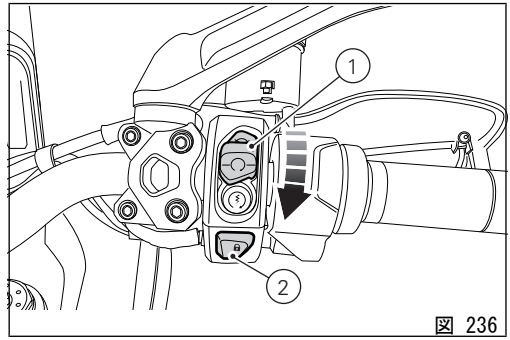


図 236

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。ハンドルを左か右にいっぱいに切ります。エンジンを切ってから 60 秒以内にこの動作を行うと、ステアリングロックを起動するができます。
ステアリングロックを起動させたい場合は、ステアリングを左か右にいっぱいに切った状態でボタン (1) を 3 秒間押し続けます。1 秒後、インストルメントパネルには "KEEP PRESSED TO LOCK" のメッセージが 2 秒間表示され、その後ステアリングロックがかかります。3 秒後にステアリングロックが正常にかかると、インストルメントパネルには "STEERING LOCKED" のメッセージが表示されます。
ロックがかからない場合は、ドゥカティ正規サービスセンターにご連絡ください。

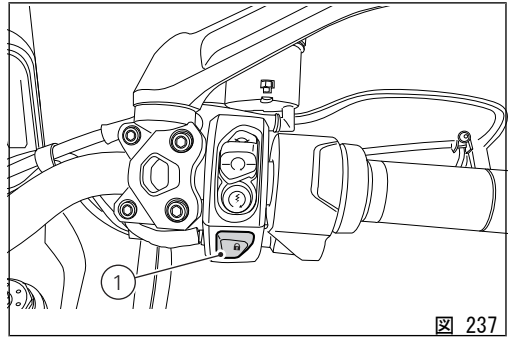


図 237

警告
エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告
発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

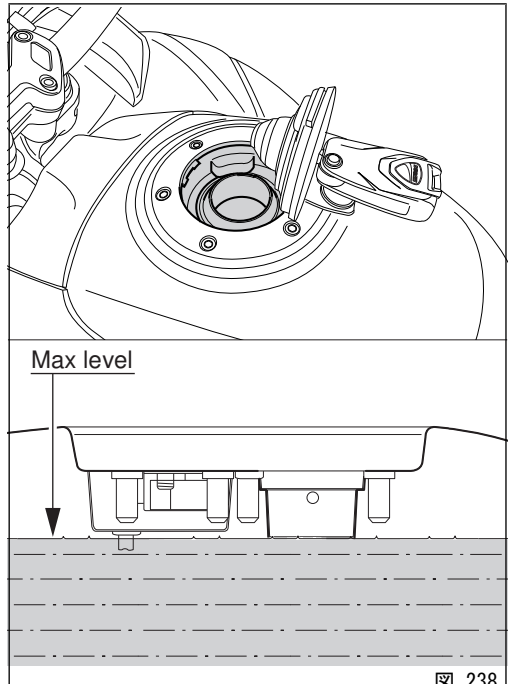


図 238

付属アクセサリー

パッセンジャーシート下のボックス（1）には、オーナーズマニュアル、ツールキット（2）が収納されています。ツールキットには次のものが含まれています。

- タイヤ用スクレーパー付きニードル（90°） 1 本
- パンク修理用ラバーストッパー 2 個
- 高圧ボンベ 2 本
- バルブアダプター（ボンベがない場合） 2 個
- ストーンガード用 5 mm 六角レンチ 1 本
- エキセントリッククランプ用 10 mm 六角レンチ 1 本
- エキセントリッククランプ用ピンレンチ 1 本
- ピンレンチ用、10mm 六角レンチ用、ドライバー用エクステンション 1 本
- チェーン張力ゲージ（使い方は ページ 344 の記載を参照） 1 個
- プラスドラーバーもしくはバッテリー用 10 mm レンチ 1 本

ボックスにアクセスするには、パッセンジャーシートを取り外してください。

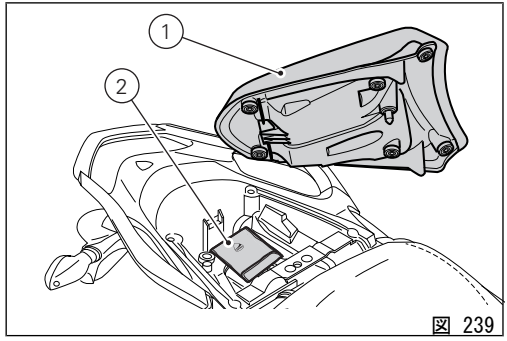


図 239

フロントセミマッドガードキットが付属します。

フロントセミマッドガードキット

重要
フロントセミマッドガードキットの取り付けについては、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

2 本のスクリュー (2) を緩めて外し、ホースガイド (1) をマッドガード (6) から取り外します。
フロントセミマッドガードキット (3) をフロントマッドガード (6) に配置します。このとき、フロントブレーキホース (4) とフロントフォニックホイールケーブル (5) を図 (図 241) のように取り付けます。
フロントセミマッドガードキット (3) を配置するときに、キー (A) をフロントマッドガード (6) の所定の位置に挿入してください。

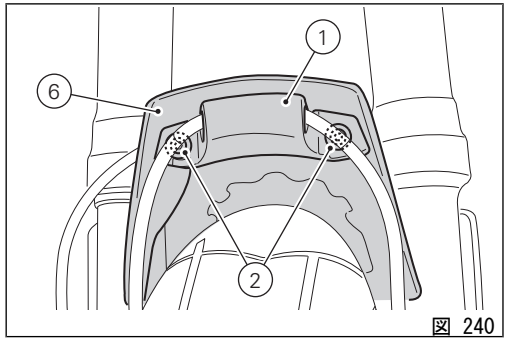


図 240

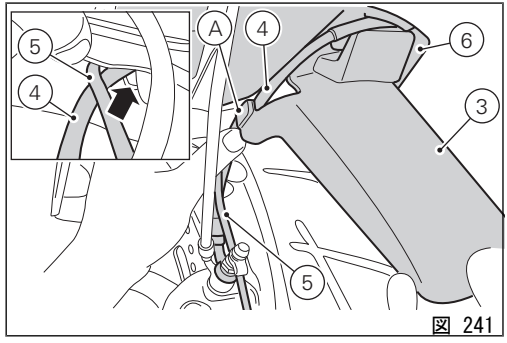


図 241

フロントセミマッドガードキット（3）のキー（A）をフロントマッドガード（6）にある所定の位置に固定します。キーを図のように所定の位置に挿入してください。

正しい位置。

誤った位置。

警告
キーはフロントマットガードの左右両側にあります。

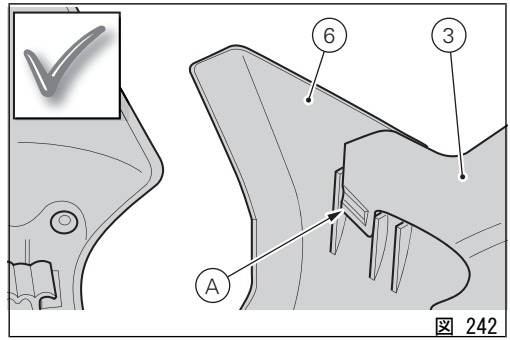


図 242

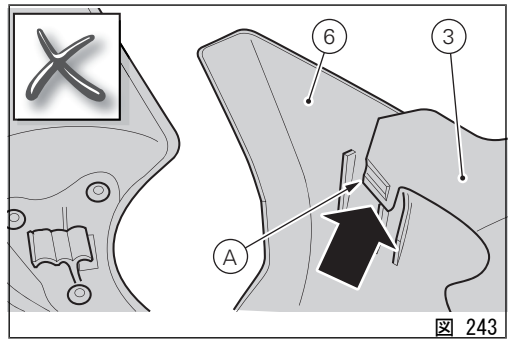


図 243

図のように、セミマッドガードの側面が揃っていることを確認してください。

正しい位置。

誤った位置。

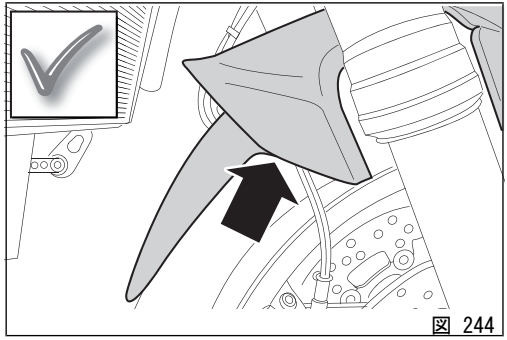


図 244

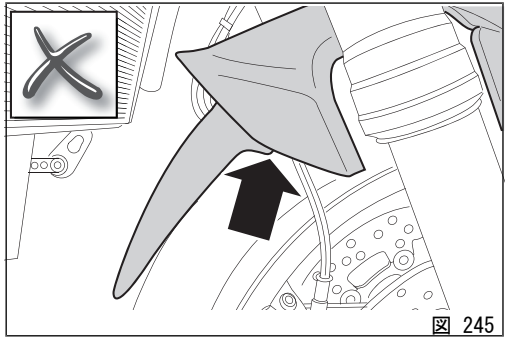


図 245

先ほど取り外したスクリュー (2) を差し込み、3.5 Nm ± 10% のトルクで締め付けます。

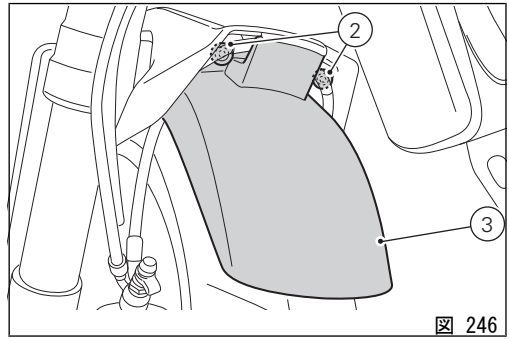


図 246

主な整備作業とメンテナンス

クーラントレベルの点検および補充

ステアリングチューブ右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。
ハンドルを左に振り切り、クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN および MAX の目盛の間にあることを確認します。
クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。
フィラープラグ (1) を緩め、不凍液 ENI Agip Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。
キャップ (1) を閉めます。

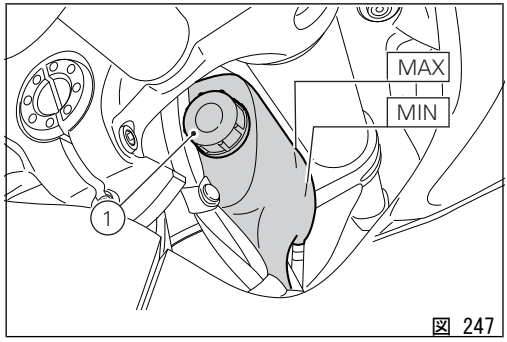


図 247

上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます (-20° C/-4° F から凍結し始めます)。冷却回路の容量 : 2.5 リットル

警告

この作業はエンジンが冷えた状態で実施します。エンジンが熱い状態で作業をおこなうと、クーラントや蒸気が吹き出して深刻なやけどを負うおそれがあります。

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ、クラッチフルードのレベルは絶対に各リザーバーのMIN 目盛りを下回らないようにしてください（(図 248) はフロントブレーキおよびリアブレーキのフルードタンク、(図 249) はクラッチフルードタンクです)。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

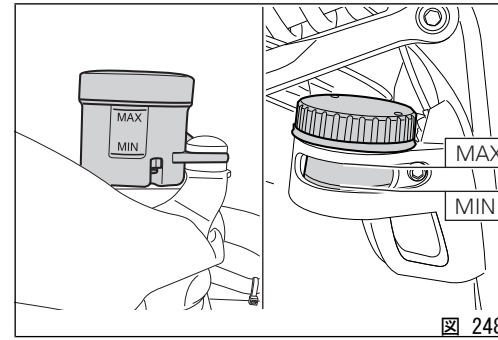


図 248

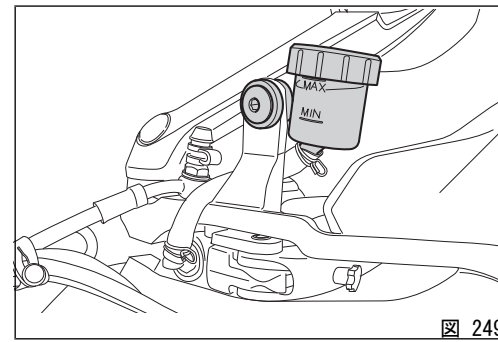


図 249

重要
ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください（最低レベルの 3 mm 上）。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

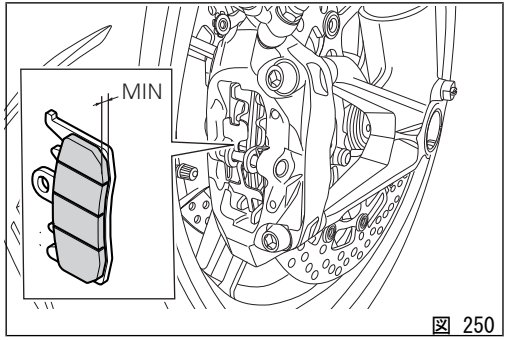


図 250

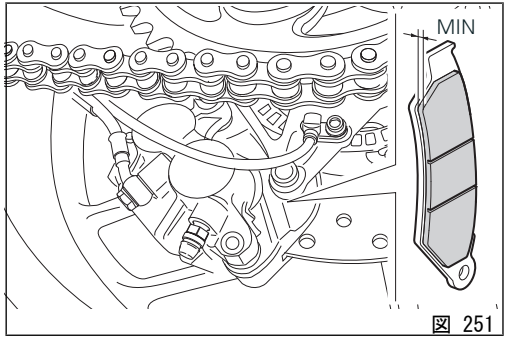


図 251

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。
ライダーシートを取り外します。スクリュー (1) を緩めて外し、固定ブラケット (2) を取り外します。スクリュー (3) を緩めて外し、プラスケーブル (4) およびプラスケーブル (ABS) (5) をプラス端子から、マイナスケーブル (6) をマイナス端子から取り外します。切り離しは必ずマイナス (-) から始めてください。バッテリーを上方向に引き抜きます。

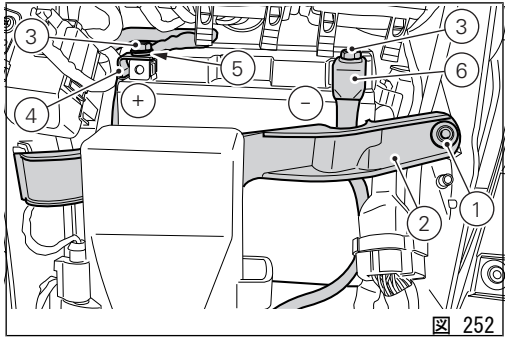


図 252

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。

重要

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

スクリュー (3) にグリースを塗布します。
サポートにバッテリーを置き、プラスケーブル (4) および ABS プラスケーブル (5) をプラス端子に、マイナスケーブル (6) をバッテリーのマイナス端子に接続します。接続は必ず陽極 (+) から始めてください。スクリュー (3) を差し込みます。
バッテリー固定ブラケット (2) を取り付け、スクリュー (1) で締め付けます。

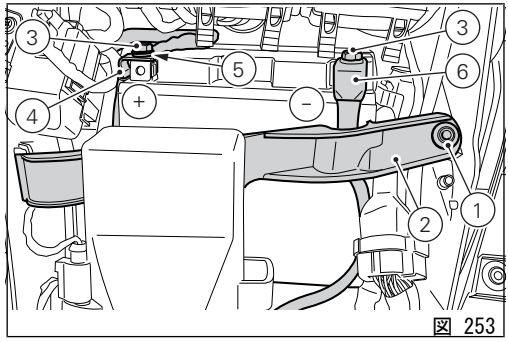


図 253

警告
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーを 0.9A で 5 ～10 時間充電します。

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス

本車両のシート下にはコネクター（1）が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー（2）（バッテリーメンテナーキット　部品番号：69924601A（各国）またはバッテリーメンテナーキット　部品番号：69924601AX（日本、中国、オーストラリアのみ）を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。

参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

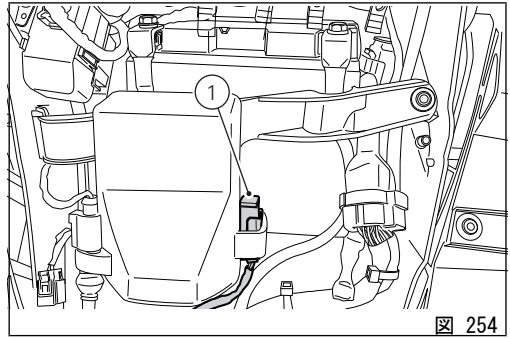


図 254

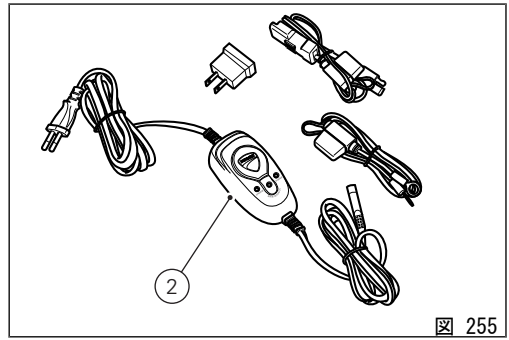


図 255

重要
所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

参考
車両を長期間使用しない場合は（およそ 30 日以上)、ドゥカティ純正バッテリーメンテナー（バッテリーメンテナーキット　部品番号：69924601A（各国）またはバッテリーメンテナーキット　部品番号：69924601AX（日本、中国、オーストラリアのみ）をご使用いただくことをお勧めします。ドゥカティ純正バッテリーメンテナーは内蔵エレクトロニクスが電圧をモニターし、最大 1.5A/h の充電が可能です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

参考
Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。
チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離（A）を測定します。A=38～40 mm でなければなりません。
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

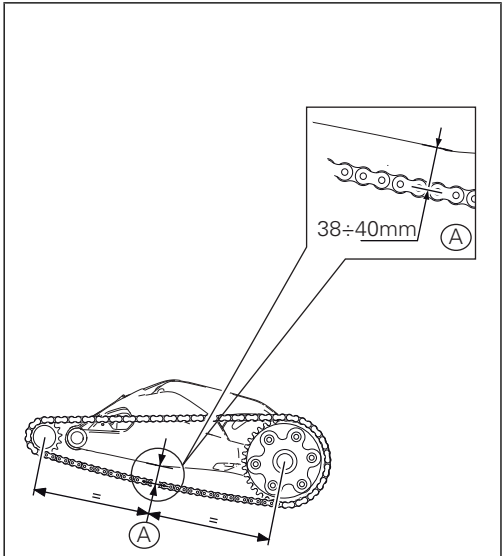


図 256

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

スクリュー（1）の作業を行うには、3 本のスクリュー（4）を緩めて外し、ストーンガード（2）とリアチェーンガード（3）を取り外してください。

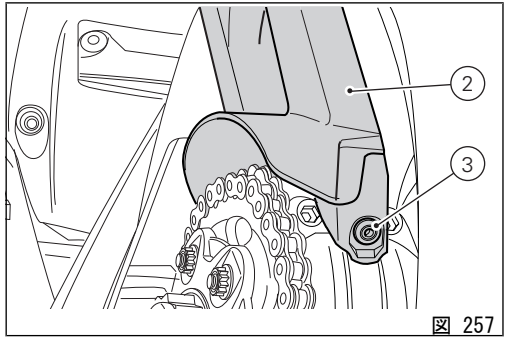


図 257

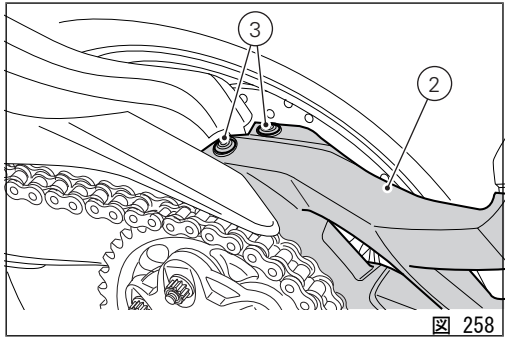


図 258

チェーンの潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ Oリングガスケット付きチェーンが装着されています。
チェーンを洗浄する場合には、ガスケットの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用してください。スチーム洗浄機等は使用しないでください。
洗浄後はコンプレッションエアまたは吸収素材でチェーンを乾かし、SHELL Advance Chain または Advance Teflon Chain で全体を潤滑します。

重要

規定以外の潤滑剤を塗布すると、チェーン、フロント/リアスプロケットに損傷を与えるおそれがあります。

チェーン張力ゲージ（付属）の使用

正確に測定するため、サイドスタンドを使用して車両を駐車します。チェーンが最も張っている部分の張力が正しいことを常に確認してください （そのためにチェーンを等間隔で何ヶ所か測定します）。

参考

チェーン張力は設定したライディングモードによって異なります。プリロードレベル 1 の条件で測定することをお勧めします（ライディングモード "URBAN"、車両セットアップ "ライダーのみ"）。

測定を始める前に、指の力だけでチェーンを一回押して放し、ツール (1) を取り付けます。
チェーン張力ゲージ (1) を下側チェーンスライダー中央固定位置のスイングアームとチェーンスライダーの間に挿入します(図 260)。

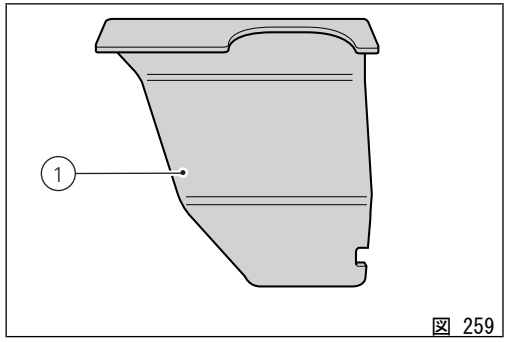


図 259

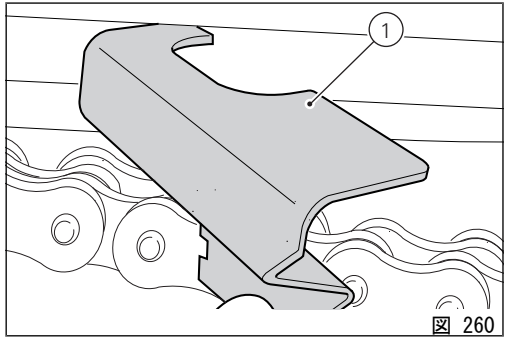


図 260

チェーンの張力を正しく測定するには、チェーンピンの軸（(図 261) の黒線）がチェーン張力ゲージの間隔識別用の溝内側（(図 261) の矢印で示す間隔）と合っていることを確認します。
チェーンピンがこの間隔より上か下にある場合は (図 262)、チェーン張力の調整を実施する必要がありますページ 341。

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

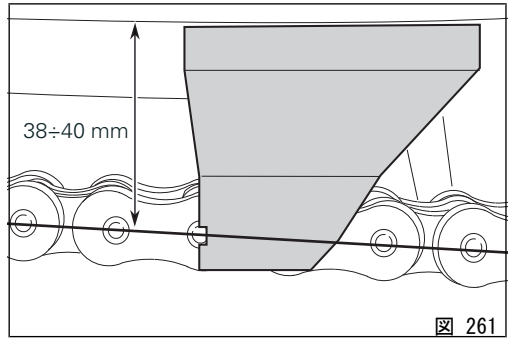


図 261

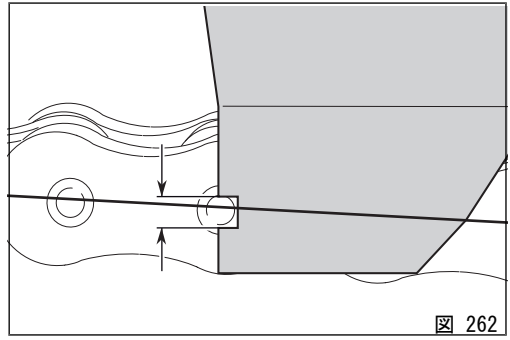


図 262

リアターンインジケーター

スクリュー（1）を緩めて外し、ターンインジケーターマウントからカバー（2）を取り外します。
電球は差し込み式になっています。引き抜くには押して反時計回りに回します。
電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。
ツメを正しくインジケーターマウント上の溝に差し込み、カバー（2）を取り付けます。
スクリュー（1）をねじ込みます。

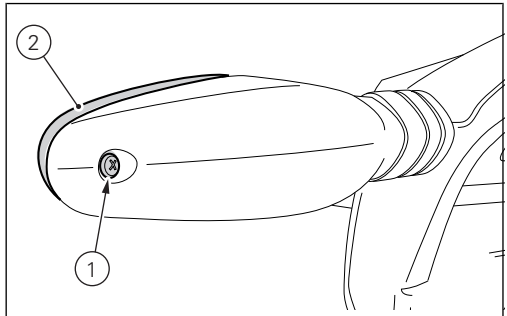


図 263

ヘッドライトの光軸調整

参考
ヘッドライトには左右の光軸調整用に 2 つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

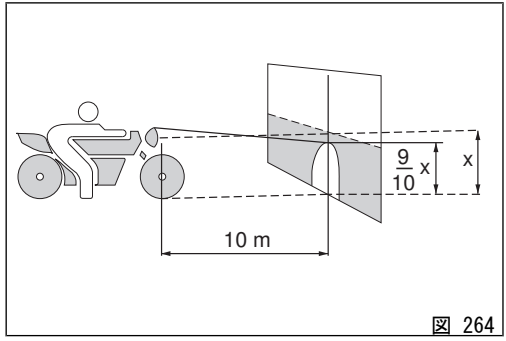


図 264

参考
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

ロービーム/ハイビームランプの光軸高さ調整方法

1) ロービームの光軸を点灯します。
2) 対応する調整スクリュー（1）を操作し、覆われていない光軸の垂直方向を調整します。ヘッドランプのスクリュー（1）を時計方向に回すと、光軸は下に移動します。反対方向に回すと上に移動します。

ハイビームランプはロービームランプに固定されているので、これによりハイビームも調整されます。

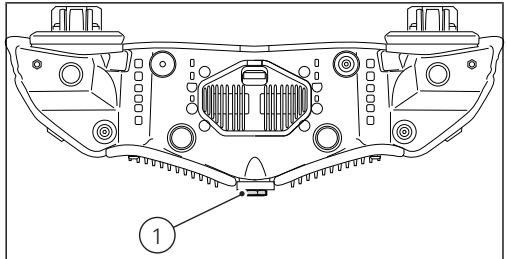


図 265

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

リアビューミラーの調整

ポイント（A）を押しながらミラーを手動で調整します。

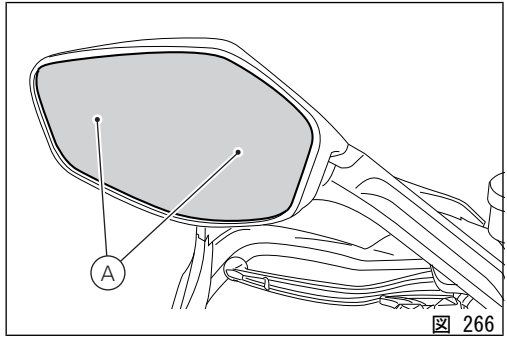


図 266

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.50 bar（ライダーのみ）- 2.5 bar（タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方）。
リアタイヤ空気圧：
2.50 bar（ライダーのみ）- 2.9 bar（タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方）。
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2～ 0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理、交換（チューブレス）

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告
パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告
ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考
タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

警告

フロントホイールの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターがワークショップマニュアルのフロントホイールシャフトの取り外し/取り付けに関連する記載内容に従って実施いたします。

警告

リアホイールのバランスウェイトは図に示す場所に配置してください。

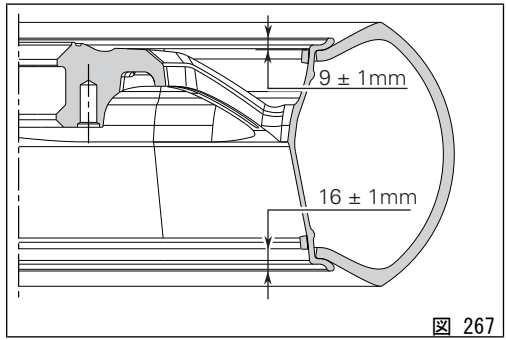


図 267

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S、 図 268) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。

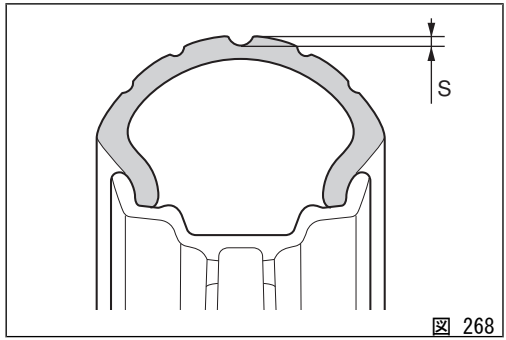


図 268

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓 (1) から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO：MA2、API：SM。
フィラーキャップ (2) を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

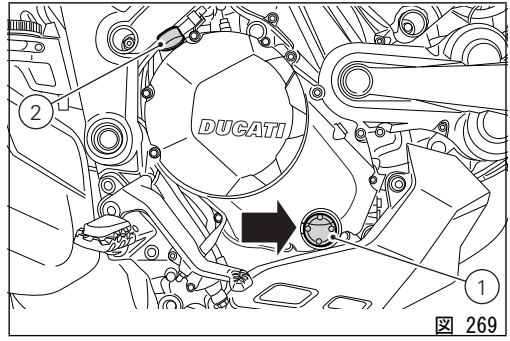


図 269

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SM
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API（米国での分類）および JASO（日本標準）は、オイルが有する特徴を表します。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

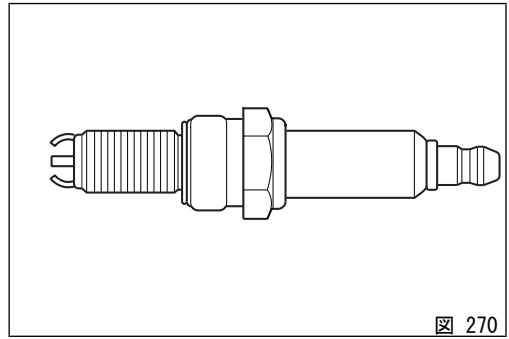


図 270

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。
アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露（くもり）を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統（チェーン、フロント/リアスプロケット等）に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。このパーツの清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1 ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。
結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。
車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては（フランス、ドイツ、イギリス、スイス等）排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム： ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 / マイル x1000	1 / 0.6	15 / 9	30 / 18	45 / 27	60 / 36	期間（月）
DDS 2 による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●					–
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	–
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	–
ヘッドの金属メッシュフィルター付きキャップの清掃				●		●	–
エアフィルターの清掃			●		●		–
エアフィルターの交換				●		●	–
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	–
ホイールハブベアリングの点検				●		●	–
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	–
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	–
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ（チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット）、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	–
フロントフォークオイルの交換				●		●	–
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検（装備している場合）		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換						●	48
クーラントレベルの目視点検、冷却回路の密閉状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティ電気装置の作動点検（サイドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介した LED ヘッドライトの起動（搭載している場合）			●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	15 9	30 18	45 27	60 36	期間（月）
安全装置（ABS、DTC など）、クルーズコントロール装置、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類（サービスブック）への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離（km、mi）または経過時間（月）のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイル x1000	0.6
	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキオイルレベル点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離（km、mi）または経過時間（月）のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量（燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠）: 235 kg
車両重量（液体類およびバッテリーを除く）: 212 kg
車両総重量（最大負荷重量）: 450 kg

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

警告
サイドバッグ、トップケース、およびタンクバッグ装着時の最高速度は 180 Km/h (112mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

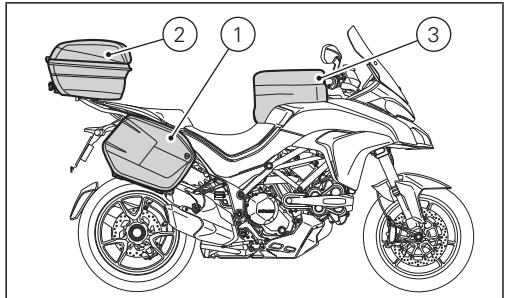


図 271

警告
サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が 30 kg (66 lb) を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。
各サイドバッグ (1) につき最大 10 kg (22 lb)
トップケース (2) は最大 5 kg (11 lb)
タンクバック (3) は最大 5 kg (11 lb)

サイズ

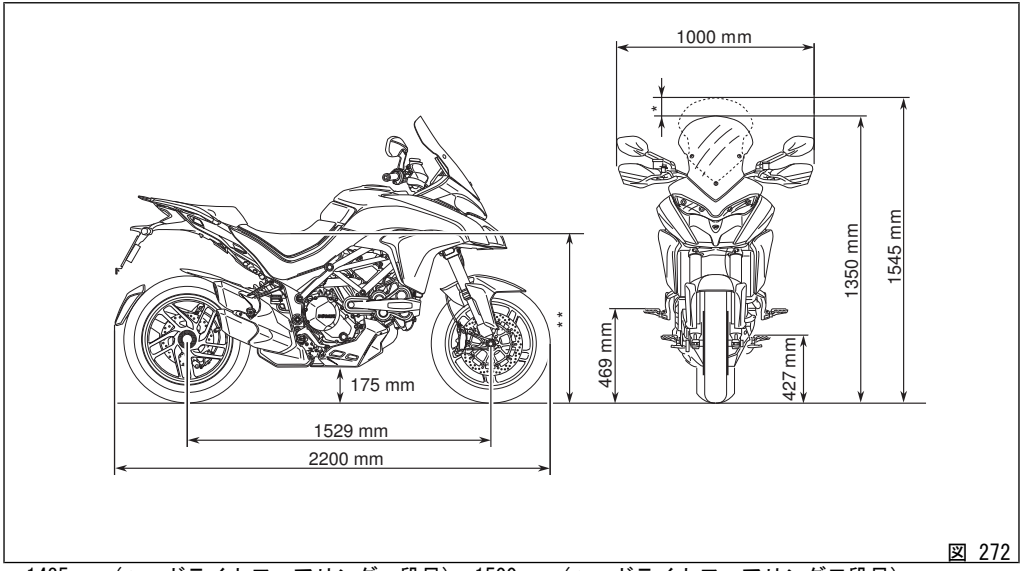


図 272

* 1435 mm（ヘッドライトフェアリング一段目）、1500 mm（ヘッドライトフェアリング二段目）
** 調節可能 825 – 845 mm（オプションローシート： 800 mm）

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットルを含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	20.0 リットル
エンジンクランクケースおよびフィルター	ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO：MA2、API：SM。	4.10 リットル
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA	185 mm（スプリングおよびプリロードチューブなし）
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial（薄めずに使用）	2.5 リットル

重要
燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

DTV システム（"Desmodromic Variable Timing"：デスモドロミック可変タイミング）を備えた Ducati テスタストレッタ、"L" 型 2 気筒、シリンダーごとに 4 バルブ、デュアルスパーク、水冷式。
ボア mm：106
ストローク mm：67.9
総排気量、cm^3：1198.4
圧縮比：12.5 ± 0.5:1

デスモドロミック可変タイミングシステム（DTV）

デスモドロミックシステム：シリンダーごとに 4 本のバルブを、8 本のロッカーアーム（4 オープニングロッカーアーム、4 クロージングロッカーアーム）と吸排気ともに可変タイミング機構（DVT）を搭載する 2 本のカムシャフトが制御。スパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

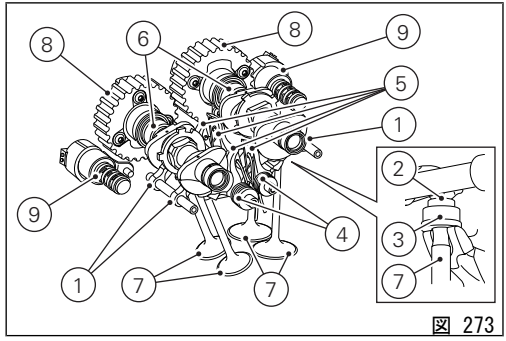


図 273

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング（ロア）ロッカーシム
4) クロージングロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ
8) 可変タイミング機構
9) アクチュエーター

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK
タイプ：MAR10A-J

燃料供給

BOSCH 製エレクトロニックインジェクションシステム
スロットルボディタイプ：フルライドバイワイヤシステムを備えた楕円タイプ
スロットルボディ直径：56 mm
シリンダーごとのインジェクター数：1
インジェクター孔数：10
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレススチール
ハウジング材質：アルミニウム
ディスク径：330 mm
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO、モノブロッククラジアルマウント
フロントブレーキタイプ：M50（2x30）
ブレーキパッド材質：TT 2182

ブレーキポンプ：PR16/19、コーナリング ABS 標準装備

リア

穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：265 mm
車体右側ペダルによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO 2 ピストン、フローティング、コーナリング ABS 標準装備
リアブレーキタイプ：PS 2x28
ブレーキパッド材質：TT 2181 FF
ブレーキポンプ：PS 13
直径 28 mm 2 ピストン固定キャリパー

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチ、油圧式制御、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構付
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：33/61
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/40
変速比：
1 速 15/37
2 速 17/30
3 速 20/27
4 速 22/24
5 速 24/23
6 速 25/22

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー：REGINA
タイプ：136ZRPB2
寸法：5/8″ x 1/16″
リンク数：108

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

本車両の競技用仕様への変更をご希望のお客様には、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比

に関する情報をご提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム

スチール製トレリスパイプフレーム
スチール製トレリスパイプリアサブフレーム
エンジン上にピボットする軽合金製ダイキャスト接続サイドプレート
キャスター角：24°

ホイール

フロント

Y 型 3 本スポーク軽合金キャストリム
寸法：MT3.50x17″

リア

3 本スポーク軽合金キャストリム
寸法：MT6.00x17″

タイヤ

フロント

チューブレスラジアルタイヤ
寸法：120/70-ZR17
メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

リア

チューブレスラジアルタイヤ
寸法：190/55-ZR17
メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

サスペンション

フロント

フロント
OHLINS 製油圧式倒立フォーク、スプリングプリロード、コンプレッションダンピング、リバウンドダンピングの調整が可能。
インナーチューブ径：
48 mm
ホイールトラベル：170 mm

リア

リバウンド/コンプレッションダンピング調整、スプリングプリロード調整が可能な OHLINS 製ショックアブソーバーは、上部がフレームに下部が軽合金スイングアームにピボット連結されています。スイングアームはフレームとエンジンを通過するシャフトを基点に回転します。このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ショックアブソーバーストローク：70 mm（プリロード 51 mm および実ストローク 19 mm）
リアホイールトラベル：170 mm

エキゾーストシステム

レイアウト 2 in 1 膨張室式プリサイレンサー、ラムダセンサー 2 個および触媒 1 個付き。
ストレート多重構造。

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド

ベース（プライマー）アクリフレックスホワイト、部品番号：L0040652（Lechler）
エナメル（バーニッシュ）アクリプラストレッドストーナー SF、部品番号：LMC06017（Lechler）
レーシングブラックフレーム
マーキュリーグレーフレーム
グロッシーブラックリム

アイスバーグホワイト

ベース（プライマー）デゥアルプライマーホワイト、部品番号：DS20052（Lechler）
クリア（クリアコート）Tixo Klarlack、部品番号：96.230（Lechler）
レーシングブラックフレーム
マーキュリーグレーフレーム
グロッシーブラックリム

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライト

LED ロービームランプ：LED Ostar LE UW D1W4 01-5Q6Q-GMKM-T01　2 個
LED ハイビームランプ：LED Oslon Square LCW CQAR.PC-MUNQ-5F7G-1-700-R18　8 個
LED コーナリングランプ：LED Oslon Square LCW CQAR.PC-MUNQ-5F7G-1-700-R18　2 個
LED パーキングランプ：LED SEOUL STW9Q14C　2 個

ターンインジケーター

LED フロントランプ（ヨーロッパ / USA）：Dominant Primax 150 nazy-bhg-mn3-1　11 個
リアランプ（ヨーロッパ / USA）：Lampada RY10W 12V - 10W（オレンジ）　1 個

テールランプ

LED パーキングランプ：LED Osram LA-W5SM-JYKY-24-1　4 個
LED ストップランプ：LED Osram LA-E6SF-BBCB-24-1　10 個
LED ナンバープレートランプ：LED Osram LA-E6SF-BBCB-24-1　10 個

フォグランプ

LED フォグランプ（Enduro カスタマイズ）：LED Altilon LAFL - C4L - 850（各）　1 個

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックスとリアヒューズボックス内に 12 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 1 個あります。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

フロントヒューズボックス（A、 図 274）は左ダッシュボード内側に位置し、点検窓を外すとアクセスが可能になります。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。
リアヒューズボックス（B、図 275）は、ABS コントロールユニット横、リアサブフレーム右側のフレーム上に位置します。リアヒューズボックスおよび ABS ヒューズボックスで作業を行うには、ライダーシートを取り外す必要があります。ページ 288 を参照してください。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記されている保護カバーを外します。

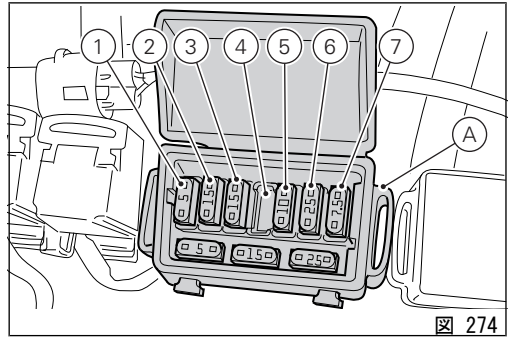


図 274

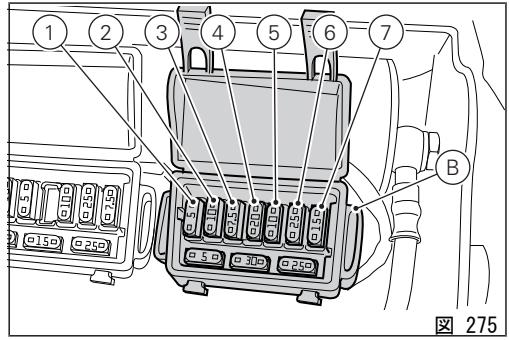


図 275

フロントヒューズボックス凡例 (A)		
配置	保護装置	容量
1	KEY EMS / ABS / IMU	5 A
2	KEY DSB / BBS	15 A
3	KEY ランプ	15 A
4	–	–
5	KEY アクセサリー	10 A
6	+30 Hands Free	25 A
7	+30 診断 / 充電	7.5 A

リアヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
1	+30 EMS LOAD リレー	25 A
2	+30 フューエルポンプリレー	10 A
3	+30 スターターリレー	7.5 A
4	+30 インストルメントパネル	10 A
5	+30 Black Box システム (BBS)	10 A

リアヒューズボックス凡例 (B)		
6	+30 ABS UBMR	25 A
7	+30 ABS UBVR	15 A

メインヒューズ（C）はスターターコンタクター上に設置されています。メインヒューズを交換するには、保護キャップを取り外してください。切れたヒューズは、インナーフィラメント（F）が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要
回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告
表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

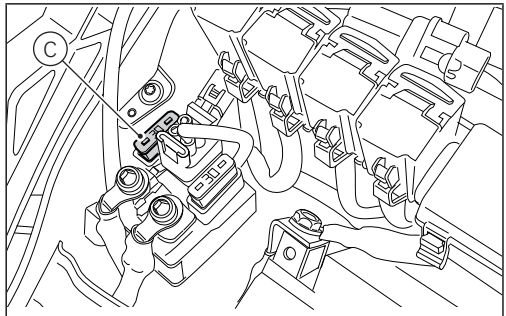


図 276

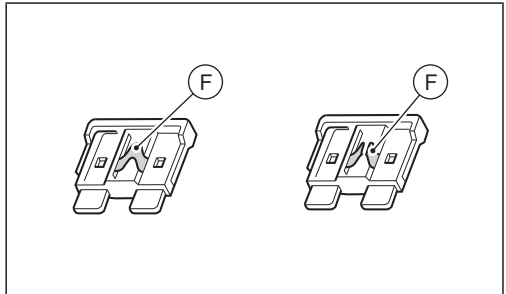


図 277

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1) 12V フロント電源ソケット
2) ナビゲーター
3) Bluetooth
4) ハンドルバー左側スイッチ
5) ハンドルバー右側スイッチ
6) 慣性センサー
7) イモビライザー
8) Hands Free
9) Hands Free リレー
10) バッテリー
11) 配線アース
12) ヒューズコンタクター
13) 左ファン
14) 右ファン
15) ジェネレーター
16) レギュレーター
17) USB ソケット
18) 12V リア電源ソケット
19) データ取得/ 診断
20) 盗難防止アラーム
21) テールライト
22) 右リアターンインジケーター
23) 左リアターンインジケーター
24) 後部配線
25) ナンバープレートランプ
26) 温度センサー
27) 左ヒーテッドグリップコネクター（オプション）
28) 右ヒーテッドグリップコネクター（オプション）
29) エキゾーストバルブモーター
30) リアストップ
31) 車両コントロールユニット (BBS)
32) 燃料レベル
33) ヒューズボックス (2)
34) ヒューズボックス (1)
35) ABS
36) リアスピードセンサー
37) フロントスピードセンサー
38) フューエルポンプ
39) コントロールユニットメインリレー
40) 燃料ポンプリレー
41) スターターリレー
42) インジェクションコントロールユニット A (EMS)
43) インジェクションコントロールユニット B (EMS)
44) ギアセンサー
45) スロットルグリップポジションセンサー (APS)

46) (ETV) バーチカル
47) (ETV) ホリゾンタル
48) バーチカルメインインジェクター
49) ホリゾンタルメインインジェクター
50) バーチカルラムダセンサー
51) ホリゾンタルラムダセンサー
52) エンジン回転数/タイミングセンサー
53) バーチカルセカンダリーコイル
54) バーチカルメインコイル
55) ホリゾンタルセカンダリーコイル
56) ホリゾンタルメインコイル
57) オイル圧センサー
58) ブリードバルブ（パージバルブ）
59) オイル温度
60) STOP スイッチ
61) クラッチスイッチ
62) サイドスタンドスイッチ
63) エンジン温度センサー
64) 気温センサー
65) バーチカル MAP センサー
66) ホリゾンタル MAP センサー
67) バーチカルノックセンサー
68) ホリゾンタルノックセンサー
69) セカンダリーエアセンサー
70) バーチカル EX タイミングセンサー
71) バーチカル IN タイミングセンサー
72) ホリゾンタル EX タイミングセンサー
73) ホリゾンタル IN タイミングセンサー
74) バーチカル EX タイミングコネクター
75) バーチカル IN タイミングコネクター
76) ホリゾンタル EX タイミングコネクター
77) ホリゾンタル IN タイミングコネクター
78) 左フロントターンインジケーター
79) インストルメントパネル
80) 右フロントターンインジケーター
81) ヘッドランプ
82) 警告ホーン
83) フォグランプ（オプション）

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ

P ピンク

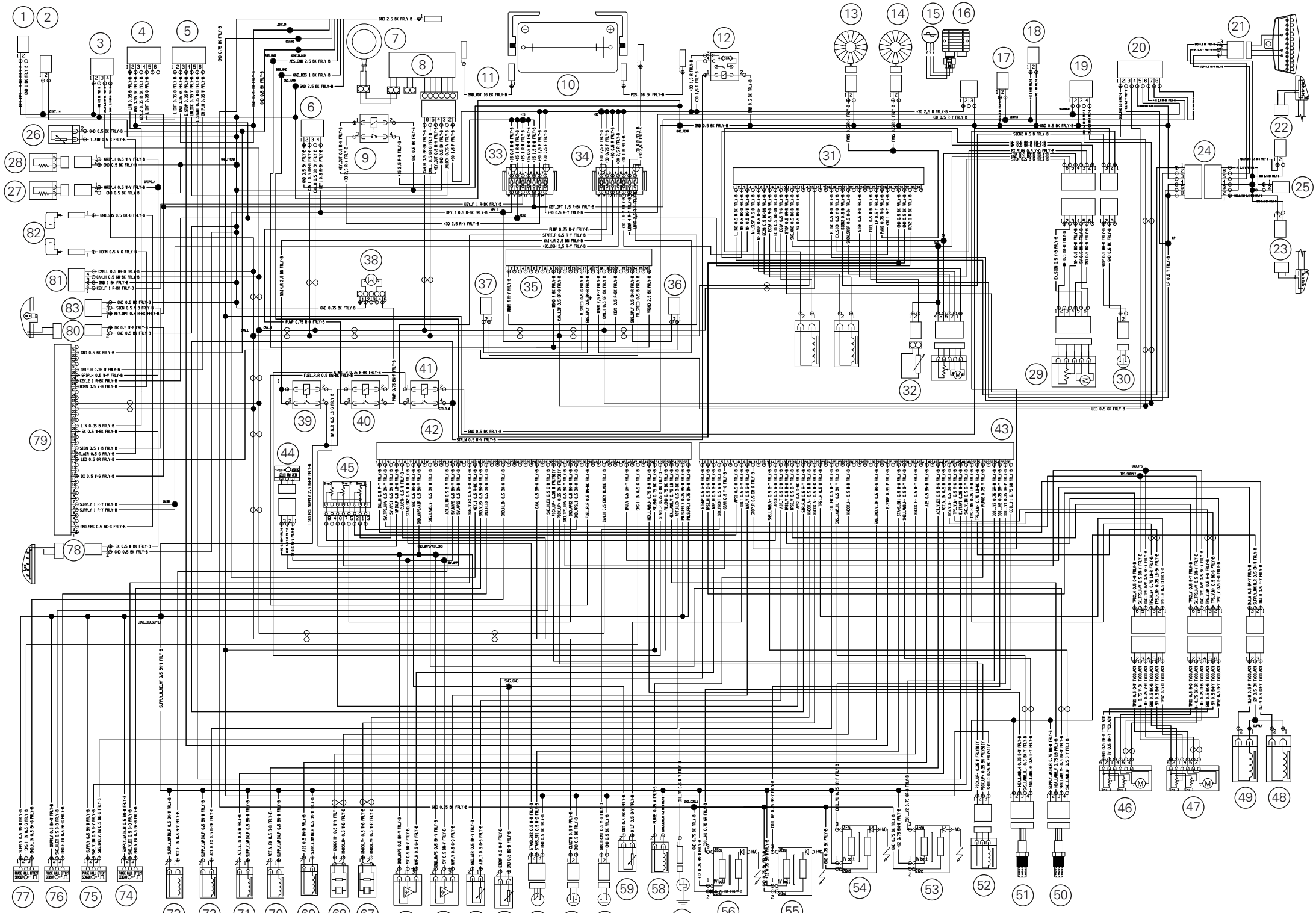
参考
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

KM	DUCATI SERVICE 名	走行距離	日付
1000			
15000			
30000			
45000			
60000			

Stampato 12/2015 Cod. 913.7.297.1B Rev. 02



Multistrada 1200 Pikes Peak

cod. 913.7297.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
subject to the Management and
Coordination activities of AUDI AG